

科目名	科目担当代表教員	ページ数
宗教と文化を学ぶ	廣池 真一	4
言葉と理解 I	黄 美花	7
生物と環境を学ぶ	興野 昌樹	10
科学と社会を学ぶ	末富 弘	14
健康とスポーツを学ぶ	山中 慎	17
情報とメディアについて学ぶ	西川 祥一	20
情報と社会について学ぶ	星野 芳輝	23
音声について学ぶ	奥村 訓代	26
社会学を学ぶ	西川 祥一	29
会計の知識を学ぶ	中田 和則	32
経営の知識を学ぶ	末富 弘	36
考古学を学ぶ	種石 悠	39
比較文化を学ぶ	末富 弘	42
キャリアデザインを学ぶ I	奥村 訓代	45
現代社会と健康を学ぶ	香山 リカ	48
教育学	宮田 龍	51
博物館教育論	種石 悠	54
博物館学概論	種石 悠	57
実践型職業体験	中田 和則	60
伝統文化C(書道)	望月 直子	65
伝統文化B(華道)	上田 敦子	68
アイヌ口承文芸論	岡田 路明	71
アイヌ語について学ぶ	小林 美紀	74
ロシア語について学ぶ	福本 達也	77
ドイツ語について学ぶ	クラウゼ小野 マルギット	80
韓国語について学ぶ	金 昌男	83
中国語について学ぶ	田 桃雨	87
Communicative DiscussionⅢ	高橋 あすか	90
Academic WritingⅢ	高橋 あすか	93
Academic Writing I	瀬名波 栄潤	96
Academic ReadingⅢ	高橋 あすか	100
Academic Reading I	瀬名波 栄潤	103
対人コミュニケーション I	黄 美花	107
プレゼンテーション・スキルⅢ	福本 達也	110
プレゼンテーション・スキル I	星野 芳輝	113
言葉と表現 I	福本 達也	116
言葉と理解Ⅲ	黄 美花	119
法学	永田 均	122
スポーツ実技	山中 慎	125
北洋大学の「社会人学」	西川 祥一	128
変化の時代のキャリア形成	末富 弘	131

プレゼンテーション・スキル	樋口 葵	134
スポーツビジネス論	山中 慎	137
マーケティング論	中田 和則	140
地方行政論	杉山 維彦	144
プログラミング	麻生川 静男	147
情報特別講座	安藤 友晴	150
観光と文化	杉山 維彦	154
アイヌ歴史文化論	種石 悠	157
北海道歴史文化論	中田 和則	160
現代日本文化論	星野 芳輝	164
アジア歴史文化論	田 桃雨	167
ヨーロッパ歴史文化論	クラウゼ小野 マルギット	170
北米歴史文化論	瀬名波 栄潤	173
Business English I	杉山 維彦	177
Extensive Reading I	福本 達也	180
Extensive Reading III	杉山 維彦	183
Intensive Reading III	星野 芳輝	186
Japanese Culture	杉山 維彦	189
Listening and Pronunciation	高橋 あすか	192
Literature	高橋 あすか	195
インテンシブ中国語 I	田 桃雨	198
インテンシブ中国語 II	田 桃雨	201
コミュニケーション論	樋口 葵	204
ビジネス日本語 I	中田 和則	207
中国語コミュニケーション I	田 桃雨	211
基礎ゼミナール I	福本 達也	214
基礎ゼミナール I	福本 達也	217
基礎ゼミナール I	福本 達也	220
専門ゼミナール III	加藤 剛寿	223
専門ゼミナール III	末富 弘	226
専門ゼミナール III	福本 達也	229
専門ゼミナール III	田 桃雨	232
専門ゼミナール III	中田 和則	235
専門ゼミナール III	西川 祥一	239
専門ゼミナール III	星野 芳輝	242
専門ゼミナール III	杉山 維彦	245
専門ゼミナール III	種石 悠	248
専門ゼミナール III	山中 慎	251
専門ゼミナール III	高橋 あすか	254
専門ゼミナール III	黄 美花	257
専門ゼミナール III	奥村 訓代	260
卒業研究	田 桃雨	263

卒業研究	杉山 維彦	.....	267
卒業研究	西川 祥一	.....	271
卒業研究	星野 芳輝	.....	275
卒業研究	高橋 あすか	.....	279
卒業研究	山中 慎	.....	283
卒業研究	種石 悠	.....	287
卒業研究	加藤 剛寿	.....	291
卒業研究	黄 美花	.....	295
卒業研究	奥村 訓代	.....	299
卒業研究	末富 弘	.....	303
卒業研究	福本 達也	.....	307
卒業研究	中田 和則	.....	311
フィールドスタディ	末富 弘	.....	316
実践型インターンシップ I	西川 祥一	.....	319
実践型インターンシップ II	中田 和則	.....	323
地域創生A	末富 弘	.....	328
インターンシップA	西川 祥一	.....	331
インターンシップB	中田 和則	.....	335
博物館学実習	種石 悠	.....	340
情報特別演習A	安藤 友晴	.....	343
日本語教授法 I	奥村 訓代	.....	347

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 文化						
科目名	宗教と文化を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	オンライン	担当教員	廣池 真一		
<b>到達目標</b>							
<p>○多文化共生における宗教問題の重要性について理解する。  ○宗教の危険な側面について必要な知識を学ぶ。  ○宗教に関する新聞社説レベルの日本語文章を読解できるようにする。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>○平常点30%:授業への参加態度、質問への回答等。30点  ○レポート70%:授業中もしくは宿題として課すレポート。17.5点×4回  ○正当な理由なく5回以上欠席した学生には受験資格を認めない。</p>							
<b>テキスト</b>							
<p>毎回教材を配布する。  授業内で必要に応じて挙げる。</p>							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
<p>宗教学の勉強は役に立たないし、優先順位が高くないという考えもあるでしょう。  確かに、宗教が好きか嫌いか、興味があるかないか、信じるか信じないかは自由だし、重要なことではありません。  しかし、「宗教が好きか嫌いか、興味があるかないか、信じるか信じないかは自由だし、重要なことではない」と言える状態を保つことは私たちの社会にとって非常に重要です。  そして、それは当たり前のことではありません。宗教を信じることを強制されたり、信じないことを強制されたりすることは人類の歴史でたくさんあったし、今でもあるからです。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
自分と宗教との関わり、自分の国における宗教について考えておく							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 文化
科目名	宗教と文化を学ぶ
オンライン授業。講義を中心におこなうが、適宜映像資料なども使用する。予習・復習毎週それぞれ2時間ほどが必要。特に配布資料の語彙に注意すること。	
授業計画	
第1回	イントロダクション
第2回	一神教と多神教
第3回	世界宗教と民族宗教
第4回	無宗教と無神論
第5回	死者への追悼
第6回	天国と地獄
第7回	因果応報
第8回	公正世界仮説
第9回	宗教二世とカルト問題
第10回	聖典と原理主義

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 文化	
科目名	宗教と文化を学ぶ	
第11回	宗教と移民	
第12回	宗教と表現の自由	
第13回	宗教と暴力	
第14回	宗教と政治	
第15回	総括	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度等が30%(30点)、授業中もしくは宿題として課すレポートが70%(17.5点×4回)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	言葉と理解 I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	黄 美花		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接自分につながりのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。</li> <li>・指定された読み物から情報を取り出し、説明することができる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への参加度30%(2点×15回)、授業内の課題30%(6点×5回)、聴解20%(4点×5回)、ミニ発表20%(4点×5回)により総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
指定テキストは特になし。 必要に応じて、その都度ハンドアウトを配布する。							
<b>その他</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティビティに積極的に参加すること。</li> <li>・学習した日本語はできるだけ使うように心がけること。</li> </ul>							
<b>講義内容</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の主な言語活動は、「理解すること(聞くこと+読むこと)」である。読む活動に加えて、読んだ内容を簡単に説明する練習も行う。</li> <li>・N3の聴解練習を行う。</li> </ul>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし。							
<b>取得可能な資格</b>							
日本語能力試験N3の合格を目指すことができる。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	言葉と理解 I
<p>・「Intensive Reading I ノート」に課題をまとめて、提出する。          ・学期はじめに設定した各テーマに沿って、各自で週4時間程度の予・復習が必要となる。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション (*簡単なレベルテストを行うので、必ず参加すること)
第2回	読み物①(語彙・表現)
第3回	読み物①(理解・説明)
第4回	読み物②(語彙・表現)
第5回	読み物②(理解・説明)
第6回	N3聴解練習(復習)①、解答と解説
第7回	N3聴解練習(復習)②、解答と解説
第8回	読み物③(語彙・表現)
第9回	読み物③(理解・説明)
第10回	読み物④(語彙・表現)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	言葉と理解 I	
第11回	読み物④(理解・説明)	
第12回	N3聴解練習(復習)③、解答と解説	
第13回	N3聴解練習(復習)④、解答と解説	
第14回	課題の振り返り(「Intensive Reading I ノート」の最終修正、共有)	
第15回	課題提出、フィードバック	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への参加度30%(2点×15回)、授業内の課題30%(6点×5回)
その他	40	聴解20%(4点×5回)、ミニ発表20%(4点×5回)

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		一般教育科目 健康・科学					
科目名		生物と環境を学ぶ					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	興野 昌樹		
<b>到達目標</b>							
<p>自然や生物に対する科学の成果としての見方を理解した上で、現在用いられている保全のキーワード「生物多様性」概念がはらむ問題や、今後のヒトと自然のかかわり方について、より本質的な視点から議論ができるようになること。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>事前学習のレポート(「授業の方法」欄参照)  各日の講義の要点のまとめ(最終日を除く。計4回分。次の講義開始までに提出(復習3時間×4日))  実習における提出物(講義時間内に作成)  定期試験</p>							
<b>テキスト</b>							
<p>1. 羽澄俊裕 2. 2024年 3. 外来動物対策のゆくえ:生物多様性保全とニュー・ワイルド論 4. 東京大学出版会(電子版あり)  1. 渡邊悟歴 2. 2025年 3. 生き物の死なせ方:共栄・共存からはみ出した生物たちの社会学 4. ナカニシヤ出版(電子版なし)</p>							
<b>その他</b>							
<p>野外実習については徒歩で移動できる大学近隣で行う。天候によっては日程・内容を変更する可能性がある。</p>							
<b>講義内容</b>							
<p>1. 進化論や生態学を中心とした、自然や生物の世界のしくみについての学習  2. 室内における花や葉の観察、野外での林の構造などを観察し、講義で学んだ知識(の一部)と結びつける。  3. 「自然」に対するかかわり方について、その根本にある問題を検討する。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
<p>野外実習も行う。草むらや林の中に入れるよう、トレッキングシューズか長靴、肌の露出のない夏服を用意しておくことが望ましい。  事前学習とそのレポート提出が必要(「授業の方法」欄参照)であるため、指定のテキストを入手する必要がある。</p>							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 健康・科学	
科目名	生物と環境を学ぶ	
<p>室内講義をメインとし、大学周辺での野外実習も行う。知識をつける、理解を深めるといった、座学による学習のほか、実習では種の識別の体験や、生物の分布のしかた、変化のサインなどを見て取ることで「自然」が固定した系ではないことを体感する。</p> <p>集中講義という形態のため、各講義日に十分な予習・復習の時間がとれないことから、「テキスト」の項に挙げた2冊の本を読み、その論理展開をまとめて、講義初日に提出してください。その際、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・批判的な視点を忘れないこと。</li> </ul>		
授業計画		
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入：自然とは？</li> <li>・進化学1. 進化」の定義</li> </ul>	
	<table border="1"> <tr> <td>担当教員</td> <td>興野 昌樹</td> </tr> </table>	担当教員
担当教員	興野 昌樹	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進化学2. 進化が起こる仕組みとその性質について</li> </ul>	
	<table border="1"> <tr> <td>担当教員</td> <td>興野 昌樹</td> </tr> </table>	担当教員
担当教員	興野 昌樹	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進化学3. 進化の帰結として生物に課された性質</li> </ul>	
	<table border="1"> <tr> <td>担当教員</td> <td>興野 昌樹</td> </tr> </table>	担当教員
担当教員	興野 昌樹	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態学1. 生態系とは。個体群単独の性質、種間関係</li> </ul>	
	<table border="1"> <tr> <td>担当教員</td> <td>興野 昌樹</td> </tr> </table>	担当教員
担当教員	興野 昌樹	
第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態学2. 群集のしくみと成り立ち</li> </ul>	
	<table border="1"> <tr> <td>担当教員</td> <td>興野 昌樹</td> </tr> </table>	担当教員
担当教員	興野 昌樹	
第6回	室内実習 花や葉の観察。生物の形に現れる進化の傾向や、種を識別する感覚を体感する。	
	<table border="1"> <tr> <td>担当教員</td> <td>興野 昌樹</td> </tr> </table>	担当教員
担当教員	興野 昌樹	
第7回	野外実習1. 自然観察(天候、現地の状況等により内容変更の可能性あり)。「雑草」の分布にも生物多様が見て取れることを知る。	
	<table border="1"> <tr> <td>担当教員</td> <td>興野 昌樹</td> </tr> </table>	担当教員
担当教員	興野 昌樹	
第8回	野外実習2. 防風林での植物の生育の様子や種構成を調べてみる(天候、現地の状況等により内容変更の可能性あり)	
	<table border="1"> <tr> <td>担当教員</td> <td>興野 昌樹</td> </tr> </table>	担当教員
担当教員	興野 昌樹	

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 健康・科学	
科目名	生物と環境を学ぶ	
第9回	野外実習3. 防風林の今後の変化について考えてみる(天候、現地の状況等により内容変更の可能性あり)。 講義室に戻り、振り返りとまとめ。	
	担当教員	興野 昌樹
第10回	・生物と地球の歴史. 生物進化の歴史、大陸移動、気候の変化について。現在の生物の分布	
	担当教員	興野 昌樹
第11回	・分類学. 種を巡る問題、体系化による世界の生物の把握	
	担当教員	興野 昌樹
第12回	・生物多様性概念. その光と影	
	担当教員	興野 昌樹
第13回	・絶滅に向かう仕組み ・外来種問題と外来種擁護論	
	担当教員	興野 昌樹
第14回	・気候変動や外来種問題に対する環境工学・バイオテクノロジーの進展と危険性	
	担当教員	興野 昌樹
第15回	・まとめ. 再び「自然」とは？ 人間との関係を考える ・定期試験	
	担当教員	興野 昌樹
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	30	小本文形式。これからの人と自然のかかわり方について論じるもの(30点)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	前日の講義の要点のまとめ(最終日を除く計4回)(10点×4) 実習の記録等(講義時間内に作成)(10点)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 健康・科学	
科目名	生物と環境を学ぶ	
その他	20	事前学習のレポート(20点)

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 健康・科学						
科目名	科学と社会を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	末富 弘		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化社会における科学技術の活用について、事例を学修する。</li> <li>・地域社会の持続可能性と多様性を維持するための科学技術の活用について考える。特に企業経営の視点から、活用について理解する。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100点で60点以上で単位認定する。5回以上の欠席は単位を認定しない。</p>							
<b>テキスト</b>							
都度、配布する。							
<b>その他</b>							
<p>実務家教員による科目  1977～1998 北海道拓殖銀行  (1986～1988 北海道出向)  1998～2011 北洋銀行  (2000～2007 北海道TLO出向)  2020～ 苫小牧信用金庫非常勤アドバイザー</p>							
<b>講義内容</b>							
<p>少子高齢化や基幹産業の衰退による地域社会の持続可能性や多様性を維持するために、最新の科学技術を活用することを学修する。  学修成果をもとに、地域社会全体及び地域を支える中小企業の経営デジタル化を考える。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
<p>以下のHPを読み込み、Society5.0やデジタル化についてあらかじめ承知しておく。  (Society5.0)内閣府 <a href="https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html">https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html</a>  (デジタル化)北海道経済同友会「道内産業のデジタル化推進に向けて」<a href="https://hokkaido-doyukai.jp/suggestion/202304digital/">https://hokkaido-doyukai.jp/suggestion/202304digital/</a>の中</p>							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 健康・科学
科目名	科学と社会を学ぶ
<p>教員による対面講義が基本であるが、ゲストスピーカーによる講義(オンラインの場合もあり)もある。(ゲストスピーカーの回は未確定・確定しだい編集可能性あり)          事前配布された資料で2時間の予習(記載事項の理解)を行い、講義終了後に2時間の復習(授業内容の確認と習得)を行って補完する。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	Society5.0について学修し、説明できるようにする。(1) Society5.0:社会の課題解決のために、最新の研究成果を活用する。
第3回	Society5.0について学修し、説明できるようにする。(2)
第4回	地域社会のデジタル化について必要性や効果等について理解を進める。
第5回	道内のデジタル化推進事例について学修する。(更別村)
第6回	道内のデジタル化推進事例について学修する。(サツドラHD)
第7回	道内のデジタル化推進事例について学修する。(調和技研)
第8回	デジタル化推進における課題等について調査する。(1)
第9回	デジタル化推進における課題等について調査する。(2)
第10回	【ゲストスピーカー・吉川浩二氏担当】道内地域金融機関におけるデジタル化の必要性や対応状況について調査する。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 健康・科学	
科目名	科学と社会を学ぶ	
第11回	【ゲストスピーカー・吉川浩二氏担当】道内地域金融機関に対するデジタル化推進案について提言をまとめる。	
第12回	道内におけるデジタル人材育成の必要性和現状について学修する。	
第13回	道内におけるデジタル人材育成について提言をまとめる。	
第14回	外部専門講師による説明・指導により、提言を修正する。(1)	
第15回	外部専門講師による説明・指導により、提言を修正する。(2)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100点で、60点以上を単位認定する。5回以上の欠席は単位を認定しない。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 健康・科学						
科目名	健康とスポーツを学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	山中 慎		
<b>到達目標</b>							
健康の維持・増進のために知っておくべき知識を使い、卒業後においても『する・見る・支える』などといった視点から自己に適したスポーツとの関わり方で継続的にかかわることができる。							
<b>成績評価の方法</b>							
評価方法: 毎回の講義内レポート 評価割合: 毎回の講義内レポート(100%)							
<b>テキスト</b>							
『これからの健康とスポーツの科学』安部孝/琉子友男・編 講談社2020							
<b>その他</b>							
特になし							
<b>講義内容</b>							
生活習慣病、運動の効果、筋力トレーニングのメカニズム、ストレス社会との共存、高齢者の筋力トレーニング、骨粗鬆症など、現代を生きる学生が健康で充実した人生を送るために必要な知識。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 健康・科学
科目名	健康とスポーツを学ぶ
・講義形式 ・毎回、授業内での説明について質問をおこなう。1回の講義について ・予習(2時間):講義で取り上げる内容などにより、講義のおおまかな流れをつかんでおくこと。次回対象となる項目については各講義の終了時に説明する。 ・復習(2時間):講義で取り上げた重要なポイントを中心に、見直し、論点を整理すること。	
授業計画	
第1回	ガイダンス 準備学習:シラバスを読んで受講上の注意点について事前に調べておく
第2回	テーマ:健康を推進するための生活スタイルとは 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第3回	テーマ:運動習慣は生活習慣病を予防・改善し、寿命を延ばすことができるか 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第4回	テーマ:肥満はどのようにして起こり、どのように評価するのか 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第5回	テーマ:力強さや爆発的なパワーは何が違うのか 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第6回	テーマ:筋量を増加させ、筋力と筋パワーを高める方法とは 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第7回	テーマ:高い持久力は何によって決まるのか 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第8回	テーマ:あなたもできるフル・マラソン完走のスタミナづくり 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第9回	テーマ:身体機能はどこまで改善できるか 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第10回	テーマ:どのような運動をすると骨が強くなるか 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 健康・科学	
科目名	健康とスポーツを学ぶ	
第11回	テーマ:子どもの体力・運動能力を改善する方法とは 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第12回	テーマ:いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第13回	テーマ:加齢による筋委縮に対する運動と栄養摂取の役割 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第14回	テーマ:動作の巧みさを科学する 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第15回	テーマ:ストレスと運動 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	評価方法:毎回の講義内レポート 評価割合:毎回の講義内レポート(100%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 情報						
科目名	情報とメディアについて学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	西川 祥一		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会におけるメディアの影響力を理解できる</li> <li>・情報をどう評価し、どう受け取るのかについて説明できる。</li> <li>・ジャーナリズムの役割や課題を説明できる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業の積極的参加・リアクションペーパーなどの平常点(60%)、期末レポート(40%)などを目安に総合的に評価します。							
<b>テキスト</b>							
<p>独自の資料を用意し、毎回配付します。          参考図書としては          伊藤守編著(2015)「よくわかるメディアスタディーズ第2版」ミネルヴァ書房</p>							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、書籍などのメディアがつくる文化、コミュニケーション、産業を理解したうえで、その構造や社会への影響を概観します。さらに、メディアの歴史、メディアの現状、ジャーナリズムの課題なども学んでいきます。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし。							
<b>取得可能な資格</b>							
なし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 情報
科目名	情報とメディアについて学ぶ
<p>受講生数によりますが、講義とグループワークを組み合わせさせていただきます。講義形式の時は、リアクションペーパーの提出を求めます。メディアをめぐる問題が発生した場合には、ゲストスピーカーに話していただくこともあります。</p>	
授業計画	
第1回	イントロダクション 授業の概要を説明します。
第2回	ジャーナリストとはどんな仕事か
第3回	戦争とジャーナリズム
第4回	政治とジャーナリズム
第5回	市民社会と公共圏
第6回	表現の自由とジャーナリズム
第7回	米国のジャーナリズム
第8回	日本における「報道」
第9回	権力との位置関係
第10回	報道と取材源の秘匿

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 情報	
科目名	情報とメディアについて学ぶ	
第11回	メディア環境の変化 ネットジャーナリズム	
第12回	フェイクニュースの構造	
第13回	人権と事件報道	
第14回	メディアの誤報	
第15回	総まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への積極的参加・リアクションペーパーの提出(60%)、期末課題のレポート(40%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 情報						
科目名	情報と社会について学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	LL	担当教員	星野 芳輝		
<b>到達目標</b>							
現代社会において欠かせないICTリテラシーの基本技能を習得できる。							
<b>成績評価の方法</b>							
講義への積極的参加 45% (3%×15回) 資料作成や発表 30% (10%×3回) 期末レポート 25%							
<b>テキスト</b>							
なし							
<b>その他</b>							
講義内容は変更になる可能性がある。							
<b>講義内容</b>							
大学生活や社会で必要とされるオンラインツールの使い方や、資料作成ツールの使い方と基礎的なICTリテラシーを学ぶ。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
PCルームで講義を行うが、自身のPCで作業を行いたいものは持ち込んでも良い。(スマートフォンは×。タブレットは可)							
<b>取得可能な資格</b>							
なし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 情報
科目名	情報と社会について学ぶ
<p>講義においては必ずPCまたはタブレットを使用する。また、講義内容を確認し、指示された必要なツールをあらかじめ使用可能な状態にしておくこと。詳しい内容は第一回で説明を行う。  予習として、次に使うツールを使ってみる、または資料作成。  復習として使ったツールを実践してみる(合計週4時間)</p>	
<b>授業計画</b>	
第1回	ガイダンス
第2回	検索 検索の仕方と資料の調べかた
第3回	メールツール 学内メールの使い方とメールの書き方
第4回	クラウドツール 保存ツールの活用
第5回	Word 文章作成ソフトの使い方と文書作成の基本(文書作成)
第6回	Word 文章作成ソフトの使い方と文書作成の基本(ポスター作り)
第7回	Word 文章作成ソフトの使い方と文書作成の基本(発表)
第8回	Excel 表計算ソフトの使い方とデータ作成の基本(基本を知る)
第9回	Excel 表計算ソフトの使い方とデータ作成の基本(実践)
第10回	PowerPoint プレゼンテーションツールの使い方と発表資料の作り方(基本を知る)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 情報	
科目名	情報と社会について学ぶ	
第11回	PowerPoint プレゼンテーションツールの使い方と発表資料の作り方(発表)	
第12回	PowerPoint プレゼンテーションツールの使い方と発表資料の作り方(発表)	
第13回	その他のツール(生成AIの使い方と不正防止のための留意点)	
第14回	その他のツール(生成AIの使い方と不正防止のための留意点)	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	25	期末レポート 25%
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	75	講義への積極的参加 45%(3%×15回) 資料作成や発表 30%(10%×3回)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 言語						
科目名	音声について学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C204	担当教員	奥村 訓代		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の特徴、音声の種類や特徴、産出方法などを正しく観察・分析・記述できる。</li> <li>重要独特の音声の発音と聞き分けができる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業中に課す小テスト 13回×5点 (65%) 定期試験35点 (35%)							
<b>テキスト</b>							
新版『日本語の音声入門』猪塚 元 バベルプレス							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
日本語教師をはじめ言語の「プロ」を目指すためには、音声に関する知識が必須です。この授業では、実際にさまざまな音声の発音・聞き取りを行いながら、音声学および日本語の音声に関する知識を身に付けるとともに、音声について観察・分析・記述する力を養います。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
教科書を準備しておくこと。							
<b>取得可能な資格</b>							
日本語教師課程必修科目							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 言語
科目名	音声について学ぶ
<p>教科書を用いて、音声の種類や特徴、産出方法などを確認していきます。また、実際にさまざまな音声の発音・聞き取りを行いながら、音声に関する基本的な知識を実践的に身に付けていきます。</p> <p>各回の授業の前に、あらかじめ教科書を読んで基本的な用語や概念を理解しておいてください(予習:1時間)。また各回の授業の後には、授業で取り扱った音声について、音声の種類や特徴、産出方法などを確認しながら発音練習を行ってください(復習:3時間)。</p>	
授業計画	
第1回	音声学とは何か
第2回	音声器官
第3回	子音の基本 (1)
第4回	子音の基本 (2)
第5回	子音の基本 (3)
第6回	日本語の子音 (1)
第7回	日本語の子音 (2)
第8回	世界の言語の子音
第9回	母音の基本
第10回	日本語の母音

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 言語	
科目名	音声について学ぶ	
第11回	音節とモーラ	
第12回	超分節素(1)	
第13回	超分節素(2)	
第14回	音声学と音韻論	
第15回	音声学と日本語教師	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	35	筆記試験35点(一部発音問題あり)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	65	授業中に課す小テスト 13回×5点
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 社会						
科目名	社会学を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	西川 祥一		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の読み解く社会学の見方や考え方が理解できる。</li> <li>・社会学がどういう学問かを説明できる。</li> <li>・社会学の考え方をを使い現実社会の理解に役立てることができる</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業の積極的参加30%、グループワークでの発表30%、期末レポート40%							
<b>テキスト</b>							
長谷川公一他編著(2019)「新版 社会学 変貌する社会を言葉にするために」有斐閣							
<b>その他</b>							
受講生の人数や受講生の希望なども考え、授業内容や進め方を変更する可能性もあります。							
<b>講義内容</b>							
社会学とはどういう学問でしょうか。中学、高校と学んできた社会科とはちょっと違った分野です。地理、歴史、公民などとは違い、社会のなぞを解明しようとする学問で、初めて大学が学ぶものだと思います。世界には民族の異なる人間がいっぱいて、価値観は違っていて、そして社会をつくっている。その社会には実は多くのなぞがあります。それぞれの社会にある秩序って何でしょう。社会にあるメディアとはなぜ生まれてなぜ必要なのでしょう。なぜ人間は環境を破壊してきたのでしょうか。これまで、なんとなく受け入れてきた現象をなぞととらえ、「なぜ」と問いかけていく内容にしていきたいと思っています。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
なし							
<b>取得可能な資格</b>							
なし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 社会
科目名	社会学を学ぶ
<p>座学による講義とグループワークを組み合わせ、理解を深めていく。            通常の社会学概論のような定説や既存の知識を体系的に学んでいく方法ではなく、いま私たちの社会にとって問題・課題となっている、環境、少子化、貧困、AIなどを取り上げていく。            予習(2時間) 次回の授業で取り上げる内容についておおまかな流れをつかんでおく。            復習(2時間) 授業で取り上げた重要なポイントを中心に、見直し、論点を整理する。</p>	
授業計画	
第1回	イントロダクション 社会学とは何か
第2回	秩序と権力①
第3回	秩序と権力②
第4回	社会とメディア①
第5回	社会とメディア②
第6回	歴史と記憶①
第7回	歴史と記憶②
第8回	環境問題①
第9回	環境問題②
第10回	格差と貧困①

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	社会学を学ぶ	
第11回	格差と貧困②	
第12回	AIと社会①	
第13回	AIと社会②	
第14回	社会とライフコース①	
第15回	社会とライフコース	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の積極的参加30%、グループワークでの発表30%、期末レポート40%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 社会						
科目名	会計の知識を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	中田 和則		
<b>到達目標</b>							
<p>ビジネス会計の基礎を学習する。財務諸表の見方とポイントを自分自身で理解し、財務諸表の内容について判断できることを到達目標とする。会計に関する正しい知識や分析力を身に着けることは、社会人としてスタートすることに、有利になるだけでなく、職業人生を生き抜くための強力な武器になります。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>参画率(40点×参画率:40%)と中間テスト(30点)＋総合テスト(30点)の試験成績合計(60点:60%)合計100点。5回以上の欠席は単位を認めない。</p>							
<b>テキスト</b>							
大阪商工会議所 2023年「ビジネス会計検定試験 公式テキスト3級 5版」 中央経済社							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
テキストに沿って、講義と問題計算演習を行っていく。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
教科書を入手しておくこと。							
<b>取得可能な資格</b>							
ビジネス会計検定 日商簿記検定							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 社会
科目名	会計の知識を学ぶ
<p>基本的に、適時、学習した項目の確認と知識定着のために問題計算演習を行います。 必ず、計算機(スマホの計算機能使用もOK)を持参すること。毎回予習2時間、復習2時間の問題演習が必要。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション 財務3表(貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書)とは
	担当教員 中田 和則
第2回	貸借対照表 仕組み・様式
	担当教員 中田 和則
第3回	1～2回のまとめ・問題演習
	担当教員 中田 和則
第4回	損益計算書 仕組み・様式 損益計算書のルール
	担当教員 中田 和則
第5回	4回のまとめ・問題演習
	担当教員 中田 和則
第6回	キャッシュフロー計算書 仕組み・様式 分析のポイント
	担当教員 中田 和則
第7回	1～6回のまとめ・問題演習
	担当教員 中田 和則
第8回	過去問対策・中間テスト(第1回目)
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	会計の知識を学ぶ	
第9回	財務諸表分析① 基本分析 成長性分析	
	担当教員	中田 和則
第10回	財務諸表分析② 安全性分析	
	担当教員	中田 和則
第11回	財務諸表分析③ 収益性分析 1株あたり分析 1人あたり分析	
	担当教員	中田 和則
第12回	9～11回のまとめ・問題演習①(財務諸表分析)	
	担当教員	中田 和則
第13回	まとめ・問題演習②(対前年比分析)	
	担当教員	中田 和則
第14回	過去問対策・まとめテスト(第2回目)	
	担当教員	中田 和則
第15回	全体のまとめ	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	参画率(40点×参画率:40%)と中間テスト(30点)＋総合テスト(30点)の試験成績合計(60点:60%)合計100点。5回以上の欠席は単位を認めない。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	会計の知識を学ぶ	
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 社会						
科目名	経営の知識を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	末富 弘		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>経営学の基礎を体系的に学ぶことで、企業経営に関するニュースや文献などを身近なものとして捉えられるようになる。</li> <li>経営に関して、他の教員や企業関係者とも共通の言葉で会話ができるようになる。</li> <li>社会に出たとき、会社に入ったとき、創業するときにも役に立つ経営に関する考え方を習得できる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100点。60点以上が合格である・5回以上の欠席は単位を認定しない。							
<b>テキスト</b>							
都度、資料を配布する。							
<b>その他</b>							
“実務家教員による科目 1977～1998 北海道拓殖銀行 (1986～1988 北海道出向) 1998～2011 北洋銀行 (2000～2007 北海道TLO出向) 2020～ 苫小牧信用金庫非常勤アドバイザー”							
<b>講義内容</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>経営学の学修を進めるための入門編である。</li> <li>経営学を学修したことのない学生にもわかりやすいように、身近な具体例の説明を多用する。</li> <li>必要に応じ、外部講師(ゲストスピーカー)による講義を入れる。</li> </ul>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
新聞やインターネットの経営、ビジネスに関する記事を読む習慣をつける。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 社会
科目名	経営の知識を学ぶ
<p>教員による対面講義が基本であるが、ゲストスピーカーによる講義(オンラインの場合もあり)もある。            事前配布された資料で2時間の予習(記載事項の理解)を行い、講義終了後に2時間の復習(授業内容の確認と習得)を行って補完する。</p>	
授業計画	
第1回	「授業の進め方のガイダンス」 授業の進め方、内容、評価など詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。
第2回	「現代社会における企業経営」
第3回	「企業活動と利害関係者」
第4回	「いろいろな企業形態、株式会社とは何か」
第5回	「財務と会計～企業のお金をめぐる考察」(1)
第6回	「財務と会計～企業のお金をめぐる考察」(2)
第7回	「各種支援機関の活動(経営支援・補助金等)」
第8回	「ベンチャー企業の経営」
第9回	「企業の中での人的資源管理」
第10回	「生産管理」

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	経営の知識を学ぶ	
第11回	「マーケティング～売れるもの・仕組みを作る」	
第12回	「経営戦略」	
第13回	「経営管理」	
第14回	「社会を変えるイノベーションのマネジメント」	
第15回	地域企業の経営(地域金融機関他の経営とは?)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100点。60点以上が合格である・5回以上の欠席は単位を認定しない。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 文化						
科目名	考古学を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C204	担当教員	種石 悠		
<b>到達目標</b>							
現代考古学の方法について理解する。 本州の旧石器時代から古墳時代までの文化・社会について、考古学的に理解する。 本州と北海道の考古学的文化の違いと類似点について、理解する。 考古資料観察の初歩を覚える。							
<b>成績評価の方法</b>							
毎回講義後のリアクションペーパー(45%:3点×15回=45点)、期末レポート(55%:55点×1回=55点)							
<b>テキスト</b>							
テキストは用いないが、岩波書店発行の『先史日本を復元する』全4巻が参考になる。							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
北海道の続縄文文化・オホーツク文化・擦文文化の解説を通じて、北海道と本州の先史文化の類似点と相違点について理解することを旨とする。 冒頭では、現代考古学の方法と課題について解説し、考古学とはどのような学問か理解する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
博物館学芸員							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 文化
科目名	考古学を学ぶ
<p>スライドを用いながら、現代考古学の方法、本州・北海道の先史時代の考古学的文化について解説する。            随時、考古学に関連する学問分野と理化学的分析法についても、解説する。            シラバスを参考に、講義前にわからない語句等を2時間かけて予習し、講義後は関連する考古学的事例について2時間かけて復習を行なう。</p>	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	考古学とはどのような学問か？
第3回	旧石器時代の文化と社会
第4回	縄文時代の暮らし
第5回	縄文時代の社会(前編)
第6回	縄文時代の社会(後編)
第7回	弥生・古墳文化
第8回	続縄文文化
第9回	オホーツク文化(前編)
第10回	オホーツク文化(後編)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 文化	
科目名	考古学を学ぶ	
第11回	擦文文化(前編)	
第12回	擦文文化(後編)	
第13回	アイヌ文化(前編)	
第14回	アイヌ文化(後編)	
第15回	理化学分析・言語と考古学	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	講義後のリアクションペーパー 3点×15回
その他	55	期末レポート 55点

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 文化						
科目名	比較文化を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	末富 弘		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学の基礎を学修し、説明できるようになる。</li> <li>・日本はグローバル化の進展により、多文化社会になってきたが、その中での経営戦略について学修する。</li> <li>・日本企業のグローバル化について学修する。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100点。60点以上に単位を付与する。5回以上の欠席は単位を認定しない。</p>							
<b>テキスト</b>							
都度、配布する。							
<b>その他</b>							
<p>実務家教員による科目  1977～1998 北海道拓殖銀行  (1986～1988 北海道出向)  1998～2011 北洋銀行  (2000～2007 北海道TLO出向)  2020～ 苫小牧信用金庫非常勤アドバイザー</p>							
<b>講義内容</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学の基礎を学修し、説明できるようになる。</li> <li>・日本はグローバル化の進展により、多文化社会になってきたが、その中での経営戦略について学修する。</li> <li>・日本企業の海外進出について学修する。</li> </ul>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 文化
科目名	比較文化を学ぶ
<p>教員が配布する資料を基に学修するが、外部専門家による全問的な講義を行う場合がある。          事前配布資料で講義前に2時間の予習(記載内容の理解)を行い、講義終了後は2時間の復習で講義内容の確認・習得を行い、説明できるようにする。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	経営学とは何かについて学修する。①
第3回	経営学とは何かについて学修する。②
第4回	経営学入門(経営戦略・マーケティング)について学修する。①
第5回	経営学入門(経営戦略・マーケティング)について学修する。②
第6回	東京都の外国人対応について学修する。①
第7回	東京都の外国人対応について学修する。②
第8回	札幌市の外国人対応について学修する。①
第9回	札幌市の外国人対応について学修する。②
第10回	経営管理論(グローバル化)について学修する。①

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 文化	
科目名	比較文化を学ぶ	
第11回	経営管理論(グローバル化)について学修する。②	
第12回	経営管理論(グローバル化)について学修する。③	
第13回	日本企業のグローバル化について提言をまとめる。①	
第14回	日本企業のグローバル化について提言をまとめる。②	
第15回	外部専門家による指導を受け、修正する。	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100点。60点以上に単位を付与する。5回以上の欠席は単位を認定しない。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 入門						
科目名	キャリアデザインを学ぶ I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	奥村 訓代		
<b>到達目標</b>							
1) 社会に常識としての言語・実務マナーを身に着ける 2) 対人関係をスムーズにするマナーを習得する 3) 就職・進学に有利な人間関係構築を図りやすくする							
<b>成績評価の方法</b>							
毎回の予・復習をクイズで採点する。(毎回4点満点×12回=48点) 学期末試験50点 その他2点							
<b>テキスト</b>							
<b>【必携テキスト】</b> 「ビジネス実務まな一検定3級							
<b>その他</b>							
参考文献: 関連する過去問題集などを各自受験の参考にして下さい。 また、諸連絡はTEAMSによって行うので、毎週授業の2日前には確認するように！ (毎回の授業やクイズに関する連絡もここでされるので、要注意！！)							
<b>講義内容</b>							
日本人も留学生も日本での生活(進学・就職)に欠かせぬ言動の基礎、並びに実務のための常識を習得する為に、リアルな問題直面しながら常識や正しい実践方法を学んでゆく。そのための講義とアクティビティを行いながら習得する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
基本的に反転授業なので、必ず授業までにテキストを購入しておくこと (テキストがないと授業も予習確認クイズも受けられません！)							
<b>取得可能な資格</b>							
ビジネス実務マナー検定3級							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 入門
科目名	キャリアデザインを学ぶ I
<p>1) 基本的に授業は反転授業(教科書を読み課題を考えてくる)スタイルで行い、教室活動としては、ディスカッション、グループワーク、ロールプレーなどのアクティブラーニング(学生が能動的に参加する授業展開)を適宜、取り入れ実施していく。</p> <p>2) 従って、1回の授業あたり予習・復習を合わせて4時間程度、学習と予習・復習が必要となる。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション マナー全体像理解 必要語彙カード作成
第2回	あいさつ・お辞儀 基本マナー理解 ロールプレイ
第3回	席次 上座と下座理解 函解問題
第4回	敬語① 基本敬語理解 例文作成
第5回	敬語② 敬語運用 ミニテスト
第6回	電話対応① 受け方理解 音声練習
第7回	電話対応② 取次理解 ロールプレイ
第8回	来客対応① 案内理解 動画教材
第9回	来客対応② 名刺交換理解 ロールプレイ
第10回	文書・メール① メールの構造理解 並び替え問題

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 入門	
科目名	キャリアデザインを学ぶ I	
第11回	文書・メール② 文書表現理解 誤り探し	
第12回	マナー総合 知識整理 過去問演習	
第13回	マナー総合② 状況判断強化 ケーススタディー	
第14回	試験(60分)	
第15回	フィードバック 弱点補強 個別面談	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	50	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	48	予習クイズ(4点×12回)
その他	2	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 健康・科学						
科目名	現代社会と健康を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室		担当教員	香山 リカ		
<b>到達目標</b>							
過剰な情報、激烈な競争、コミュニティの崩壊といった現代社会の課題が個々の人間の心理に与える影響について理解し、そこから心身を守り、健康を保つための知識を得て、技能を身につけることができる。							
<b>成績評価の方法</b>							
講義への出席20%、ディスカッションへの参加姿勢20%、質問や意見発表の回数10%、最終レポート50%の割合により総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
とくになし。授業内で資料を配布する							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
さまざまなデバイスで簡単に情報を手に入れられる現在だが、その質と量は明らかに人間の脳の処理能力を超えている。またフェイクニュースの横行により真偽の判定もむずかしくなっている。そこで起きるさまざまな心理的問題、社会的問題について、実際の症例や事件などを取り上げながら、心理学やメディア社会学などの学術的知見を用いてわかりやすく解説する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
「現代社会の課題と個人の心理への影響」というテーマで自分なりに意見をまとめておく							
<b>取得可能な資格</b>							
とくになし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 健康・科学
科目名	現代社会と健康を学ぶ
<p>座学中心だが、グループディスカッションを何度か行う。初回までに『現代社会の課題と個人の心理への影響』という言葉から連想するものをニュース記事や書籍などを具体的にあげながら、予習しておく(2時間)。さらに「情報過多社会のメリット、デメリット」についても同様にニュース記事や書籍などを具体的にあげながら、予習しておく(2時間)。</p>	
授業計画	
第1回	現代社会とはどんな社会か
第2回	古代を生きた人びと、現代社会を生きる人びと
第3回	情報にふりまわされる人ー①フェイクニュース
第4回	情報にふりまわされる人ー②ニセ健康情報
第5回	情報にふりまわされる人ー③プロパガンダ
第6回	情報にふりまわされる人ー④カルト宗教
第7回	競争社会の弊害と心身への影響
第8回	コミュニティの崩壊と心身への影響
第9回	現代社会で心身を守るためにー①アンガーコントロール
第10回	現代社会で心身を守るためにー②マインドフルネス

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 健康・科学	
科目名	現代社会と健康を学ぶ	
第11回	現代社会で心身を守るために③認知行動療法	
第12回	トラウマ・インフォームド・ケアについて学ぶ①	
第13回	トラウマ・インフォームド・ケアについて学ぶ②	
第14回	予想される新たな問題と心身への影響	
第15回	まとめとディスカッション	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	出席 20% ディスカッションへの参加姿勢 20% 発表、質問の回数 10%
その他	50	最終レポート

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	日本語教師(令和8(2026)年以降) 日本語教師						
科目名	教育学						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	宮田 龍		
<b>到達目標</b>							
1. 教育の本質と理念についての説明ができる。 2. 受講生は、上述の知識を用いつつ、自己の考えを説明できる。 3. 受講生は、将来仕事に就いたときに、自己の教育を向上させることができる。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業の出席は、必ず授業の初めに取ります。授業は、リアクションペーパーを重視しています。 講義の後に、必ずリアクションペーパー 15回×5点=75点 割合75%(講義で理解したことや感想等)の提出を求めます。							
<b>テキスト</b>							
なし							
<b>その他</b>							
人間は、生まれたときから、家庭教育を受けて、学校教育で学び、社会に出ても社会教育で学び続けることが人生の大きな幸せである。大学で、少しでも「教育学」を学び、学ぶことを楽しんでもらいたい。							
<b>講義内容</b>							
*日本語教師としての知識や技術を身に付け、社会に貢献する力をつける。 *教育の本質を学び、生徒指導の力をつける。 *学校の危機管理についても学ぶ。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
なし							
<b>取得可能な資格</b>							
日本語教師							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	日本語教師(令和8(2026)年以降) 日本語教師
科目名	教育学
<p>・人にとって「教育」とは何か。時代ごとに教育の変遷はあるが、現在の教育について個人から社会へ、過去から現在・未来に至る「教育」の意味について検討・学習していく。</p> <p>・教師になった場合の「学校の危機管理について」</p> <p>・授業で、提示した資料の説明等を解説する。</p> <p>毎回の講義において適時に提示したスライド資料を説明するため、講義前にわからない語句等を2時間かけて予習し、講義後は関連文献などを用いて2時間かけて復習を行う。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション ～本科目の意義と学び方～ 「教育とは何か」について
第2回	教育について(家庭教育、学校教育、社会教育)
第3回	「ジャン＝ジャック・ルソー」について
第4回	「ヨハン・ハインリヒ・ペスタロッチ」について
第5回	学習指導と生徒指導について
第6回	「いじめ」問題、学校におけるいじめ等について
第7回	「不登校」問題、学校における不登校等について
第8回	特別支援教育について
第9回	児童生徒の「心のケア」について
第10回	命の教育(自殺予防教育、薬物乱用等)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	日本語教師(令和8(2026)年以降) 日本語教師	
科目名	教育学	
第11回	異文化理解(①異文化理解の総論②海外の在外教育施設③海外の日本語指導教師)	
第12回	学校の危機管理 安全教育(①生活安全について②生活安全について③災害安全について)	
第13回	自然災害への対応(防災教育について)(防犯・デマ等について)	
第14回	自己の教育への設計	
第15回	まとめのレポート提出	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	20	授業での内容から、レポート形式で試験を行う。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	80	(授業内の課題・参加度・出席態度等) 75% 講義後のリアクションペーパーを毎回提出 15回×5点=75点
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	学芸員(令和8(2026)年以降) 学芸員						
科目名	博物館教育論						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C204	担当教員	種石 悠		
<b>到達目標</b>							
博物館教育論の基本的な知識の習得を目指す。							
<b>成績評価の方法</b>							
講義後のリアクションペーパー 3点×15回、45% 期末レポート 55点、55%							
<b>テキスト</b>							
大高 幸・寺島洋子 2022『改定新版 博物館教育論』放送大学教育振興会							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
博物館のもつ重要な性格のひとつに、教育機能がある。 本講義では、テキストを用いながら、博物館の教育機能について、その理論・方法・実践を学ぶ。 担当教員は元学芸員であるため、随時、参考事例についても解説する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
博物館学芸員							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	学芸員(令和8(2026)年以降) 学芸員
科目名	博物館教育論
<p>テキストに沿って、解説する。随時、スライドも用いる。            実際の博物館資料も見ていただく。            毎回、講義終了後に、受講者にリアクションペーパーを記入いただく。            講義前にわからない語句等を2時間をかけて予習し、講義後は関連文献等について2時間をかけて復習すること。</p>	
授業計画	
第1回	博物館教育とは
第2回	博物館が提供する教育資源
第3回	博物館教育の歴史と今日における意義
第4回	博物館展示の教育的意義
第5回	展示と来館者をつなぐ補助教材
第6回	ワークショップについて
第7回	美術館におけるプログラム
第8回	自然科学系博物館におけるプログラム
第9回	アクセス可能な博物館教育
第10回	学校と博物館

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	学芸員(令和8(2026)年以降) 学芸員	
科目名	博物館教育論	
第11回	家族と博物館	
第12回	市民による博物館活動	
第13回	国際化・地域と博物館	
第14回	教育活動の評価	
第15回	利用者主体の博物館教育	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	講義後のリアクションペーパー 3点×15回
その他	55	期末レポート

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	学芸員(令和8(2026)年以降) 学芸員						
科目名	博物館学概論						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C204	担当教員	種石 悠		
<b>到達目標</b>							
博物館の歴史、役割、また学芸員の仕事の内容について、大まかに理解することを目指す。							
<b>成績評価の方法</b>							
毎回講義後のリアクションペーパー(45%、3点×15回)、期末レポート(55%、55点)							
<b>テキスト</b>							
『博物館概論〔新訂〕』2023年発行 放送大学教育振興会							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
2023年に博物館法が改正された現在、学芸員の仕事、多様な博物館とその歴史、博物館の展示、展示の資料とその保存、情報とメディア、博物館と教育、博物館の経営、今後の課題等について概説的に学ぶ。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
博物館学芸員							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	学芸員(令和8(2026)年以降) 学芸員
科目名	博物館学概論
<p>テキストに沿いながら、随時、担当教員が学芸員を務めていた博物館の実例をあげながら、解説する。講義終了後、リアクションペーパーを記入いただく。毎回の講義はテキストの各章ごとに進めてゆくの、講義前にわからない語句等を2時間をかけて予習し、講義後は関連文献などを用いて2時間をかけて復習を行なう。</p>	
授業計画	
第1回	ガイダンス、博物館という施設とその多様性
第2回	学芸員とはなにか
第3回	博物館学とその学問体系
第4回	博物館資料が生まれるまで
第5回	学芸員による資料の収集活動
第6回	学芸員による資料の保存管理
第7回	学芸員による資料の調査研究
第8回	学芸員による資料の展示
第9回	学芸員による普及教育活動
第10回	博物館をめぐる法的枠組みの概要①

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	学芸員(令和8(2026)年以降) 学芸員	
科目名	博物館学概論	
第11回	博物館をめぐる法的枠組みの概要②	
第12回	博物館の歴史①	
第13回	博物館の歴史②	
第14回	博物館の組織体制	
第15回	博物館の展望	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	リアクションペーパー(3点×15回)
その他	55	期末レポート(55点)

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	実習科目 実習科目						
科目名	実践型職業体験						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	実習	時間数		単位	2	授業回数	30
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	中田 和則		
<b>到達目標</b>							
<p>① 苫小牧市内への企業への派遣研修・実習による実務経験を通じ、大学で習得した基礎的・専門的知識を深め、あわせて明確な職業意識を持つ。</p> <p>② 社会人として活躍するために現場担当者とのコミュニケーション能力を養い、積極性を身につける。</p> <p>③ 自分自身の職業人生へのステップとして位置付ける。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>① インターンシップ受入先の評価(40%)</p> <p>② 研修日誌の作成・研修レポート(40%)</p> <p>④ 体験報告会での発表(20%)10分程度で発表してもらいます。報告会の日程や発表内容は別途指示します。</p>							
<b>テキスト</b>							
指定しない。別途指示する。							
<b>その他</b>							
<p>〈インターンシップ期間中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ受入先での実習・研修および業務日誌の作製</li> </ul> <p>〈インターンシップ期間終了後〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修レポートの作製</li> <li>・研修体験報告会での発表</li> </ul>							
<b>講義内容</b>							
インターンシップの実践は企業での各企業毎に、個々の学生と面談およびマッチングにより決定する。なお、基本的にインターンシップ期間は、夏と秋冬の年2回の期間で実施する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	実践型職業体験
<p>この授業は、北洋大学授業担当者もしくは苫小牧市役所担当者、インターンシップ企業による事前相談および面談と、インターンシップの実践から構成される。事前相談や面接は、必要に応じて回数を決定する。  予習は、必要に応じてインターンシップ先の企業調査を行いこと。復習は研修日誌と研修レポートで行う。  予習復習には毎回4時間程度を必要とする。</p>	
<b>授業計画</b>	
第1回	オリエンテーション
	担当教員 中田 和則
第2回	インターンシップの説明(業務日誌・研修レポート・報告会資料作成)
	担当教員 中田 和則
第3回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第4回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第5回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第6回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第7回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第8回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	実践型職業体験
第9回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第10回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第11回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第12回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第13回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第14回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第15回	行動日誌・振り返りシート作成
	担当教員 中田 和則
第16回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第17回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	実践型職業体験
第18回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第19回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第20回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第21回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第22回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則
第23回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則
第24回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則
第25回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則
第26回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目	
科目名	実践型職業体験	
第27回	インターンシップ実施(後期)	
	担当教員	中田 和則
第28回	行動日誌・振り返りシート作成	
	担当教員	中田 和則
第29回	インターンシップ体験報告会資料作成	
	担当教員	中田 和則
第30回	体験報告会: インターンシップ先について、発表する。内容は、①会社と担当業務②インターンシップ参加の目標と達成度③インターンシップでの気づき④将来の夢、取り組みたい事を、パワーポに纏め10分程度でプレゼンする。	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	①インターンシップ受入先の評価(40%) ②研修日誌の作成・研修レポート(40%) ④体験報告会での発表(20%)10分程度で発表する。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	実習科目 実習科目(伝統文化)						
科目名	伝統文化C(書道)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	実習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C202	担当教員	望月 直子		
<b>到達目標</b>							
書道の奥行き、幅、深さが無限であることを実践することで、同じ文字であっても(例えば「道」)書体の変遷から、日本でひらがなが誕生し、日本の文化を表現するに至ることを説明できる。							
<b>成績評価の方法</b>							
実技の清書作品(清書提出をもって出席扱い)を主とし(60%)、授業に取り組む姿勢・マナー・授業確認の為の板書事項記録ノート、実技以外の第1回、第10回目の提出等を総合的に判断し(40%)評価する。							
<b>テキスト</b>							
必要な手本・資料等はプリントを配布する。							
<b>その他</b>							
実務家教員による科目 昭和63年～令和2年書道教室「香雪書道会」にて子どもから大人まで幅広く指導							
<b>講義内容</b>							
中国で誕生した文字の歴史や書体の変遷を知り、我が国に伝来した漢字が世界に誇る日本の仮名文字として生まれ変わり日本文化が発展したこと、文字を素材とした美的表現であることを識り実技を通して伝統文化の奥深さの一端に広く浅く触れることを目的とする。 パソコンが不可欠の世の中ですが、伝統文化に触れ心の豊かさや情緒・癒しや潤いのある生活等を考える機会として欲しい。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>●書道用具(筆、墨、半紙、下敷、文鎮)が無いと実技が成立しないので必ず支度すること。</li> <li>●書いたもの、反故を挟む新聞紙(一日分)を準備すること。</li> <li>●文化(書道)の伝承はある意味に於て修行とも言え、静粛を旨とし誠を尽くし真剣に取り組み集中すること。</li> </ul>							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目(伝統文化)
科目名	伝統文化C(書道)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●書道史・芸術論・用筆法・理論を学ぶ。</li> <li>●説明範書を相当数採り入れ各講義毎に違った題材・作品の清書を行う。</li> <li>●週4時間程度の予習・復習用資料を渡し、次週提出</li> </ul>	
授業計画	
第1回	「書」とはどんなものだろう 「文字」と「書」 実技について
第2回	象形・甲骨文字
第3回	篆書 泰山刻石
第4回	隸書 曹全碑
第5回	草書 書譜
第6回	楷書1 六朝造像記
第7回	楷書2 九成宮醴泉銘
第8回	行書1 蘭亭序
第9回	行書2 争座位文稿
第10回	日本の書について 歴史・書論 中国で誕生した文字は、どのように日本文化として根付いたのか

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目(伝統文化)	
科目名	伝統文化C(書道)	
第11回	空海の手紙 風信帖	
第12回	かないろは歌について	
第13回	変体かな	
第14回	実用書 暑中見舞状を書く	
第15回	まとめ 日本の伝統文化 扇面など	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	実技の清書作品(清書提出をもって出席扱い)を主とし、授業に取り組む姿勢・マナー・授業確認の為に板書事項記録ノートの提出や出席状況(授業時数の1/3以上欠席の場合単位不認定)等を総合的に判断し評価する。 実技以外の第1回、第10回目も出席・提出物により加点します。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	実習科目 実習科目(伝統文化)						
科目名	伝統文化B(華道)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	実習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C202	担当教員	上田 敦子		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して花の季節感や素材感をいかし生活空間に生かせる日本の伝統文化である「華道」を習得</li> <li>・この体験を足掛かりに「いけばな」に興味を持ち、特技や趣味となり自己アピールが出来る</li> <li>・花の彩りの対比や調和を認識できる表現力アップ</li> <li>・生活の中で「いけばな」をする楽しみ(趣味)ができ、心豊かな気持ちを保つ</li> <li>・基本の「いけばな」作品としてある程度の完成度</li> </ul>							
成績評価の方法							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数・授業への意欲度(60%)</li> <li>・実技テスト(1回)・筆記テスト(1回)(20%)</li> <li>・いけばなとしてのある程度の完成度(20%)</li> </ul>							
テキスト							
テキスト・資料等は講師がその都度用意							
その他							
<ul style="list-style-type: none"> <li>○実務家教員による科目／昭和55年に小原流専門教授者登録 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般財団法人小原流／1級家元教授／教務(令和7年～)</li> <li>・公益財団法人 日本いけばな芸術協会／特別会員に認許(令和7年～)</li> </ul> </li> <li>・いけばな教室(3教室)において教授者活動</li> <li>・文化庁委託事業である「伝統文化いけばな親子教室」を開催(令和3年～)</li> </ul>							
講義内容							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いけばなの実技と関連する知識の座学</li> <li>・小原流いけばなの基本的な表現方法の「型」を実習で身につける</li> <li>・季節の植物を実際に手に取り、型におさめ作品にする</li> <li>・日々のストレスを忘れて仲間と楽しい時間を過ごすことも「いけばな」で体験</li> </ul>							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了時に、受講証明書・記念品贈呈</li> <li>・取得単位(初等科基本)を小原流本部に報告することで、在学中に学んだことが受講証明書により証明可能</li> </ul>							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目(伝統文化)
科目名	伝統文化B(華道)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化であるいけばなの歴史や知識を講義し、授業で習得していく型の再確認をする(30分)</li> <li>・基本的な型に必要な表現方法を説明し、実際に花材を手に取り実技(いけばな)をする(40分)</li> <li>・学生一人一人の作品を講師が丁寧に寸評・手直し(15分)</li> <li>・技術が身についてきた時期から、全体の中から参考花(優秀花)を選出し評価する(5分)</li> </ul>	
授業計画	
第1回	座学／いけばなの歴史 いけばなのデモンストレーション(小品2作程度)
第2回	座学／いけばなの基本知識 実技／季節のいけばな(基本) 寸評後、正面玄関ロビーに展示
第3回	座学／いけばなの基本知識 実技／季節のいけばな(基本) 寸評後、正面玄関ロビーに展示
第4回	座学／いけばなの基本知識 実技／季節のいけばな(基本) 寸評後、正面玄関ロビーに展示
第5回	座学／いけばなの基本知識 実技／季節のいけばな(基本) 寸評後、正面玄関ロビーに展示
第6回	座学／いけばなの基本知識 実技／季節のいけばな(基本) 寸評後、正面玄関ロビーに展示
第7回	座学／いけばなの基本知識 実技／季節のいけばな(基本) 寸評後、正面玄関ロビーに展示
第8回	座学／いけばなの基本知識 実技／季節のいけばな(基本) 寸評後、正面玄関ロビーに展示
第9回	座学／いけばなの基本知識 実技／季節のいけばな(基本) 寸評後、正面玄関ロビーに展示
第10回	座学／いけばなの基本知識 実技／季節のいけばな(基本) 寸評後、正面玄関ロビーに展示

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目(伝統文化)	
科目名	伝統文化B(華道)	
第11回	座学/いけばなの基本知識 レポート/いけばなを体験しての感想 実技/季節のいけばな(基本) 寸評後、正面玄関ロビーに展示	
第12回	座学/いけばなの基本知識 実技/季節のいけばな(基本) 寸評後、正面玄関ロビーに展示	
第13回	座学/いけばなの基本知識 /小テスト(筆記) 実技/季節のいけばな(基本) 寸評後、正面玄関ロビーに展示	
第14回	座学/いけばなの基本知識 実技/季節のいけばな(基本) 寸評後、正面玄関ロビーに展示	
第15回	実技/いけばな評価テスト 修了証・記念品授与 正面玄関ロビーに展示	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	20	・実技1回(100点満点) ・小テスト(筆記)1回(50点満点)・実技で習得した中からピックアップ
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	・授業に出席することが重要 ・真剣に取り組む姿勢、授業態度 ・レポート提出
その他	20	・習得した技術を発揮した基本のいけばなの完成度

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	アイヌ口承文芸論						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	岡田 路明		
<b>到達目標</b>							
世界のほとんどの民族には、口承文芸と呼ばれる昔話が伝承されている。そのことは、各文化での口承文芸が担う役割の大きさも示している。授業では、アイヌ民族の口承文芸を始め、日本や世界各地の口承文芸を学ぶことによって、アイヌ文化と日本文化、世界の文化との比較をおこない、民族性の違いを知る。また、アイヌ文化の口承文芸を通して、アイヌ文化を理解することを目指す。							
<b>成績評価の方法</b>							
講義後のリアクションペーパー 3点×15回、45% 期末レポート 55点、55%							
<b>テキスト</b>							
毎回、コピーした資料を配布し、それに沿って授業を進める。							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
文字を持たないアイヌ文化では、口承文芸と呼ばれる言葉による伝承によって、さまざまな事項を伝えていた。ここでは、勇敢な英雄が主人公となる物語から、神々の素性を知らせるもの、事象の起源を伝えるもの、或いは生活の知恵を伝えるものなど、人間が生きていく上で必要となる知識や知恵の伝承がおこなわれている。授業では、口承文芸という優れた文化に触れることによって、アイヌ文化の多様性を知る手掛かりを学ぶ。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
博物館学芸員							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	アイヌ口承文芸論
<p>講義時に示すテキストに沿って、アイヌ文学の特徴と内容を解説する。            随時、アイヌ文化の解説も補う。            シラバスを参考に、講義前にわからない語句等を2時間かけて予習し、講義後は関連する考古学的事例について2時間かけて復習を行なう。</p>	
授業計画	
第1回	口承文芸とは
第2回	近隣諸国の口承文芸
第3回	文化に果たす口承文芸の役割
第4回	アイヌ文化の様々な口承文芸
第5回	ウウェペケレやユカラの内容について
第6回	カムイユカラの内容について
第7回	活字になったアイヌ文化の口承文芸
第8回	『アイヌ神謡集』の出版とその背景
第9回	『アイヌ神謡集』を読み解く1
第10回	『アイヌ神謡集』を読み解く2

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	アイヌ口承文芸論	
第11回	『アイヌ神謡集』を読み解く3	
第12回	『アイヌ神謡集』を読み解く4	
第13回	『アイヌ神謡集』を読み解く5	
第14回	『アイヌ神謡集』を読み解く6	
第15回	アイヌ口承文芸論のまとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	講義後のリアクションペーパー 3点×15回
その他	55	期末レポート 55点

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 言語						
科目名	アイヌ語について学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	小林 美紀		
<b>到達目標</b>							
アイヌ語で簡潔な文をつくることができる。簡潔なアイヌ語文の日本語訳ができる。アイヌ語と自分の知っている言語との共通点や相違点を説明できる。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への参加度や、授業中に実施する課題に対する回答で評価する。 授業内で課題の提出60%。授業への参加度・出席態度40%。							
<b>テキスト</b>							
特になし。							
<b>その他</b>							
講義中に作文を行うので、そのための筆記用具は必ず持参すること。							
<b>講義内容</b>							
自分が習得している言語と異なっている部分、共通している部分を意識しながら、アイヌ語の基礎的な文法を学ぶことで、言語によってどのような部分に違いがあらわれるのかを知り、ことばの仕組みについて理解を深める。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 言語
科目名	アイヌ語について学ぶ
<p>基本的には講義形式だが、学生による作文や日本語訳の発表も行いながら進める。そのため、授業への積極的な参加を求める。作文や日本語訳等について予習復習が毎週4時間程度必要。</p>	
授業計画	
第1回	アイヌ語とは
第2回	表記と発音
第3回	単語の仕組み
第4回	語順
第5回	自動詞と他動詞
第6回	単数形と複数形
第7回	人称接辞1
第8回	人称接辞2
第9回	人称接辞3
第10回	場所表現

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 言語	
科目名	アイヌ語について学ぶ	
第11回	否定文	
第12回	命令文	
第13回	疑問文	
第14回	所有表現	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で課題の提出60%(15点×4回)。授業への参加度・出席態度40%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 言語						
科目名	ロシア語について学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	福本 達也		
<b>到達目標</b>							
<p>ロシア語の文字と発音を正確に理解し使用することができる。          ロシア語の基本的な文法と表現を習得し使えるようになる。日常的な表現と基本的な言い回しについて論じたり説明することができる。          ロシア語の日常的な会話を実践することができる。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への貢献度(30%)、授業内の課題(30%)、期末試験・課題(40%)などにより、総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
<p>テキスト: 桑野隆(2012)『初級ロシア語20課』白水社          参考図書: 匹田剛監修(2019)『ゼロからスタートロシア語文法編』リサーチ</p>							
<b>その他</b>							
授業計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。							
<b>講義内容</b>							
<p>視覚教材と音声教材を使って、目と耳からロシア語を学ぶ。          基本的な文法について解説し練習する。          教材の文章を音読したり、紙に書いたり、音声を聞いたりしてロシア語を練習する。          練習問題などを使って、学んだロシア語を使えるように練習する。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
ロシア連邦教育省認定ロシア語検定試験(TPK)の入門レベルの合格を目指すことができる。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 言語
科目名	ロシア語について学ぶ
<p>毎回教材の文章や単語の意味や発音について説明した後、文章や単語を音読し発音や意味を確認し練習する。音声教材を用いて、発音の確認と聞き取り練習をする。文章の文法を説明し理解させる。教材の表現を用いて対話練習をさせる。復習として課題を作成し提出させる。復習時間は毎週4時間程度必要。</p>	
授業計画	
第1回	文字と発音(1)ロシア語のアルファベット、基本母音文字、子音文字①
第2回	文字と発音(2)アクセント、母音の弱化①、子音文字②、複合母音
第3回	文字と発音(3)硬母音字と軟母音字、子音文字③、硬子音と軟子音、母音の弱化②
第4回	文字と発音(4)子音の同化 基本的なあいさつ語
第5回	第1課 この人は誰ですか？
第6回	第2課 あなたは医者ですか？
第7回	第3課 郵便局はどこですか？
第8回	第4課 これは誰の写真ですか？
第9回	第5課 どこにお勤めですか？
第10回	第6課 彼はロシア語を話します

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 言語	
科目名	ロシア語について学ぶ	
第11回	第7課 どこに住んでいるの？	
第12回	第8課 こんにちは、アンナ！	
第13回	第9課 どこへ行くところ？	
第14回	第10課 何をする予定？	
第15回	総復習、練習問題1～5、第1～10課の内容の会話練習	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない。 授業への貢献度(30%):授業での説明を聞いたり練習を行う時の姿勢態度や積極性の有無・程度などによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):毎回の課題を要求通りに作成し提出したか、課題の問題を正確に配当できているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	期末課題提出(40%):期末課題40点満点、要求された課題を確実に作成し提出したか、課題の問題を理解し適切に解答できているか、正しく答えられているかで評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 言語						
科目名	ドイツ語について学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C204	担当教員	クラウゼ小野 マルギット		
<b>到達目標</b>							
<p>欧州評議会が開発したCEFRというシステムのレベルA1到達を目標とする。            具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゆっくり話してもらえれば、基本的な表現を聞き取れること。</li> <li>2. 単純な文を読んで理解できること。</li> <li>3. 相手と簡単なやり取りができること。</li> <li>4. どこに住んでいるのか、また知っている人について簡単な語句や文を使って話ができること。</li> </ol>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>聞く力と話す(やり取り、表現)力に関しては授業が会話主体のものとなっているため、全授業を通じてその評価を行う。1～5の到達度目標を具体化した授業内容の理解を問う定期試験においては、主として読む力と書く力の評価を行う。100点満点中60点以上を合格とするが、成績は定期試験50%、授業時の聞く力と話す(やり取り、表現)力・積極性・コミュニケーション力・宿題の評価点50%とする(総合的判断)。</p>							
<b>テキスト</b>							
<p>授業に必要な資料をコピーして配布する。配布した資料は紛失しないよう気をつけること。</p>							
<b>その他</b>							
<p>従来とは異なるやり方で取り組みます。授業へは積極的かつ柔軟な姿勢での参加を望みます</p>							
<b>講義内容</b>							
<p>新しいチャンクスや言い回しも学びながら、語彙を増やすことによって、状況に合わせて使えるドイツ語の習得に務める。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
<p>小さなことでも良いから、ドイツに興味を持ってほしい。頭を柔軟にすること。</p>							
<b>取得可能な資格</b>							
<p>特になし</p>							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 言語
科目名	ドイツ語について学ぶ
<p>日常生活の様々なシーンで必要とされるドイツ語の力が身につくよう、基本的文法をふまえてcan-do-listを積極的に活用しながら聞く力・読む力・話す(やり取り、表現)力・書く力の習得を目指す。</p> <p>第1課から簡単な会話を使って、徐々に到達度目標を達成する。生徒はペアで会話の練習をし、自分の状況を伝えるために会話をアレンジできるようになる。コースのすべての教材、すべての会話と音声ファイルなどはTeamsにアップロードされる。受講生は以前の会話をリハーサルし、新しい会話を書き、準備する。</p> <p>毎週講義前に大学や自宅で予習を2時間と講義後に大学や自宅で復習を2時間行うこと。</p>	
授業計画	
第1回	挨拶と自己紹介
第2回	アルファベットとスペリング
第3回	heißenの使い方
第4回	数字について
第5回	年齢と時間について
第6回	大学の勉強について(何処で何を)
第7回	Wie findest du es? に答える
第8回	1-7回の総復習
第9回	他の国、言葉、首都について
第10回	出身や住まいについて

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 言語	
科目名	ドイツ語について学ぶ	
第11回	第三者について	
第12回	食事について	
第13回	趣味について	
第14回	活動について	
第15回	8-14回総復習;試験	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	50	100点満点中60点以上を合格とするが、成績は定期試験50%、授業時の聞く力と話す(やり取り、表現)力・積極性・コミュニケーション力・宿題・小テストの評価点50%の割合で評価する。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	100点満点中60点以上を合格とするが、成績は定期試験50%、授業時の聞く力と話す(やり取り、表現)力・積極性・コミュニケーション力・宿題・小テストの評価点50%の割合で評価する。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 言語						
科目名	韓国語について学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	オンライン	担当教員	金 昌男		
<b>到達目標</b>							
1.韓国語の特徴を理解し実際に適用できるようにする。 2.韓国語で基本的な会話ができるようになる。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への参画度(50%)(5回目から14回目まで10回授業中に質疑応答で評価(5点×10回))、レポート(20%)(14回目に提出)、自己紹介およびインタビューテスト(30%)(15回目に実施)などにより、総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
できる韓国語初級 I (新装版)、株式会社アスク出版、2021年 新装版 第25刷							
<b>その他</b>							
この授業は2単位の授業で、30時間は講義形式で行い、残りの時間は授業中に学んだ重要語彙と文型の復習と次回に学ぶ学習内容の予習をしてもらいたい。また、授業計画(週案)は受講学生達のレベルによって多少変更する場合がある。							
<b>講義内容</b>							
1.韓国語の基本的な文法や表現を説明し、日常会話で適用できるようにする。 2.日本人が習得しにくい発音や表現については十分な説明と練習を行って正確に習得させる。 3.特に日韓両言語の違いと文化の差から誤用が生じやすい表現は繰り返し正確に使えるようにする。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
前もってハングルの字母(母音と子音)と発音などを正確に習得しておきましょう。							
<b>取得可能な資格</b>							
韓国政府が実施する韓国語能力試験(TOPIK)に挑戦することができる。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 言語
科目名	韓国語について学ぶ
1. 毎回基本的なことを講義した後、全体練習を行う。 2. 練習した後、個別に質疑応答しどれぐらい理解しているかを確認する。 3. 主な文法項目と表現をまとめる。 4. この授業は2単位なので予復習を含めて毎週4時間程度勉強することを望む。	
授業計画	
第1回	1. 授業計画の紹介、ハングルの字母と正確な発音、簡単な挨拶表現を学習する。
	担当教員 金 昌男
第2回	2. 第10課 何時からですか。固有語数詞を学習する。
	担当教員 金 昌男
第3回	3. 第11課 いつ日本へ来ましたか。過去形を学習する。
	担当教員 金 昌男
第4回	4. 第12課 お名前は? 敬語表現を学習する。
	担当教員 金 昌男
第5回	5. 第13課 どちらへ行っていましたか。敬語の過去形を学習する。
	担当教員 金 昌男
第6回	6. 第14課 日本と韓国は似ているけど、けっこう違うでしょう? 確認と逆接について学習する。
	担当教員 金 昌男
第7回	7. 第15課 温泉に行きたいです。第1人称と第3人称の希望表現を学習する。
	担当教員 金 昌男
第8回	8. 第16課 プレゼントを買うのでお金をたくさん使います。原因・理由の表現を学習する。
	担当教員 金 昌男

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 言語	
科目名	韓国語について学ぶ	
第9回	9.第17課 結婚式に何を着ていけばいいですか。許可求め、仮定と条件、～すればいいですか。などを学習する。	
	担当教員	金 昌男
第10回	10.第18課 食事でも一緒にしましょうか。勧誘と目的の表現を学習する。	
	担当教員	金 昌男
第11回	11.第19課 写真をちょっと撮っていただけますか。依頼表現を学習する。	
	担当教員	金 昌男
第12回	12.第20課 自転車に乗ることができますか。能力・可能、不可能、現在進行を学習する。	
	担当教員	金 昌男
第13回	13. 有声音化、連音化、鼻音化などを学習する。	
	担当教員	金 昌男
第14回	14. 「ㄱ」弱音化、激音化、濃音化、流音化などを学習する。【レポートの提出】	
	担当教員	金 昌男
第15回	15. まとめ、自己紹介および簡単なインタビューテスト	
	担当教員	金 昌男
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	30	15回目の授業中にオンラインでもって自己紹介および簡単なインタビューテストを行う。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業への参画度(5回目から14回目まで10回授業中に質疑応答で評価(5点×10回))

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 言語	
科目名	韓国語について学ぶ	
その他	20	レポート(14回目に提出してもらう。)

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 言語						
科目名	中国語について学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C325・C326	担当教員	田 桃雨		
<b>到達目標</b>							
中国語の発音表記を見て、正確な発音ができるようになる。基本的な文法をマスターし、中国語の初歩的な聞く・話す能力を身につける。							
<b>成績評価の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み(30%):積極的に会話などの練習に参加する必要がある。毎回の授業は2点とする。</li> <li>・課題の提出(30%):単語テスト、例文作成。毎回の授業は2点とする。</li> <li>・期末試験(40%)</li> </ul>							
<b>テキスト</b>							
「チャレンジ! 中国語 入門編」胡興智 2021 アスク							
<b>その他</b>							
※授業の進み具合によって、構成変更になる場合がある。							
<b>講義内容</b>							
日常生活の中最も基本的な中国語を学び、聞く、話す、読む、書く基礎な中国語能力を身に付ける。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
テキスト 辞書							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 言語
科目名	中国語について学ぶ
教科書に沿って、授業を進める。 スライド、プリント、音声、映像資料を使って、中国語の聞く、読む、書く能力を身に付ける。 授業の予習、復習時間はそれぞれ週2時間とする。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション 中国語と中国語の発音について
第2回	発音しよう
第3回	私の名前は○○です。
第4回	これはなんですか？
第5回	彼女は誰ですか？
第6回	誕生日はいつですか？
第7回	どこにありますか？
第8回	どうやっていきますか？
第9回	なぜ中国語を勉強するの？
第10回	中国語を話せます。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 言語	
科目名	中国語について学ぶ	
第11回	中国語を話すのが上手ですね。	
第12回	昨日は何をしましたか？	
第13回	あなたに教室を紹介しましょう。	
第14回	富士五湖に行ったんです。	
第15回	復習、まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	40	・期末試験
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	・授業への取り組み(30%):積極的に会話などの練習に参加する必要がある。毎回の授業は2点とする。 ・課題の提出(30%):単語テスト、例文作成。毎回の授業は2点とする。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	Communicative DiscussionⅢ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	高橋 あすか		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Communication Strategies(CSs)を活用し、円滑で自然な英会話を実践できる。</li> <li>・会話分析を通じてコミュニケーション能力および相互作用能力を高める具体的アプローチを理解し、実際の会話活動に適用できる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
レポート: 20%, パフォーマンステスト: 80%(20点×4回) 欠席は4回までとする。5回以上欠席した場合は、単位認定不可。 本科目は、15週にわたって実施する課題提出、レポート、実技を含むパフォーマンステスト等の複数の評価要素を総合して評価するため、定期試験、再試験および追試験は実施しない。							
<b>テキスト</b>							
David Kehe, 2014, Conversation Strategies, Second Edition, ProLingua Associates							
<b>その他</b>							
授業計画は、学生の理解度および習熟度の状況に応じて変更する場合がある。							
<b>講義内容</b>							
本授業では、Communication Strategies(CSs)を中心に、英語における円滑な相互作用の仕組みを学ぶ。実際の会話例を用いた会話分析を通じて、ターンテイキング、修復(repair)、確認表現などの相互作用上の特徴を理解する。また、分析結果を踏まえ、CSsを用いた会話練習を行い、実践的なコミュニケーション能力の向上を目指す。必要に応じてAIツールを活用する場合があり、発話の振り返りや表現の改善、会話スクリプトの作成補助等に用いる。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
テキストをとパソコンを各自で必ず用意すること。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	Communicative DiscussionⅢ
<p>本授業では、Communication Strategies (CSs) および会話分析の理論を踏まえ、実際の英語会話データを用いて相互作用の特徴を検討する。各回では、会話例の分析を行った後、CSsを意識したペアワーク活動を通して実践的な会話練習を行う。また、分析結果を踏まえた振り返り活動やレポート作成を通して、自身の発話の特徴や改善点を整理する。必要に応じてAIツールを活用する場合があります。発話の記録整理や表現の確認、レポート作成の補助に用いる。テキストの予習・復習および会話を考察・分析するレポート作成を通じて、毎週およそ4時間程度の自学自習が必要となる。</p>	
授業計画	
第1回	Rejoinders
第2回	Follow-up Questions
第3回	Confirmation Questions
第4回	Clarifications with Question Words
第5回	Keeping or Killing the Conversation
第6回	Expressing Probability
第7回	Interrupting Someone
第8回	Echoing Instructions
第9回	Polite Requests, Responses, and Excuses
第10回	Getting a Response

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	Communicative DiscussionⅢ	
第11回	Soliciting Details	
第12回	Responding with Details	
第13回	Making Comparisons	
第14回	Finding the Right Word	
第15回	Exploring a Word	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート: 20% パフォーマンステスト: 80%(20点×4回)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	Academic WritingⅢ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定テキストを用い、AIツールを適切に活用しながら、論理構成を意識した英語エッセイを作成し、根拠を示して自分の意見を明確に述べることができる。</li> <li>作成した文章の内容を基に、ペアワークやAIを活用した英会話活動において、自分の考えを口頭で説明し、相手の意見に応答することができる。</li> <li>AIを補助的に活用し、自らの文章を推敲・改善するとともに、その修正点を説明することができる。</li> </ul>							
成績評価の方法							
小テスト 50% (5点×10回), パフォーマンステスト 50% (25点×2回) 欠席は4回までとする。5回以上欠席した場合は、単位認定不可。 本科目は、15週にわたって実施する課題提出、小テスト、実技を含むパフォーマンステスト等の複数の評価要素を総合して評価するため、定期試験、再試験および追試験は実施しない。							
テキスト							
KANAMURA Toshiyuki, YOSHIZUKA Hiroshi (2026) GENERATE ENGLISH! Using Supportive AI for Active Learners, SEIBIDO							
その他							
授業計画は、学生の理解度および習熟度の状況に応じて変更する場合がある。							
講義内容							
本授業は、指定テキストを用い、AIを活用しながら英語の発信力を高めることを目的とする。アカデミック・ライティングの基本構成(主張・根拠・具体例・結論)を理解し、論理的かつ一貫性のある英文エッセイを作成する力を養う。また、作成した文章を基に、ペアワークやAIを活用した英会話活動を行い、「書くこと」と「話すこと」を相互に関連付けながら、総合的な英語運用能力の向上を目指す。							
受講登録以前に準備すること							
毎回の授業には、テキストおよびパソコン(スマートフォンは使用不可)を必ず準備のうえ持参すること。							
取得可能な資格							
TOEIC							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	Academic WritingⅢ
<p>各回では、テキストに沿ってライティングの理論や表現を学び、段階的に英文エッセイを作成する。執筆後は、ペアワークやAIを活用して内容確認や推敲を行い、文章の論理性および表現の適切さを改善する。さらに、作成した文章の要点を基に英会話活動を行い、自分の意見を口頭で説明し、相手の意見に応答する練習を行う。AIは補助的に使用し、語彙・表現の確認や文章の改善、対話練習の支援に活用する。毎週4時間程度の予習・復習が必要。</p>	
授業計画	
第1回	Paragraph Writing and AI Use
第2回	Self Introduction
第3回	Daily Life
第4回	School Life
第5回	Travel
第6回	Food
第7回	Hobbies and Technology1
第8回	Hobbies and Technology2
第9回	Social Media1
第10回	Social Media2

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	Academic WritingⅢ	
第11回	Tourism and Hospitality1	
第12回	Tourism and Hospitality2	
第13回	Health and Fitness1	
第14回	Health and Fitness2	
第15回	Health and Fitness3	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	パフォーマンステスト 50% (25点×2回) 小テスト 50% (5点×10回)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	Academic Writing I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C204	担当教員	瀬名波 栄潤		
<b>到達目標</b>							
英語文法に精通することにより、基本的なセンテンス表現ができるようになる。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業でのミニクイズの総点 クイズ10回(各10点):100点							
<b>テキスト</b>							
Let's Write & Learn English! Seibido, 2025. < <a href="https://www.seibido.co.jp/np/en/code/9784791973088/">https://www.seibido.co.jp/np/en/code/9784791973088/</a> >							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・作業</li> <li>・クイズ</li> <li>・解答</li> </ul>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	Academic Writing I
2時間:テキストの予習 2時間:テキストの復習	
授業計画	
第1回	イントロダクション
	担当教員 瀬名波 栄潤
第2回	1「自己紹介」1
	担当教員 瀬名波 栄潤
第3回	1「自己紹介」2
	担当教員 瀬名波 栄潤
第4回	2「友人や家族の紹介」1
	担当教員 瀬名波 栄潤
第5回	2「友人や家族の紹介」2
	担当教員 瀬名波 栄潤
第6回	まとめ1
	担当教員 瀬名波 栄潤
第7回	3「週末の過ごし方」1
	担当教員 瀬名波 栄潤
第8回	3「週末の過ごし方」2
	担当教員 瀬名波 栄潤

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	Academic Writing I	
第9回	4「アルバイト」1	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第10回	4「アルバイト」2	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第11回	まとめ2	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第12回	5「夏の予定」1	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第13回	5「夏の予定」2	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第14回	まとめ3	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第15回	補講:受講生全員が参加できる日を設定します。	
	担当教員	瀬名波 栄潤
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	クイズ10点満点を10回実施、その総計で成績を算出する。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	Academic Writing I	
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	Academic ReadingⅢ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
<b>到達目標</b>							
<p>・テキストのパスセージを用いて、物語の内容や要点を読み取り、内容を要約するとともに、登場人物の行動や背景について自分の考えを英語で説明できる。</p> <p>・テキストのパスセージに含まれる語彙・文法・表現を使用して、読解内容について英語で意見を述べ、英作文を作成し、4技能を統合して活用できる。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>小テスト 50% (5点×10回), パフォーマンステスト 50% (25点×2回)          欠席は4回までとする。5回以上欠席した場合は、単位認定不可。          本科目は、15週にわたって実施する課題提出、小テスト、実技を含むパフォーマンステスト等の複数の評価要素を総合して評価するため、定期試験、再試験および追試験は実施しない。</p>							
<b>テキスト</b>							
Sandra Heyer (2019) True Stories 4, Pearson							
<b>その他</b>							
授業計画は、学生の理解度および習熟度の状況に応じて変更する場合がある。							
<b>講義内容</b>							
<p>本授業は、イラスト付きのリーディングパスセージを中心に構成され、読解問題、語彙・文法問題、会話練習、作文演習を行う。テキストの内容理解を基盤とし、パスセージに含まれる語彙や文法事項を活用しながら、スピーキングおよびライティング活動へ発展させ、技能統合を目指す。また、必要に応じてAIツールを活用し、語彙確認や表現の改善、作文の推敲等を行う。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
毎回の授業には、テキストおよびパソコン(スマートフォンは使用不可)を必ず準備のうえ持参すること。							
<b>取得可能な資格</b>							
TOEIC							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	Academic ReadingⅢ
<p>各回では、リーディングパッセージの内容を確認した後、読解問題や語彙・文法演習を通して理解を深める。その後、本文に出てきた表現を用いて会話練習や英作文を行い、読む・聞く・話す・書くの4技能を関連付けながら学習を進める。AIツールは補助的に使用し、発話練習や作文の自己修正に活用する。毎週4時間程度の予習・復習が必要。</p>	
授業計画	
第1回	Love at First Sight
第2回	The Semong (The Tsunami)
第3回	More Alike Than Different
第4回	Healthy Again
第5回	If You Have Time
第6回	The Buried City
第7回	Misunderstandings
第8回	A Real Bargain
第9回	Black Cats and Broken Mirrors
第10回	Flight 5390

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	Academic ReadingⅢ	
第11回	A Killer in the Back Seat	
第12回	How You Finish	
第13回	The Plain People	
第14回	Does Death Take a Holiday?	
第15回	Sucker Day	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	パフォーマンステスト 50% (25点×2回) 小テスト 50% (5点×10回)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	Academic Reading I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	瀬名波 栄潤		
<b>到達目標</b>							
英文法に精通し英語の文章を日本語に翻訳できるようになると同時に、苫小牧市の外国人に対する行政サービスに精通する。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業での発表(100%)							
<b>テキスト</b>							
Guidebook for Everyday Life (English Version), Tomakomai City, 2025. < <a href="https://www.city-tomakomai-kokusai.jp/暮らし">https://www.city-tomakomai-kokusai.jp/暮らし</a> >							
<b>その他</b>							
参考資料 『みんなの生活ガイドブック(日本語版)』苫小牧市、2025年 < <a href="https://my.ebook5.net/otis-3500/fjneeL/">https://my.ebook5.net/otis-3500/fjneeL/</a> >							
<b>講義内容</b>							
札幌市が発行する外国人のための英語版『みんなの生活ガイドブック』(2025年)を教科書として、翻訳をしながら、苫小牧市の特徴や取組みを理解する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	Academic Reading I
3時間:テキストの予習と予備知識の収集 1時間:復習	
授業計画	
第1回	イントロダクション
	担当教員 瀬名波 栄潤
第2回	教科書1ページ～3ページ ・Introduction
	担当教員 瀬名波 栄潤
第3回	教科書4ページ～7ページ ・Table of Contents ・Tomakomai Map
	担当教員 瀬名波 栄潤
第4回	教科書8ページ～12ページ ・Consultation Service for Foreign Residents ・Japanese Class ・Residence Card
	担当教員 瀬名波 栄潤
第5回	教科書13ページ～17ページ ・Procedures at the City Hall
	担当教員 瀬名波 栄潤
第6回	教科書18ページ～20ページ ・Procedures for Living
	担当教員 瀬名波 栄潤
第7回	教科書21ページ～25ページ ・Garbage
	担当教員 瀬名波 栄潤
第8回	教科書26ページ～33ページ ・Traffic and Transportation
	担当教員 瀬名波 栄潤

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	Academic Reading I	
第9回	教科書34ページ～39ページ ・Emergency ・Medical Care	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第10回	教科書40ページ～45ページ ・Disaster Prevention and Disasters	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第11回	教科書46ページ～48ページ ・Children and Education	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第12回	教科書49ページ～50ページ ・Life in Tomakomai	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第13回	教科書51ページ～52ページ ・Japanese Manners	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第14回	教科書53ページ～54ページ ・Japanese まとめ	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第15回	補講:履修生全員が受講できる日時を設定して行います。	
	担当教員	瀬名波 栄潤
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	教科書を使った授業13回中10回での授業参加度を評価対象とする。各10点=100点

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	Academic Reading I	
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	対人コミュニケーション I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	黄 美花		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・話題を決め、インタビューをすることもインタビューを受けることもできる。</li> <li>・目的達成のための協同作業ができる。</li> <li>・他人の味方について簡単なコメントができる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への参加度30%(2点×15回)、授業内の課題40%(20点×2回)、宿題30%(6点×5回)により総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
指定テキストは特になし。 必要に応じて、その都度ハンドアウトを配布する。							
<b>その他</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティビティに積極的に参加すること。</li> <li>・学習した日本語はできるだけ使うように心がけること。</li> </ul>							
<b>講義内容</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の主な言語活動は、「話すこと(やりとり)」である。</li> <li>・1回目課題:「インタビューをする・インタビューを受ける」(ペアワーク)</li> <li>・2回目課題:「旅行パンフレット作成」(グループワーク)</li> </ul>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	対人コミュニケーション I
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワーク、グループワークの形式で、様々なやりとりを行う。</li> <li>・ルーブリック表を用い、評価及びフィードバックを行う。</li> <li>・学期はじめに設定した各テーマに沿って、各自で週4時間程度の予・復習が必要となる。</li> </ul>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション (*簡単なレベルテストを行うので、必ず参加すること)
第2回	(1)インタビューをする・インタビューを受ける①
第3回	(1)インタビューをする・インタビューを受ける②
第4回	(1)インタビューをする・インタビューを受ける③
第5回	(1)インタビューをする・インタビューを受ける④
第6回	(1)インタビューをする・インタビューを受ける⑤
第7回	(1)インタビューをする・インタビューを受ける⑥
第8回	(2)旅行パンフレット作成①
第9回	(2)旅行パンフレット作成②
第10回	(2)旅行パンフレット作成③

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	対人コミュニケーション I	
第11回	(2)旅行パンフレット作成④	
第12回	(2)旅行パンフレット作成⑤	
第13回	(2)旅行パンフレット作成⑥	
第14回	全体発表、課題の振り返り	
第15回	課題最終版提出、フィードバック	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	70	授業への参加度30%(2点×15回)、授業内の課題40%(20点×2回)
その他	30	宿題30%(6点×5回)

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	プレゼンテーション・スキルⅢ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	福本 達也		
<b>到達目標</b>							
<p>中級後期から上級初期水準の日本語コミュニケーションができる。          会話の相手や場面に合わせて話し方や表現を変えて話すことができる。          調べた情報や自分の考えなどを相手にわかりやすいように発表・伝達・説明できる。          身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作り話すことができる。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への参加度(30%)、授業内の課題(30%)、期末課題・発表(40%)などにより総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
<p>視覚資料、印刷物などを配布          参考資料: 荻原稚佳子他著(2005)『日本語上級話者への道』スリーエーネットワーク          今田恵美他著(2021)『関係作りの日本語会話』くろしお出版</p>							
<b>その他</b>							
授業の内容・計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。							
<b>講義内容</b>							
各時間にそれぞれのテーマや場面で使われる表現などについて学び、練習する。その後テーマに関して自分の考えなどをまとめて発表の準備をした後発表したり話す練習をする。期末にはテーマや場面・内容を選んで課題を作成し発表する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
日本語コミュニケーションⅠ、Ⅱの単位を取得しているか、それに相当する日本語能力を有していることが望ましい。日本人学生の受講も可。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	プレゼンテーション・スキルⅢ
<p>視覚資料や印刷物を利用し表現練習などを行い、話す練習をする。その後テーマの内容についての発表の準備をし、発表をする。必要に応じて、2人でペアを組んでの対話練習やグループでの討論練習、教師との1対1の対話練習などを使い分けながら実践的な会話練習を可能な限り行う。復習としてその週のテーマの課題を作成し次の週に発表・提出させる。復習時間は毎週4時間程度必要。</p>	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	話題・テーマ1:自己紹介
第3回	話題・テーマ2:物事を始めた<物事が始まった>きっかけ、原因、理由、経緯などについて
第4回	話題・テーマ3:自分の特別な体験・経験について
第5回	話題・テーマ4:自分の故郷の町・地域、有名な町・地域、紹介したい町・地域、住んでいる町・地域などについて
第6回	話題・テーマ5:動きの順序、物の使用・操作順序の説明
第7回	話題・テーマ6:スポーツや活動、行事、イベントについての説明・紹介
第8回	話題・テーマ7:好きなこと、興味のあること、趣味などについての具体的な内容の説明
第9回	話題・テーマ8:買い物するときを選ぶ基準、買ったもので気に入っているものについての紹介
第10回	話題・テーマ9:物語、マンガ、アニメなどのストーリー・あらすじ・特徴などについて

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	プレゼンテーション・スキルⅢ	
第11回	話題・テーマ10:最近の出来事・ニュースについて	
第12回	話題・テーマ11:物事の言い換え、比較	
第13回	話題・テーマ12:健康について	
第14回	話題・テーマ13:将来、卒業後の夢・目標・計画について	
第15回	期末課題、総復習会話練習	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない。 授業への参加度(30%):授業での説明を聞いたり練習を行う時の姿勢態度や積極性の有無・程度などによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):毎回の課題を要求通りに作成し提出したか、課題の問題を正確に解答できているかによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	期末課題発表・提出(40%):期末課題40点満点、要求された課題を確実に作成し提出したか、要求された話題・テーマで正しく発表できたかによって評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	プレゼンテーション・スキル I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C103	担当教員	星野 芳輝		
<b>到達目標</b>							
日本語を用いて日常会話を行うことができる。 日本語会話を聞く、話す、わかるようになる。							
<b>成績評価の方法</b>							
講義への積極的参加45%(3%×15回) 発表20%(10%×2回) 期末課題35%							
<b>テキスト</b>							
なし。適宜プリントを配布。							
<b>その他</b>							
講義内容は変更になる可能性がある。							
<b>講義内容</b>							
日常的な会話、公的な場所での会話に必要な表現を学ぶ。 話すことはもちろん、聞くこと、聞いたことがわかるよう、実践を通して学ぶ。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
なし							
<b>取得可能な資格</b>							
なし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	プレゼンテーション・スキル I
主に配布される資料をもとに講義行う。 予習、復習の実施。(週4時間程度)	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	日本語コミュニケーションの基本
第3回	敬語、丁寧な表現
第4回	メール・手紙の書き方
第5回	日本人の省略表現
第6回	若者の会話、親しい人との会話
第7回	慣用句、ことわざ、熟語
第8回	緊急時の対応①
第9回	緊急時の対応②
第10回	地域文化の違い

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	プレゼンテーション・スキル I	
第11回	地域文化の違い	
第12回	方言①	
第13回	方言②	
第14回	ディスカッション	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	35	期末課題35%
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	65	講義への積極的参加45%(3%×15回) 発表20%(10%×2回)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	言葉と表現 I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C204	担当教員	福本 達也		
<b>到達目標</b>							
日本語能力試験N2・N1レベル相当の日本語文法について論じたり説明することができる。 日本語能力試験N2・N1レベル相当の日本語の運用をすることができる。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への貢献度(30%)、授業内の課題(30%)、期末課題・試験(40%)などにより総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
視聴覚資料、印刷物などを配布。場合によって映像を見る。 氏原康子・岡本牧子共著(2015)『日本語能力試験N1文法必修パターン』有限会社Jリサーチ出版 その他の参考文献は授業中に紹介する。							
<b>その他</b>							
授業計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。							
<b>講義内容</b>							
まず、日本語能力試験N2・3レベルの文法事項の復習をし、練習問題を解く。 次に、N1レベルの文法事項を学び、練習問題を解く。 最後にN1レベルの模擬試験の問題を解いてみる。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
日本語能力試験N2・N3レベルの日本語文法の知識を習得していることが望ましい。							
<b>取得可能な資格</b>							
日本語能力試験N2・N1の合格を目指すことができる。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	言葉と表現 I
<p>毎回文法事項の説明をした後、練習問題を解いてみる。その後問題の正答と解説をする。小テストを実施することがある。復習として課題を作成し次の週に提出させる。復習時間は毎週4時間程度必要。期末には模擬テストや課題作成を実施する。</p>	
授業計画	
第1回	N2・3レベルの文法の復習①:助詞
第2回	N2・3レベルの文法の復習②:副詞
第3回	N2・3レベルの文法の復習③:接続詞
第4回	N2・3レベルの文法の復習④:敬語
第5回	N2・3レベルの文法の復習⑤:復習問題1
第6回	N2・3レベルの文法の復習⑥:復習問題2
第7回	N2・3レベルの文法の復習⑥:復習問題3
第8回	N1文型の整理①:時間・時期、立場・状況・場合、限定、例示・比喻の文型・表現
第9回	N1文型の整理②:対比、同時・二つの事柄、不変・無関係、強調・くり返しの文型・表現
第10回	N1文型の整理③:逆接・意外、結果、条件・基準・方法の文型・表現

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	言葉と表現 I	
第11回	N1文型の整理④:様子・傾向、話題・対象、意志・意向の文型・表現	
第12回	N1文型の整理⑤:理由・根拠、目的、可能・不可能の文型・表現	
第13回	N1文型の整理⑥:評価・感想、見方・考え方、NG・禁止の文型・表現	
第14回	N1文型の整理⑦:言葉をつなぐ練習、文をつなぐ練習	
第15回	総復習、期末課題	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない。 授業への貢献度(30%):授業での説明を聴いたり練習をする態度・姿勢、積極性などによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):課題に確実に取り組んでいるか、要求通りできているかによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	期末課題(40%):期末課題40点満点、期末課題に真剣に取り組んでいるか、要求された課題を確実に作成し提出したか、問題がどれだけできたかで評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	言葉と理解Ⅲ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	黄 美花		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学や普段の生活の中で遭遇する身近な話題について、要点を理解することができる。</li> <li>・個人的に関心のある話題について、要点を理解することができる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への参加度30%(2点×15回)、授業内の課題30%(6点×5回)、聴解20%(4点×5回)、ミニ発表20%(4点×5回)により総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
指定テキストは特になし。 必要に応じて、その都度ハンドアウトを配布する。							
<b>その他</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティビティに積極的に参加すること。</li> <li>・学習した日本語はできるだけ使うように心がけること。</li> </ul>							
<b>講義内容</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の主な言語活動は、「理解すること(聞くこと+読むこと)」である。読む活動をに加えて、ミニ発表も行う。</li> <li>・N3とN2の聴解練習を行う。</li> </ul>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
日本語能力試験N3レベルの日本語を習得していることが望ましい。							
<b>取得可能な資格</b>							
日本語能力試験N2の合格を目指すことができる。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	言葉と理解Ⅲ
<p>・「Extensive Reading Ⅲ ノート」に課題をまとめて、提出する。          ・学期はじめに設定した各テーマに沿って、各自で週4時間程度の予・復習が必要となる。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション(*日本語レベルテストを行うので、必ず参加すること) 自己紹介、日本での経験談を共有する
第2回	日本生活わくわく計画(留学期間中の短期・中期・長期目標を立てる)①
第3回	日本生活わくわく計画(留学期間中の短期・中期・長期目標を立てる)②
第4回	私のおすすめ(私の国にはない日本の便利なもの)①
第5回	私のおすすめ(私の国にはない日本の便利なもの)②
第6回	N3聴解練習(復習)①、解答と解説
第7回	N3聴解練習(復習)②、解答と解説
第8回	私の好きな町(観光ガイドブックにない町を紹介する)①
第9回	私の好きな町(観光ガイドブックにない町を紹介する)②
第10回	習慣の違い(自他の地域を比較し、共通点と相違点を短くまとめる)①

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	言葉と理解Ⅲ	
第11回	習慣の違い(自他の地域を比較し、共通点と相違点を短くまとめる)②	
第12回	N2聴解練習①、解答と解説	
第13回	N2聴解練習①、解答と解説	
第14回	課題の振り返り(留学期間中の短期目標の検証、「Extensive Reading Ⅲ ノート」の最終修正、共有)	
第15回	課題提出、フィードバック	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への参加度30%(2点×15回)、授業内の課題30%(6点×5回)
その他	40	聴解20%(4点×5回)、ミニ発表20%(4点×5回)

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 社会						
科目名	法学						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	永田 均		
<b>到達目標</b>							
現代の法的時事問題などを見ながら、社会の変化を通して、法的思考を学び、大学生としての「基礎力を養う授業」で、論理的思考を養成しながら、社会的事実を法的に理解する能力を獲得する。							
<b>成績評価の方法</b>							
原則は、授業時間数の3分の2以上出席で、試験受験の資格が与えられます。 1、レポート 1回 30点 2、期末テスト 1回 70点							
<b>テキスト</b>							
「判例法学(第5版)」西村・西井・初宿 共著、有斐閣ブックス							
<b>その他</b>							
参考図書 憲法判例集(13版)有斐閣新書(渋谷秀樹編著) 小型の六法(ポケット六法、コンパクト六法、デイリー六法など) 加藤「応用倫理学のすすめ」丸善ライブラリー 榎 等「時事法学」北樹出版							
<b>講義内容</b>							
日常生活での、さまざまな基本的法律問題を観察しながら、法的基本的知識を習得し、各法的テーマを通じ論理的な法的思考を獲得する。 関心の高い時事テーマを入れながら進めるため、以下の授業予定項目は適宜順序を入れ替えるものとする。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
行政書士・宅地建物取引士や各種公務員試験(憲法・法学の知識が必要)							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 社会
科目名	法学
<p>基本的にはパワーポイントによるリモート講義を予定。授業の前では、トピックについての特別の準備は不要です。しかし、各授業の後では、トピックで使われた法律用語は、各種試験では重要ですので、確認と専門用語の使用法、取り扱ったトピックでの問題点の所在はどこにあるのか、さらには、取り扱ったトピックの社会的な問題の広がりや影響などは復習レポート、本試験、さらには各種試験に備えること。(予習・復習としてそれぞれ週2時間程度が必要である。)</p>	
授業計画	
第1回	<p>これからの授業の進め方、大切な成績評価方法、中間テストの課題、法律用語の確認など。 なぜ以下の授業テーマを選んだかの説明をする。 その説明後、次の授業に進む。</p>
第2回	<p>1, 社会ルール、道徳、倫理、法とは。 法の性質、法的安定性・正義・合目的性。 法律の制定・立法。 2, 政治と法 法の安定・不安定、トランプ大統領の・・・</p>
第3回	<p>映画でよく見る「市民による裁判」 陪審員制度 外国の市民参加の裁判制度</p>
第4回	<p>市民参加の裁判員制度の諸問題 裁判員制度 日本の民事模擬裁判制度 国民の司法参加—なぜ国民が刑事裁判を？裁判員制度の諸問題 裁判員への声掛け事件など</p>
第5回	<p>争いを話し合いで解決するシステムを小学生から学ぶ？ 紛争解決と法 アメリカの低学年での法教育としてのpeer mediation調停教育 日本とアメリカとの法教育の違い 日米のロースクール(日米の法曹養成機関) 日米の訴訟手続</p>
第6回	<p>あなたはいくらですか？ 人間に値段はあるか？ 生活態度や学歴で変化する損害賠償額</p>
第7回	<p>慰謝料と損害賠償額算定 何を、どのように計算するのか。</p>
第8回	<p>死刑制度 賛成・反対？ あった方がいい？ 賛成論・反対論を見る 死刑囚からの様々な訴え。</p>
第9回	<p>中間確認テスト課題提出。 文章作成練習への注意点 参考文献の引用方法、記号記載方法など説明、</p>
第10回	<p>1, 中間確認課題の講評、注意点を説明 2, 命を絶つ自由はあるか？ 人を救うために、人の命を絶つ？ 森鷗外の小説 安楽死の条件を示した判例</p>

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	法学	
第11回	医者による最近の事件を見る 外国の安楽死の状況 人権としての安楽死	
第12回	宗教と法・信教の自由 最近の宗教事件、判例を見る 判例「エホバの証人」輸血拒否事件 判例 宗教的理由による学校授業欠席の自由 判例 牧会活動の自由と犯人蔵匿	
第13回	差別をなくすための差別は許されるか？ アファーマイブ・アクションと男女差別	
第14回	パート・アルバイトは正社員と同じ権利？ 新しいパート・アルバイト法 労働者の権利 労働3法とは	
第15回	1, 多様な働き方の種類を見る 2, テスト問題提出 3, 解答文作成上の注意点の説明と提出方法の説明。	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	70	授業内容からの問題提出、70点とする
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	30	中間の課題レポートを1回30点とする。
その他	0	上記の評価を基本とし、出席率などを考慮し、総合的に判断する。

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 健康						
科目名	スポーツ実技						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	サッカーグラウンド	担当教員	山中 慎		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動が有する特性や魅力に応じてその楽しさや喜びを言語化して説明できる</li> <li>・運動を適切に行うことによって自己の状況に応じて体力の向上を図ることができ、他者に対しても指導できることを目標とする。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
記録(マラソン)による数値評価を含めた実技の取り組みによって評価する 割合:講義内レポート課題(70%) マラソンの記録(30%)							
<b>テキスト</b>							
特になし							
<b>その他</b>							
・履修人数・天候により内容が変更になることがあります							
<b>講義内容</b>							
将来のスポーツライフに役立てるように楽しみながら走ったり、プレーする。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備しておきたいもの</li> <li>運動着:運動に適した格好・体育館用上靴・ランニングシューズ</li> </ul>							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 健康
科目名	スポーツ実技
実技・実習 1回の講義について ・予習(2時間):講義で取り上げる内容などにより、講義のおおまかな流れをつかんでおくこと。 ・復習(2時間):講義で学んだスキルを次回の講義に向けて学ぶ。	
授業計画	
第1回	ガイダンス 準備学習:シラバスを読んで受講上の注意点について事前に調べておく
第2回	体育館球技 ミニバスケットボール(半面)または他の球技 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する
第3回	体育館球技 ミニバスケットボール(半面)または他の球技 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する
第4回	屋外マラソン(ジョギング) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する
第5回	屋外マラソン(ジョギング) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する
第6回	体育館球技 ミニバスケットボール(半面)または他の球技 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する
第7回	屋外マラソン(ジョギング) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する
第8回	屋外マラソン(ジョギング) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する
第9回	将棋 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する
第10回	体育館球技 ミニバスケットボール(半面)または他の球技 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 健康	
科目名	スポーツ実技	
第11回	将棋 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する	
第12回	体育館球技 ミニバスケットボール(半面)または他の球技 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する	
第13回	体育館球技 ミニバスケットボール(半面)または他の球技 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する	
第14回	将棋 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する	
第15回	体育館球技 ミニバスケットボール(半面)または他の球技 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容(ルール等)を予習する	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	記録(マラソン)による数値評価を含めた実技の取り組みによって評価する 割合: 講義内レポート課題(70%) マラソンの記録(30%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 キャリア・情報						
科目名	北洋大学の「社会人学」						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C103	担当教員	西川 祥一		
<b>到達目標</b>							
<p>1 大学教育の中でのインターンシップの位置づけや効果を学び、インターンシップで学ぶ目的を明確にできる。</p> <p>2 自分の適してる業種を見つけ、インターンシップ研修の目的を達成するための行動計画を立てることができる。</p> <p>3 ビジネスマナー、ビジネス文書、メールの書き方やインターンシップに必要なIT技術を習得できる。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業の参加態度(50%)、授業中に行うワークの作成・提出(50%)などにより総合的に評価します。							
<b>テキスト</b>							
オリジナル資料を配布します。							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
<p>文科省、厚労省、経産省の三省合意により、インターンシップの結果が、企業側の採用の際に使うことが可能になり、インターンシップが採用試験の一環になる傾向が強まっています。インターンシップの位置づけと教育的効果を理解したうえで、自分自身に合ったインターンシップの目的を各自考えます。就職支援会社の協力を得て、実践的な授業も盛り込みます。</p> <p>この授業を履修したうえで、「実践型インターンシップⅠ」「実践型インターンシップⅡ」で、実際にインターンシップを経験してもらおうと思います。この授業ではインターンシップについても困らないノウハウを身に付けてもらいます。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
なし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	北洋大学の「社会人学」
<p>自己分析や業界研究などは、知識や情報を伝える座学ばかりでなく、ワークをしてもらい多角的に理解を深めてもらいます。6月20日、21日に札幌で行われる合同企業説明会(インターンシップ説明会)に参加して、各企業がどんなインターンシップを提案しているのかを、企業担当者から学びます。また、インターンシップを実施している地元企業の具体的な内容を実際に本学にきてもらい説明する授業も計画しています。インターンシップ参加へのハードルを低くできるような工夫をしていきます。</p> <p>1回の授業ごとに、 予習(2時間)次回の授業で取り上げる内容についておおまかな流れをつかんでおく。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	就活スタートアップ
第3回	社会人基礎力とは
第4回	大学ではこんなことに頑張ろう
第5回	自己分析①
第6回	企業・業界研究
第7回	自己分析②
第8回	インターンシップとは、合説活用法
第9回	どこのブースにいきますか
第10回	休講(合説参加の振り替え)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	北洋大学の「社会人学」	
第11回	合説参加報告①	
第12回	合説参加報告②	
第13回	ビジネスマナー	
第14回	業界研究・心理テストの適性判断	
第15回	総まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業の参加態度(50点)
その他	50	授業中に行うワークの作成・提出(50点)

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 キャリア・情報					
科目名		変化の時代のキャリア形成					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	末富 弘		
<b>到達目標</b>							
就職活動に不安が生じないようにする「就職実践講座」で、春学期の「職業能力とキャリア」との通年授業を想定しています。自分の得意、不得意がきちんと把握でき、自己PRを自分の言葉で説明し、自分の希望するキャリアや就職企業を設定できるようになります。社会、企業が求める行動力や協調性を強化することも可能です。							
<b>成績評価の方法</b>							
課題などの提出物(40%:5点×8回)、授業への積極的参加・授業態度(15回×4点 60%)							
<b>テキスト</b>							
必要に応じて資料を配付します。							
<b>その他</b>							
実務家教員による科目 1977～1998 北海道拓殖銀行 (1986～1988 北海道出向) 1998～2011 北洋銀行 (2000～2007 北海道TLO出向) 2020～ 苫小牧信用金庫非常勤アドバイザー							
<b>講義内容</b>							
主に、就職活動の正念場を迎えている3年生を想定し、この講座を受講することで、社会人としての心構え、就職活動の準備を身につけていきます。春学期の「職業能力とキャリア」に続くもので、通年で履修することを想定しています。すでに多くの3年生が8月にインターシップに参加していると考え、秋・冬にも開催されるインターンシップの準備、来年3月からの採用のための面接を想定し、エントリーシートを作成方法、面接試験対策、筆記試験対策など実践的なノウハウを身につけ、社会で活躍できる人材になるためのスキルを磨きます。本学学生の採用を検討している企業の担当者、卒業生の就活体験談、就職情報支援会社による講座も盛り込みわかりやすいノウハウをお伝えします。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし。							
<b>取得可能な資格</b>							
なし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	変化の時代のキャリア形成
<p>授業に出て、集中して学び、知識を習得する。事前の準備はいりません。課題は多少あります。座学形式よりは、ワークシートへの記入、SPI模擬試験への参加、卒業生などの体験談を聞く学習など、密度の濃い内容です。就職情報会社の講師による「対策講座」も盛り込み、より実践的な内容にしていきます。予習復習に毎週4時間程度が必要です。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	業界選考の視野を広げる方法
第3回	自己分析
第4回	企業説明会(日程変更の場合有り)
第5回	企業説明会(日程変更の場合有り)
第6回	合同企業説明会の活用方法
第7回	秋、冬のインターンシップを活用する
第8回	SPI模擬試験(能力検査)を受験しよう①(日程変更の場合有り)
第9回	SPI性格検査で自分の得意、不得意を知ろう
第10回	自己分析と業種適性検査

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	変化の時代のキャリア形成	
第11回	ESの書き方①	
第12回	ESの書き方②	
第13回	ESの書き方③	
第14回	面接試験対策(動画をつかって、失敗例を学ぶ)	
第15回	総まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	課題などの提出物(40%:5点×8回)、授業への積極的参加・授業態度(15回×4点60%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 キャリア・情報						
科目名	プレゼンテーション・スキル						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	LL	担当教員	樋口 葵		
<b>到達目標</b>							
<p>WordやExcel、PPTの使い方をマスターする。            大学の授業で求められるプレゼンテーション用スライドを作成できる。            大学の授業で求められるプレゼンテーションを实践できる。(人前での発表に慣れるとともに、質疑応答ができるようになる。)</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>プレゼンテーション発表(30%)、発表に対する評価と質疑応答(25%)、各回で課す課題への取り組み(45%:15回×3点)            全15回中11回以上の出席かつ、100点中60点以上で単位を取得できる。</p>							
<b>テキスト</b>							
<p>特にないが、参考文献としては、以下の通りである。            大出淳, 2020, 「アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門 ― 学生のためのプレゼン上達術」, 慶應義塾大学出版会</p>							
<b>その他</b>							
<p>学生からの質問受付方法としては、a_higuchi@hokuyo.ac.jpまたはTeamsのチャットで受け付ける。            授業の進み具合、受講生の人数によって、授業計画の内容は変更する場合もある。</p>							
<b>講義内容</b>							
<p>大学生にとってプレゼンテーションの機会、卒業論文の発表の他、様々な授業での課題としての発表の場がある。効果的なプレゼンテーションを行うためには技術と訓練が必要となる。本授業では、こうした発表の際、必要となってくるプレゼンテーションスキルを学ぶ。            WordやExcel、PPTの使い方をマスターしたうえで、効果的なプレゼンテーションの仕組み(話し方、見せ方、構成など)を説明できるようにする。グループワークやペアワーク、人前での発表を行ってプレゼンテーションに慣れながら実践的に行う。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
<p>プレゼンスライド等作成にあたって、ノートパソコンが必要である。必ず授業開始前までに持参できるよう準備しておくこと。本授業は、LL教室(パソコン教室)で行う予定をしているが、例年「パスワードがわからない」という受講生がちらほら見られ、起動に時間がかかっている。自分自身のノートパソコンでの作業を推奨する。</p>							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	プレゼンテーション・スキル
<p>授業は教員からの一方的な指導スタイルだけではなく、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング(学生が能動的に参加する授業展開)も適宜、取り入れて実施していく。個人ワークほか、グループワーク、ペアワークを行ってプレゼンテーション作成や発表を行う場を設ける。 WordやExcel、PPT等を使用した課題を課し、1回の授業あたり予習・復習を合わせて4時間程度、実施する必要がある。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	プレゼンテーションとは
第3回	Word、Excelの使い方・実践
第4回	PPTの使い方・実践
第5回	人前でのスピーチ・発表
第6回	わかりやすいプレゼンテーション資料の構成とは
第7回	わかりやすいプレゼンテーション資料の作成とは
第8回	良いプレゼンテーションスライドとは
第9回	テーマの立て方・資料の探し方
第10回	プレゼンテーション発表時の聞き方・質疑応答

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	プレゼンテーション・スキル	
第11回	プレゼンテーション実践①	
第12回	プレゼンテーション実践②	
第13回	プレゼンテーション実践③	
第14回	プレゼンテーション発表①	
第15回	プレゼンテーション発表②とまとめ	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	プレゼンテーション発表 (30%)、発表に対する評価と質疑応答 (25%)、各回で課す課題への取り組み (45%:15回×3点)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 キャリア・情報						
科目名	スポーツビジネス論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	山中 慎		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のプロスポーツ業界の経営を説明できる</li> <li>・スタジアム・地方創生論を比較できる</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
評価方法: 毎回の講義内課題レポート 15回目レポート課題 評価割合: 講義内レポート(80%) 15回目レポート課題(20%) 毎回行うレポートの内容によって評価する 振り返り講義にてレポート課題を提出する							
<b>テキスト</b>							
参考図書: スポーツビジネス最強の教科書(2020) 平田竹男 東洋経済新報社							
<b>その他</b>							
特になし							
<b>講義内容</b>							
主にベースボールを中心に、日本のプロスポーツ経営を、あらゆる角度から分析し、球団・チーム等の経営の特徴を知る							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	スポーツビジネス論
<p>・予習(2時間):講義で取り上げる内容などにより、講義のおおまかな流れをつかんでおくこと。次回対象となる項目については各講義の終了時に説明する。</p> <p>・復習(2時間):講義で取り上げた重要なポイントを中心に、見直し、論点を整理すること。</p>	
授業計画	
第1回	ガイダンス 準備学習:シラバスを読んで受講上の注意点について事前に調べておく
第2回	テーマ:スポーツをビジネスを知る(概要) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第3回	テーマ:日本のプロスポーツ経営:野球(ペイスターズ・カープ) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第4回	テーマ:日本のプロスポーツ経営:野球(ファイターズ) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第5回	テーマ:ビデオ学習(カープ誕生秘話) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第6回	テーマ:日本のプロスポーツ経営:野球(ソフトバンク・イーグルス) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第7回	テーマ:日本のプロスポーツ経営:野球(高校野球) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第8回	テーマ:日本のプロスポーツ経営:サッカー(浦和レッズ) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第9回	テーマ:ビデオ学習(Jリーグ誕生秘話) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第10回	テーマ:日本のプロスポーツ経営:サッカー(売上分析の方法) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	スポーツビジネス論	
第11回	テーマ:日本のプロスポーツ経営:ラグビー 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第12回	テーマ:日本のプロスポーツ経営:スポーツメーカー 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第13回	テーマ:日本のプロスポーツ経営:箱根駅伝 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第14回	テーマ:ビデオ学習(人の動かし方を学ぶ) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第15回	テーマ:講義振り返りレポート 準備学習:講義のまとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	評価方法:毎回の講義内課題レポート 15回目レポート課題 評価割合:講義内レポート(80%) 15回目レポート課題(20%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 キャリア・情報						
科目名	マーケティング論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	中田 和則		
<b>到達目標</b>							
体系的なマーケティング戦略を身に着け、マーケティング理論で各事例を考え発表出来ることを到達目標とする。							
<b>成績評価の方法</b>							
理由のある欠席は4回まで認める。欠席5回以上は単位を認めない。授業参画率(50%:50点×発言等の積極的参画率)、グループまたは個人による事例発表(50%)合計100点により成績評価する。定期試験は実施しない。							
<b>テキスト</b>							
特に指定しない。適時、講義の中で指示する。							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
マーケティング理論と戦略、具体的な事例を採り上げる。 一方的な講義にならないように、授業の合間に意見を求めるので、積極的な授業参加と意見発表を求める。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
新聞等の経済記事を読み、顧客ニーズと最適な製品の提供について考える習慣をつけること。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	マーケティング論
個人検討と、個人やグループによる事例発表を実施し、一方的な講義にならないように授業を実施する。 毎回の予習と復習に各2時間程度を要する。	
<b>授業計画</b>	
第1回	オリエンテーション
	担当教員 中田 和則
第2回	マーケティングの定義・変遷 マーケティング戦略策定・実施のプロセス
	担当教員 中田 和則
第3回	マーケティング環境分析の実施 SWOT分析 マーケティングリサーチ
	担当教員 中田 和則
第4回	SWOT分析の事例 グループ検討と議論
	担当教員 中田 和則
第5回	標的市場の選定と市場での競争優位構築 ターゲットマーケティング・セグメンテーション・ポジショニング
	担当教員 中田 和則
第6回	マーケティングミックスの構築 製品戦略
	担当教員 中田 和則
第7回	ブランディング戦略
	担当教員 中田 和則
第8回	ブランディングマネジメント
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	マーケティング論	
第9回	価格政策	
	担当教員	中田 和則
第10回	チャネル政策	
	担当教員	中田 和則
第11回	プロモーション政策	
	担当教員	中田 和則
第12回	顧客維持のマーケティング戦略 ネット時代におけるマーケティング	
	担当教員	中田 和則
第13回	事例発表	
	担当教員	中田 和則
第14回	事例発表	
	担当教員	中田 和則
第15回	総まとめ	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	理由のある欠席は4回まで認める。欠席5回以上は単位を認めない。参画率(50%: 50点×発言等の積極的参画率)、グループまたは個人による事例発表(50%)合計100点により成績評価する。定期試験は実施しない。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	マーケティング論	
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 キャリア・情報					
科目名		地方行政論					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	杉山 維彦		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治体の組織と行政の業務内容について理解できる。</li> <li>・地方自治体が抱える課題と解決方法について考えることができる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの構成、内容等で総合的に評価する。(30点)</li> <li>・授業内の課題(小テスト等)、参加度、出席態度(授業に無関係なPCやスマートフォン等の使用、イヤホンの装着などは大幅な減点対象とする)等で評価する。(5点x10回)</li> <li>・プレゼン発表(20点x1回)</li> </ul>							
<b>テキスト</b>							
特になし							
<b>その他</b>							
<p>毎回苫小牧市役所職員が講師として参加される。  そのため予告なしに内容が変更する場合がある。  また、難しい日本語で話すことが多いので、自分の日本語能力に合わせて履修すること。</p>							
<b>講義内容</b>							
<p>本講義では、様々な分野によって構成されている地方行政・地方自治の現状を、市職員を講師に、実務者の観点から概説し、より身近にある自治について触れていきます。  また、地方行政で行われている業務や、地方自治体が抱えている諸問題など、実務者の経験に基づき考えていきます。毎週4時間程度の予習・復習によって理解と定着が進む。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	地方行政論
講義・演習を中心に行う。 授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要。 事前学習:毎週Teamsをチェックし、その週の内容について調べておく。(週各2時間) 事後学習:授業内で講義した内容を理解し、受け取ったレジュメの内容を整理する。(週各2時間)	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	苫小牧市の政策
第3回	苫小牧市の市民生活
第4回	苫小牧市の環境生活
第5回	苫小牧市の病院
第6回	苫小牧市の上下水道
第7回	苫小牧市の都市建設
第8回	苫小牧市の消防
第9回	これまでの講義で学んだテーマを踏まえ、苫小牧市についてプレゼンテーションを作成する。 その方法や内容について方法を講義する。
第10回	苫小牧市の行政についてプレゼンテーションを発表する。(前半8名)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	地方行政論	
第11回	苫小牧市の行政についてプレゼンテーションを発表する。(後半8名)	
第12回	苫小牧市の福祉	
第13回	苫小牧市の産業経済	
第14回	苫小牧市の教育	
第15回	苫小牧市の健康こども	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	30	レポートの構成、内容等で総合的に評価する。(30点)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	70	授業内の課題(小テスト等)・参加度・出席態度(授業に無関係なPCやスマートフォン等の使用、イヤホンの装着などは大幅な減点対象とする)等で評価する。(5点x10回) プレゼン発表(20点x1回)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 キャリア・情報						
科目名	プログラミング						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	麻生川 静男		
到達目標							
成績評価の方法							
テキスト							
その他							
講義内容							
受講登録以前に準備すること							
取得可能な資格							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	プログラミング
授業計画	
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	プログラミング	
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 キャリア・情報						
科目名	情報特別講座						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	4	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	安藤 友晴		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITについての技術的な基礎知識を獲得する</li> <li>・ITが現代社会のなかでどのように活用されているか理解する</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・60%: 毎回の授業で、その授業の内容の理解度を確認する、あるいは簡単な調査をしてもらうことを目的としたリアクションペーパーの提出を求めます。(2点×30回)</li> <li>・40%: 授業内容について自分で考えた内容をまとめることを目的とした2回の小レポートを課します。(20点×2回)</li> </ul>							
<b>テキスト</b>							
坂下夕里. かんたん合格 ITパスポート教科書&必須問題 令和8年度. インプレス, 2025, p.480.							
<b>その他</b>							
この授業は育英館大学で行っている授業を収録し、オンラインで受講可能にしたものです。授業コンテンツがいつ公開されるかは、受講者に指定したWebサイトの内容をよく確認してください。							
<b>講義内容</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITは現代社会を生きるうえで必須となる知識です。</li> <li>・この授業では、社会的な評価が高い(=就職活動時に高く評価される)「ITパスポート試験」の試験範囲を中心に、ITの基礎知識を一年間で学習します。</li> </ul>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	情報特別講座
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインによる講義形式で授業を実施します。</li> <li>・授業前に予習のための資料を提示します。およそ2時間が必要です。</li> <li>・授業後にはリアクションペーパーやレポートの作成を通して授業内容の復習を行います。およそ2時間が必要です。</li> </ul>	
授業計画	
第1回	コンピュータの基本
第2回	記憶装置
第3回	入出力装置
第4回	2進数 (1)
第5回	2進数 (2)
第6回	2進数 (3)
第7回	2進数 (4)
第8回	2進数 (5)
第9回	ソフトウェア
第10回	データベース (1)

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	情報特別講座
第11回	データベース (2)
第12回	データベース (3)
第13回	ネットワーク (1)
第14回	ネットワーク (2)
第15回	中間まとめ
第16回	セキュリティ (1)
第17回	セキュリティ (2)
第18回	セキュリティ (3)
第19回	システムの導入 (1)
第20回	システムの導入 (2) / システム開発 (1)
第21回	システム開発 (2)
第22回	システム開発 (3) / プロジェクトマネジメント (1)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	情報特別講座	
第23回	プロジェクトマネジメント (2)	
第24回	企業活動 (1)	
第25回	企業活動 (2)	
第26回	企業活動 (3)	
第27回	ITの活用 (1)	
第28回	ITの活用 (2)	
第29回	財務と法律 (1)	
第30回	財務と法律 (2)	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	リアクションペーパー (2点×30回)
その他	40	小レポート (20点×2回)

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 文化・社会						
科目名	観光と文化						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	杉山 維彦		
<b>到達目標</b>							
1. 地域の文化的蓄積とは何かについて理解できる。 2. 同じ地域であっても、視点の変化によって様々な意義を持ちうることを理解できる。 3. 地域の文化的蓄積を魅力に変換できる観光プランを案出し、発信できる。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業内での評価 60% (授業内での課題(20)・質疑応答(10)・観光プランのプレゼンテーション(30)) 定期試験に代わるレポート 40%							
<b>テキスト</b>							
特になし							
<b>その他</b>							
個人でのプレゼンテーションを行ってもらう。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! 授業内で抜き打ちの課題や小テストを行うので、欠席にした場合はその点数が無くなる。 定期試験(期末試験)を実施するが詳細は授業内で発表する。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、なるべく欠席をしない様に。							
<b>講義内容</b>							
国際的に「日本の文化」として認識されている各分野について観光を絡めれ紹介を行う。 本科目では、国際的に「日本の文化」として認識されている各分野について、各回で紹介を行う。 海外からも注目されるその魅力について理解し、自ら発信できるようになることが、本科目の目的である。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	観光と文化
<p>「観光と文化」とは、観光の現場で出会う文化的事象を呼ぶが、各地域の文化を観光資源として発信するためには、どのような発想や手段が求められるのか、歴史学、芸術学、人文地理学、民俗学などの隣接諸分野のメソッドを活用しながら、具体例に即して紹介する。</p> <p>そして、最後にその発想に基づいた地域の文化的蓄積を活用した観光プランを作成できる能力を養う。</p> <p>授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要。</p> <p>【事前学習】各回の授業テーマに該当する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく。(週各2時)</p>	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス(授業の進め方・評価法)
第2回	「観光地」のグルーピング
第3回	自然美を魅力とする観光地と、文化的蓄積を魅力とする観光地
第4回	北海道の魅力を検討する—歴史学的アプローチ
第5回	北海道の魅力を検討する—芸術学的アプローチ
第6回	北海道の魅力を検討する—民俗学的アプローチ
第7回	北海道の魅力を検討する—人文地理学的アプローチ
第8回	北海道の魅力を検討する—農学的アプローチ
第9回	北海道の魅力を検討する—商学的アプローチ
第10回	観光文化論の視点を用いての観光プラン案出1

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	観光と文化	
第11回	観光文化論の視点を用いての観光プラン案出2	
第12回	受講生プレゼンテーション1	
第13回	受講生プレゼンテーション2	
第14回	受講生プレゼンテーション3 (受講生のプレゼンが終了した場合は、苫小牧の観光文化)	
第15回	エピローグ & まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での評価 60%(授業内での課題(20)・質疑応答(10)・観光プランのプレゼンテーション(30)) 定期試験に代わるレポート 40%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 文化・社会						
科目名	アイヌ歴史文化論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	種石 悠		
<b>到達目標</b>							
アイヌ民族成立の歴史と、そこで形成された文化について、理解できるようにする。							
<b>成績評価の方法</b>							
毎回講義後のリアクションペーパー(45%:3点×15回=45点)、期末レポート(55%:55点×1回=55点)							
<b>テキスト</b>							
菊池勇夫 1994(2023)『アイヌ民族と日本人』朝日選書510(吉川弘文館) ※旧版と新版、どちらでもよい。							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
北海道域において旧石器時代、縄文時代、続縄文時代、擦文時代、オホーツク文化期を経て、アイヌ民族の文化と社会は形成されてきた。これらの時代の文化と社会を追いながら、アイヌ文化がいかんして形成され、発展したかを解説する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
博物館学芸員							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	アイヌ歴史文化論
<p>テキストに沿いながら、適宜スライドを用いてアイヌ民族の文化と社会の形成過程について解説する。講義終了後、リアクションペーパーに記入していただく。テキストの章ごとに毎回講義を進めてゆくの、講義の前に2時間をかけてわからない語句等を予習し、講義後は関連文献などを用いて2時間をかけて復習を行なう。</p>	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	古代国家と蝦夷
第3回	中世のエゾと境界権力
第4回	アイヌ文化・民族の形成
第5回	幕藩制国家の成立と蝦夷地
第6回	シャクシャインの戦い
第7回	近世アイヌの社会と文化
第8回	場所請負制の展開
第9回	クナシリ・メナシの戦い
第10回	アイヌコタンの破壊

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	アイヌ歴史文化論	
第11回	アイヌの山丹・千島交易	
第12回	蝦夷地と国内市場	
第13回	中国貿易と蝦夷地	
第14回	近世蝦夷をめぐる文化意識	
第15回	近代化のなかの国家と民族	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	リアクションペーパー(3点×15回)
その他	55	期末レポート(55点)

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 文化・社会						
科目名	北海道歴史文化論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	中田 和則		
<b>到達目標</b>							
現在、住んでいる苫小牧市を中心とした、北海道内の市町村各地について歴史・文化・産業の知識を習得する。地域振興のために何をしたらいいのか、どのように実践したらいいのかを自分なりに提言をまとめ、発表できるようにする。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への積極的な参画寄与(50%)と2回の発表①地域市町村の文化・歴史・産業②地域への提言(50%)で成績評価する。定期試験は実施しない。無断での欠席5回以上は単位を認めない。							
<b>テキスト</b>							
指定しない。都度指示する。							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
北海道および、苫小牧市を中心とした胆振・日高地域の各市町村の歴史・文化・産業を学び、各地域の課題や今後の方向性について、議論し提言をまとめる。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
新聞や雑誌やネット情報で、地域歴史・文化・産業に関心を持っておくこと。							
<b>取得可能な資格</b>							
なし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	北海道歴史文化論
<p>一方的な講義形式にしない。都度、意見や発言を求める。受講者による最低2回のパワポによる発表(①地域市町村の文化・歴史・産業②地域への提言)をしてもらう。予習・復讐で4時間程度を要する。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション・北海道の歴史地域特性
	担当教員 中田 和則
第2回	道南の縄文遺跡
	担当教員 中田 和則
第3回	道南地区の地域特性・胆振(室蘭)の歴史文化産業
	担当教員 中田 和則
第4回	アイヌ文化と歴史
	担当教員 中田 和則
第5回	苫小牧市・登別市の歴史文化産業(個人又はグループ発表)
	担当教員 中田 和則
第6回	伊達市・白老町の歴史文化産業(個人又はグループ発表)
	担当教員 中田 和則
第7回	鶴川町・洞爺湖町の歴史文化産業(個人又はグループ発表)
	担当教員 中田 和則
第8回	平取町・浦河町の歴史文化産業(個人又はグループ発表)
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	北海道歴史文化論	
第9回	えりも町・新ひだか町の歴史文化産業(個人又はグループ発表)	
	担当教員	中田 和則
第10回	北海道の農業	
	担当教員	中田 和則
第11回	北海道の食文化	
	担当教員	中田 和則
第12回	北海道の観光と産業	
	担当教員	中田 和則
第13回	地域への提案と今後の取り組み(個人)	
	担当教員	中田 和則
第14回	地域への提案と今後の取り組み(個人)	
	担当教員	中田 和則
第15回	まとめ	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への積極的な参画寄与(50%)と2回の発表①地域市町村②地域への提案(50%)で成績評価する。定期試験は実施しない。無断での欠席5回以上は単位を認めない。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	北海道歴史文化論	
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 文化・社会						
科目名	現代日本文化論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	星野 芳輝		
<b>到達目標</b>							
現代日本における「文化」を古今東西様々な形を通して学び、その背景にある歴史や人々の営みを理解し、自ら楽しむことができる。							
<b>成績評価の方法</b>							
積極的参加 45% (3%×15回) 発表とディスカッション 20% 期末レポート試験 35%							
<b>テキスト</b>							
なし							
<b>その他</b>							
講義内容は変更になる可能性がある。							
<b>講義内容</b>							
「文化」という言葉は、様々な物事をひとくくりになっている。例えば、言語を含むマナーや礼儀作法、また、伝統的な祭りや催事、宗教、生活、アニメやゲームなどのコンテンツまで幅広い。それらをそれぞれ大雑把にとらえるのではなく、「なぜ現在の形に至ったのか」を含めて学び、日本を改めてよく知る契機とする。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
なし							
<b>取得可能な資格</b>							
なし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	現代日本文化論
講師による講義形式、映像視聴や、ディスカッション、発表なども行う。 予習、復習の実施。(週4時間程度)	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	日本文化とは？「文化」の再考
第3回	日本における「礼儀」の文化
第4回	日本における「食事」の文化
第5回	日本における「宗教」の文化
第6回	日本における「祭り」の文化
第7回	日本における「旅行」の文化
第8回	日本における「娯楽」の文化
第9回	日本における「音楽」の文化
第10回	日本における「マンガ」の文化

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	現代日本文化論	
第11回	日本における「アニメ」の文化	
第12回	日本における「ゲーム」の文化	
第13回	日本における「インターネット」の文化	
第14回	発表とディスカッション	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	35	期末レポート試験 35%
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	65	積極的参加 45% (3%×15回) 発表とディスカッション 20%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 文化・社会						
科目名	アジア歴史文化論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	田 桃雨		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアの主要な文明圏(東アジア・東南アジア・南アジア等)の歴史的概観と相互交流の歴史を説明できる。</li> <li>・アジアにおける宗教・思想(仏教、儒教、ヒンドゥー教、イスラーム等)の伝播と地域ごとの変容を理解する。</li> <li>・近現代における植民地主義、ナショナリズム、近代化の過程が各国・地域に与えた影響を比較できる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への取り組み(30%)、発表・課題の提出(30%)、期末テスト(40%) 三つの方面から総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
宮崎市定(2023)『アジア史概説』中公文庫							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
アジア諸文化の成立とその推移、交流とその展開、諸民族の相互的交渉、近世的ナショナリズムの潮流、近世文化の展開、最近世文化の東漸、アジア史における日本、現代アジア史などの方面からアジアの歴史と文化を総合的、全面的に学んでいく。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
アジアの歴史と文化に興味あること 日本語の文章をまとめる能力があること							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	アジア歴史文化論
教科書内容に沿って、進めていく。受講者数によって、授業方法が異なる。毎回の講義では、先生が内容を総括的に説明した後、少人数(15人以下)の場合、教科書の内容を節ごとにまとめて、受講者全員に順番に発表して貰う。大人数の場合(15人以上)、穴埋め式の質問用紙を記入して、提出して貰う。毎週の受講は予習時間2時間、復習時間2時間を必要とする。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション アジア史とは
第2回	アジア諸文化の成立とその推移 I
第3回	アジア諸文化の成立とその推移 II
第4回	アジア諸民族の相互的交渉 I
第5回	アジア諸民族の相互的交渉 II
第6回	アジア諸文化の交流とその展開 I
第7回	アジア諸文化の交流とその展開 II
第8回	近世的ナショナリズムの潮流 I
第9回	近世的ナショナリズムの潮流 II
第10回	近世文化の展開

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	アジア歴史文化論	
第11回	最近世文化の東漸 I	
第12回	最近世文化の東漸 II	
第13回	アジア史における日本	
第14回	現代アジア史 I	
第15回	現代アジア史 II	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	40	期末テスト(レポート)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への取り組み(30%)、発表・課題の提出(30%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 文化・社会					
科目名		ヨーロッパ歴史文化論					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	クラウゼ小野 マルギット		
<b>到達目標</b>							
<p>まずはヨーロッパ諸国の歴史的・社会的・文化的な関係について理解することから始め、それをベースにしてEUの全体像の把握を目指す。 またMoF(説明は後述)を用い、EUの中で対立を生む元ともなった諸国間の文化の相違とそこにいたった原因について考える。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
最後のまとめとして作成されたレポート25%、プレゼンテーション25%、授業態度、グループワーク等50%。100点満点中60点以上を合格とする。							
<b>テキスト</b>							
教科書は使用しない。必要な資料は適宜配布する。							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ヨーロッパ文化の概略およびMoFの理解基礎的知識の獲得。</li> <li>2.MoFを手がかりして、ヨーロッパ文化における行動様式や反応の仕方の特徴などの理解全体像把握のための方法論の習得。</li> <li>3.次に具体例として、ヨーロッパ各国における親子関係や教育・大学制度、会社モデル、広告のあり方など、講義参加者が関心を持つテーマについてグループでリサーチを行う方法論の実践への応用とその能力の涵養。</li> <li>4.各グループの発表結果について参加者全員でディスカッションを行い、EUを構成するヨーロッパ諸国間の関係や相違、その理由などの理解を確かなものとするディスカッションを契機とした多面的な考え方の獲得。</li> </ol>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
旺盛な好奇心を持って積極的に授業へ参加してほしいと思います。発表やレポート作成に関する相談は大歓迎。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	ヨーロッパ歴史文化論
<p>授業が演習の形である。学生のアクティブラーニングが基本である。学生が3人1組のグループになり、各グループが選んだ国に関するトピックを調べ、毎週報告する。第12週から第14週の間、各グループがそれぞれの国について15分以上発表し、その後質疑応答を行う。</p> <p>コースの資料と、各グループのトピックに関する結果等は、Moodle または Teams にアップロードされる。教師による授業の要約も追加される。毎週講義前に大学や自宅で予習を2時間と講義後に大学や自宅で復習を2時間行うこと。</p>	
授業計画	
第1回	イントロダクション。文化の意味についてのディスカッション。受講者のヨーロッパに関する知識の把握。
第2回	イントロダクション。文化の意味についてのディスカッション。受講者のヨーロッパに関する知識の把握。
第3回	MoFの紹介と様々なケースを例に挙げての説明。 MoFとは、それを用いることで、ある文化における行動様式や働き方、対人関係のあり方などを知ることのできる一つのモデルである。
第4回	MoFの紹介と様々なケースを例に挙げての説明。 MoFとは、それを用いることで、ある文化における行動様式や働き方、対人関係のあり方などを知ることのできる一つのモデルである。
第5回	様々なテーマの紹介。ヨーロッパ、特にドイツを中心とした親子関係や教育・大学制度、会社モデル、広告のあり方などについて、Mofを用いた説明を行う。グループ毎にテーマを決め、根本的な文化間の相違に配慮しつつその課題に取り組む。意見交換の場として、Moodleプラットフォームも利用する。その間、担当教員は適宜アドバイスを行う。
第6回	様々なテーマの紹介。ヨーロッパ、特にドイツを中心とした親子関係や教育・大学制度、会社モデル、広告のあり方などについて、Mofを用いた説明を行う。グループ毎にテーマを決め、根本的な文化間の相違に配慮しつつその課題に取り組む。意見交換の場として、Moodleプラットフォームも利用する。その間、担当教員は適宜アドバイスを行う。
第7回	様々なテーマの紹介。ヨーロッパ、特にドイツを中心とした親子関係や教育・大学制度、会社モデル、広告のあり方などについて、Mofを用いた説明を行う。グループ毎にテーマを決め、根本的な文化間の相違に配慮しつつその課題に取り組む。意見交換の場として、Moodleプラットフォームも利用する。その間、担当教員は適宜アドバイスを行う。
第8回	様々なテーマの紹介。ヨーロッパ、特にドイツを中心とした親子関係や教育・大学制度、会社モデル、広告のあり方などについて、Mofを用いた説明を行う。グループ毎にテーマを決め、根本的な文化間の相違に配慮しつつその課題に取り組む。意見交換の場として、Moodleプラットフォームも利用する。その間、担当教員は適宜アドバイスを行う。
第9回	受講者による発表。それに関する補完説明とディスカッション。比較分析。
第10回	受講者による発表。それに関する補完説明とディスカッション。比較分析。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	ヨーロッパ歴史文化論	
第11回	受講者による発表。それに関する補完説明とディスカッション。比較分析。	
第12回	受講者による発表。それに関する補完説明とディスカッション。比較分析。	
第13回	受講者による発表。それに関する補完説明とディスカッション。比較分析。	
第14回	受講者による発表。それに関する補完説明とディスカッション。比較分析。	
第15回	最後のまとめ。レポートテーマの発表。	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	75	最後のまとめとして作成されたレポート25点、プレゼンテーション25点、授業態度、グループワーク等50点。100点満点中60点以上を合格とする。
その他	25	最後のまとめとして作成されたレポート25点、プレゼンテーション25点、授業態度、グループワーク等50点。100点満点中60点以上を合格とする。

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 文化・社会						
科目名	北米歴史文化論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	瀬名波 栄潤		
<b>到達目標</b>							
<p>本授業では、4本のハリウッド映画作品に描かれたLGBTQ+の表象を通して、セクシュアリティに関する北米の歴史と文化を読み解くことにより、事実と虚構の関係性や現実世界と映画産業の認識の違いに気づける観察力や表現力を獲得することを目標としている。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での討論への参加度 40%</li> <li>・学期末試験での成績結果 60%</li> </ul>							
<b>テキスト</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Celluloid Closet (1995, 107mins)</li> <li>2. Transamerica (2005, 103 mins)</li> <li>3. Stonewall (2015, 129 mins)</li> <li>4. Moonlight (2016, 111mins)</li> </ol>							
<b>その他</b>							
適宜資料を配布							
<b>講義内容</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画を観る・討論する</li> <li>・歴史文化的背景を知る</li> </ul>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	北米歴史文化論
予習2時間 使用テキストの確認 復習2時間 授業内容のまとめ	
授業計画	
第1回	イントロ:授業概要の説明 LGBTQ+の基礎知識
	担当教員 瀬名波 栄潤
第2回	映画1:Film 1: Celluloid Closet (1995, 107mins)
	担当教員 瀬名波 栄潤
第3回	映画1の継続
	担当教員 瀬名波 栄潤
第4回	映画1の継続
	担当教員 瀬名波 栄潤
第5回	映画2: Transamerica (2005, 103 mins)
	担当教員 瀬名波 栄潤
第6回	映画2の継続
	担当教員 瀬名波 栄潤
第7回	映画2の継続
	担当教員 瀬名波 栄潤
第8回	映画3: Stonewall (2015, 129 mins)
	担当教員 瀬名波 栄潤

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	北米歴史文化論	
第9回	映画3の継続	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第10回	映画3の継続	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第11回	映画4: Moonlight (2016, 111mins)	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第12回	映画4の継続	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第13回	映画4の継続	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第14回	まとめ	
	担当教員	瀬名波 栄潤
第15回	補講 (受講生全員が参加できる日時を設定します)	
	担当教員	瀬名波 栄潤
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	40	選択問題と記述問題
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業内での発言と貢献度

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	北米歴史文化論	
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Business English I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	杉山 維彦		
<b>到達目標</b>							
1.進出単語を使用して文章を作成することができる 2.授業で学んだ基礎を身につけ、応用ができる 3.TOEICの試験の概要とパターンを理解することができる 4.TOEICを受験しスコア350点以上を取ることを到達目標とする							
<b>成績評価の方法</b>							
授業内での評価(単語Quiz・発表など) 30% (3回各10%) 授業外での評価(Reading演習など) 20% (2回各10%) 定期試験(期末試験) 50%							
<b>テキスト</b>							
THE HIGH ROAD TO TOEIC® LISTENING AND READING TEST / 金星堂 / ¥2,200 / 2024年 / ISBN978-4-7647-4045-7							
<b>その他</b>							
グループワークや個人でのプレゼンテーションを行ってもらう。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! 授業内で小テストを行うことがあるので、欠席にした場合はその点数が無くなる。 定期試験(期末試験)を実施するが詳細は授業内で発表する。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、なるべく欠席をしない様に。							
<b>講義内容</b>							
企業で一般的に使用されるビジネス英語を解説・指導し、ビジネス分野での英語コミュニケーションの基礎力を養う。 様々なビジネスシーン・環境の解説を加えながら、テキストに沿ってTOEIC®の問題パターンに慣れるよう演習を実施する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Business English I
<p>講義・演習を中心に行う。            授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要。            事前学習:新出単語の意味を事前にチェックし、テキストの会話の内容を理解する。(週各2時間)            事後学習:授業内にまとめた単語を見直して暗記すると共に、テキストの空欄を充填する。(週各2時間)</p>	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス(授業の概要&進め方、評価の方法、到達目標)
第2回	Unit 1:Travelをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第3回	Unit 1: Travelをテーマとした実用英語の演習を文法(時制)及び読解を中心に行う。
第4回	Unit 2: Dining Outをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第5回	Unit 2: Dining Outをテーマとした実用英語の演習を文法(主述の一致)及び読解を中心に行う。
第6回	Unit 3: Mediaをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第7回	Unit 3: Mediaをテーマとした実用英語の演習を文法(能動態・受動態)及び読解を中心に行う。
第8回	Unit 4: Entertainmentをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第9回	Unit 4:Entertainmentをテーマとした実用英語の演習を文法(動名詞・不定詞)及び読解を中心に行う。
第10回	Unit 5: Purchasingをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Business English I	
第11回	Unit 5: Purchasingをテーマとした実用英語の演習を文法(代名詞)及び読解を中心に行う。	
第12回	Unit 6: Clientsをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。	
第13回	Unit 6: Clientsをテーマとした実用英語の演習を文法(品詞)及び読解を中心に行う。	
第14回	Unit 7: Recruitingをテーマとした実用英語の演習を行う。	
第15回	エピローグ & まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	50	Listening & Reading(各25%)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業内での評価(単語Quiz・発表など) 30%(3回各10%) 授業外での評価(Reading演習など) 20%(2回各10%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Extensive Reading I (日)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	福本 達也		
<b>到達目標</b>							
日本語能力試験N2・N3レベルの日本語文法について論じたり説明することができる。 日本語能力試験N2・N3レベルの日本語の運用をすることができる。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への参加度(30%)、授業内の課題(30%)、期末課題・試験(40%)などにより総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
視聴覚資料、印刷物などを配布。場合によって映像を見る。 氏原康子・佐伯玲子共著(2015)『日本語能力試験N2文法必修パターン』有限会社Jリサーチ出版 その他の参考文献は授業中に紹介する。							
<b>その他</b>							
授業計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。							
<b>講義内容</b>							
まず、日本語能力試験N3レベルの文法事項の復習をし、練習問題を解く。 次に、N2レベルの文法事項を学び、練習問題を解く。 最後にN2レベルの模擬試験の問題を解いてみる。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
日本語能力試験N3・N4レベルの日本語文法の知識を習得していることが望ましい。							
<b>取得可能な資格</b>							
日本語能力試験N2・N3の合格を目指すことができる。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Extensive Reading I (日)
<p>毎回文法事項の説明をした後、練習問題を解いてみる。その後問題の正答と解説をする。小テストを実施することがある。復習として課題を作成し次の週に提出させる。復習時間は毎週4時間程度必要。期末には模擬テストや課題作成を実施する。</p>	
授業計画	
第1回	文法の基礎の復習①:助詞
第2回	文法の基礎の復習②:副詞
第3回	文法の基礎の復習③:接続詞
第4回	文法の基礎の復習④:敬語
第5回	N3文型の復習①:時間・場所、性質・傾向、理由・目的、条件・方法・スタイルの文型・表現
第6回	N3文型の復習②:様子・状態、判断、テーマ・対象、評価・感想の文型・表現
第7回	N3文型の復習③:基準・立場、強調、限定、表現のスタイルの文型・表現
第8回	N2文型の整理①:時間・時期、立場・状況・場合、限定の文型・表現
第9回	N2文型の整理②:例示・比喩、対比、同時・二つの事柄の文型・表現
第10回	N2文型の整理③:強調・くり返し、逆接・意外な気持ち、結果の文型・表現

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Extensive Reading I (日)	
第11回	N2文型の整理④:条件・基準・方法、様子・傾向、話題・対象の文型・表現	
第12回	N2文型の整理⑤:意志・意向、理由・根拠、可能・不可能の文型・表現	
第13回	N2文型の整理⑥:評価・感想、見方・考え方、NG・禁止の文型・表現	
第14回	言葉をつなぐ練習、文をつなぐ練習	
第15回	N2文法模擬試験、解答と解説	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない。 授業への参加度(30%):授業での説明を聴いたり練習をする態度・姿勢、積極性などによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):課題を確実に取り組んでいるか、要求通りに作成できているかによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	期末課題・試験(40%)、最後の授業の時、模擬試験か、期末課題作成を行う。模擬試験か期末課題作成に真剣に取り組んでいるか、問題がどれだけできたか、課題を要求通りに作成できたかで評価する。40点満点。

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Extensive Reading III (英)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	杉山 維彦		
<b>到達目標</b>							
1. 基本的な英語の知識(語彙、英文法)を習得し、テキストの英文をより正確に理解することができる。 2. テキストの英文を正しい発音でスムーズに音読することができる。 3. 英語のリズムや発音の特徴をつかみ、まとまった英文を効率よく聴いたり読んだりできる。 4. テキストの英文内容を理解し、テーマについての知識を広げたり理解を深めたりできる。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業内での評価(単語Quiz・発表など) 30% (3回各10%) 授業外での評価(Reading演習など) 20% (2回各10%) 定期試験(期末試験) 50%							
<b>テキスト</b>							
Reading Link / Robert Hickling, Misato Usukura / 金星堂 / ¥2,310 / 2024年 / ISBN978-4-7647-4100-3							
<b>その他</b>							
グループワークや個人でのプレゼンテーションを行ってもらう。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! 授業内で小テストを行うことがあるので、欠席した場合はその点数が無くなる。 定期試験(期末試験)を実施するが詳細は授業内で発表する。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、なるべく欠席をしない様に。							
<b>講義内容</b>							
基本的にテキストを使用し、その単元を順番に行っていく。 なお、学生に返答を求める。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Extensive Reading III (英)
<p>講義・演習を中心に行う。            授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要。            事前学習:新出単語の意味を事前にチェックし、テキストの会話の内容を理解する。(週各2時間)            事後学習:授業内にまとめた単語を見直して暗記すると共に、テキストの空欄を充填する。(週各2時間)</p>	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス(授業の進め方・評価法など)
第2回	Unit 1 Who Is Pepper? [現在形]
第3回	Unit 2 ① What's It Like to Be a Self-Sufficient Family? [代名詞]
第4回	Unit 2 ②
第5回	Unit 3 ① Why Did Starbucks Become a Hit in Japan? [過去形]
第6回	Unit 3 ②
第7回	Unit 4 ① How Do Americans Celebrate Halloween? [可算名詞・不可算名詞]
第8回	Unit 4 ②
第9回	Unit 5 ① Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae? [時と場所を表す前置詞]
第10回	Unit 5 ②

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Extensive Reading III (英)	
第11回	Unit 6 ① Are You Going Cashless? [進行形]	
第12回	Unit 6 ②	
第13回	Unit 7	
第14回	Unit 8 Would You Like to Be a Pioneer Like Coco Chanel? [動名詞・不定詞]	
第15回	エピローグ & まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	50	Listening & Reading (各25%)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業内での評価(単語Quiz・発表など) 30% (3回各10%) 授業外での評価(Reading演習など) 20% (2回各10%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Intensive Reading III (日)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	星野 芳輝		
<b>到達目標</b>							
基礎的な文法、文型、語彙を理解することができる。 簡単な長文の読解スキルの習得を目指す。							
<b>成績評価の方法</b>							
講義内課題(45%) 講義への積極的参加(15%) 期末課題(40%)							
<b>テキスト</b>							
なし							
<b>その他</b>							
講義内容は変更になる可能性がある。							
<b>講義内容</b>							
基礎的な日本語文法の学習と復習を行いながら、中級程度の日本語スキルを学ぶ。 適宜配布されるプリントをもとに、課題に取り組む。 長文読解や作文などを行い、実践的な筆記・読解能力を養う。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
なし							
<b>取得可能な資格</b>							
なし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Intensive Reading III (日)
<p>予習2時間。指示されたプリントや資料などをあらかじめ読む。  復習2時間。講義内容を再確認する。</p>	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	長文読解 小説①
第3回	長文読解 小説②
第4回	長文読解 小説③
第5回	長文読解 評論①
第6回	長文読解 評論②
第7回	長文読解 評論③
第8回	長文読解 評論④
第9回	長文読解 論文①
第10回	長文読解 論文②

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Intensive Reading III (日)	
第11回	長文読解 論文③	
第12回	長文読解 論文④	
第13回	長文読解 論文⑤	
第14回	長文読解 論文⑥	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	40	期末課題(40%)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	講義内課題(45%) 講義への積極的参加(15%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		Japanese Culture					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	杉山 維彦		
<b>到達目標</b>							
1.日本の文化の概略について知ることができる。 2.各分野の特色について理解できる。 3.文化的蓄積を活用できる。 4.文化的観光資源の意義について学ぶことができる。 5.以上について英語で説明できる。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業内レポート40%(2回各20%)・小テスト 40%(4回各10%) 定期試験に代わるレポート 20%							
<b>テキスト</b>							
テキストは使用しないが以下の書籍を参考にする。 英語で説明する日本の観光名所100選 / 植田一三 / 語研 / ¥2,200 / ISBN978-4-8761-5351-0 英語で説明する日本の文化/植田一三 / 語研 / ¥2,200 / ISBN978-4-8761-5379-4 英語で日本紹介ハンドブック / 松本美江 / アルク / ¥1,740 / ISBN978-4-7574-2439-5 英語で日本紹介アイデアブック / 島崎秀定 / アルク / ¥1,760 / ISBN978-4-7574-3621-3							
<b>その他</b>							
個人でのプレゼンテーションを行ってもらう。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! 授業内で課題や小テストを行うので、欠席にした場合はその点数が無くなる。 定期試験(期末試験)を実施するが詳細は授業内で発表する。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、なるべく欠席をしない様に。							
<b>講義内容</b>							
国際的に「日本の文化」として認識されている各分野について紹介を行う。 それを英語で発信できるようになることが、本科目の目的である。 本科目では、国際的に「日本の文化」として認識されている各分野について、各回で紹介を行う。海外からも注目されるその魅力について理解し、自ら発信できるようになることが、本科目の目的である。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Japanese Culture
<p>毎回配布資料を読み、理解し、それを英語で説明できるよう演習する。 その後授業内課題(レポート)もしくは小テストを行う。 授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要。 【事前学習】各回の授業テーマに該当する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく。(週各2時間)。 【事後学習】授業で学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明</p>	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス(授業の進め方・評価法)
第2回	着物
第3回	和菓子
第4回	茶道
第5回	華道・盆栽
第6回	書道
第7回	相撲・柔道・剣道
第8回	ヲタク
第9回	アニメ・漫画
第10回	コスプレ

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Japanese Culture	
第11回	アイドル	
第12回	乃木坂46・櫻坂46・AKB48	
第13回	観光地	
第14回	温泉	
第15回	エピソード & まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内レポート40%(2回各20%)・小テスト 40%(4回各10%) 定期試験に代わるレポート 20%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Listening and Pronunciation						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュース音声の内容を踏まえ、要点をまとめたうえでペアまたはグループで意見交換ができる。</li> <li>・音声に含まれる連結・弱形・リズム・イントネーションを意識し、内容に基づいて自分の意見を英語で述べることができる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>小テスト 50% (5点×10回), パフォーマンステスト 50% (25点×2回)          欠席は4回までとする。5回以上欠席した場合は、単位認定不可。          本科目は、15週にわたって実施する課題提出、小テスト、実技を含むパフォーマンステスト等の複数の評価要素を総合して評価するため、定期試験、再試験および追試験は実施しない。</p>							
<b>テキスト</b>							
『CNN ENGLISH EXPRESS 1月号英語で話す、考える世界の論点 2025-2026』2025 朝日出版社							
<b>その他</b>							
授業計画は、学生の理解度および習熟度の状況に応じて変更する場合がある。							
<b>講義内容</b>							
本授業では、時事的なトピックを扱った英語ニュース教材を用い、リスニング力と発音の基礎的技術の向上を目指す。テキストに収録された音声素材を中心に、英語特有の音声変化やリズムに着目しながら、内容理解と音声知識を結び付けて学習し練習する。また、世界の論点を扱う内容を通して、英語を「聞く」だけでなく「考え、発信する」活動にもつなげる。必要に応じて AI ツールを活用し、発音練習や自己学習の効率化を図る。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
毎回の授業には、テキストおよびパソコン(スマートフォンは使用不可)を必ず準備のうえ持参すること。							
<b>取得可能な資格</b>							
TOEIC							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Listening and Pronunciation
英語ニュース音声を用いたリスニング演習を行い、内容理解と聞き取りのポイントを確認する。音声の特徴(連結・弱形・リズム・イントネーション)に着目した発音練習を行い、スピーキング活動へとつなげる。必要に応じて AI ツールを補助的に使用し、発音や発話の自己確認と改善を行う。毎週4時間程度の予習・復習が必要。	
授業計画	
第1回	The Global Tariff War
第2回	"Our People First" Policies
第3回	Rollback on Diversity
第4回	AI-Prospects and Problems
第5回	War and the World Order
第6回	Japan's First Female Prime Minister
第7回	The Backlash Against Diversity 1
第8回	Oldest Person to Climb Mount Fuji
第9回	Scientists Research Boozy Chimpanzees
第10回	CNN NEWS DIGEST

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Listening and Pronunciation	
第11回	UNSETTLING SITUATION	
第12回	AI'S ALARMING APPETITE	
第13回	FOOD TO WHET A BEE'S APPETITE	
第14回	A Deal to End War	
第15回	NOT DOING NEARLY ENOUGH	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト 50% (5点×10回) パフォーマンステスト 50% (25点×2回)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		Literature					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CEFR B2レベルの英語運用能力を用いて、アメリカ文学史の主要な時代区分や代表的な作家・作品についてテキスト本文を基に内容を理解し、要点を英語で説明できるようになる。</li> <li>・自分の興味のあるアメリカ文学作品または作家について調査を行い、情報を整理した上で、CEFR B2 レベルの英語による口頭発表や意見交換ができるようになる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>小テスト: 50%(10点×5回)  パフォーマンステスト: 50%(25点×2回)  欠席は4回までとする。5回以上欠席した場合は、単位認定不可。  本科目は、15週にわたって実施する課題提出、小テスト、実技を含むパフォーマンステスト等の複数の評価要素を総合して評価するため、定期試験、再試験および追試験は実施しない。</p>							
<b>テキスト</b>							
渡辺利雄社 (2011) 『講義 アメリカ文学史 [入門編]』研究社							
<b>その他</b>							
授業計画は、学生の理解度および習熟度の状況に応じて変更する場合がある。							
<b>講義内容</b>							
本授業は CEFR B2レベルの学習者を対象とし、指定テキストを用いて、アメリカ文学の成立から現代に至るまでの流れを概観する。各回では、テキスト本文の読解を中心に、文学の特徴、時代背景、代表的作家・作品について理解を深める。また、パフォーマンステストでは、学生が各自関心のあるアメリカ文学作品または作家を選び、関連資料を調査した上で、CEFR B2 レベルの英語によるリサーチ発表を行う。発表準備においてもAIを補助的に活用し、構成の整理や表現の改善を行う。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
毎回の授業には、テキストおよびパソコン(スマートフォンは使用不可)を必ず準備のうえ持参すること。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Literature
<p>本授業は CILL (Content-Integrated Language Learning) の理念に基づき、文学内容の理解と英語運用能力の向上を同時に目指す。</p> <p>1. テキスト本文を使用した読解活動を行い、内容理解を確認した後、ペアワークを通じて英語で要点整理や意見交換を行う。必要に応じてAIツールを活用する場合がある。</p> <p>2. ペアワークでは、作品のテーマ、人物描写、時代背景などについて、CEFR B2レベルの表現を用いた口頭活動を行う。発話練習や表現確認においてAIを活用する場合がある。</p>	
授業計画	
第1回	Orientation and Introduction
第2回	Willam Bradford and John Winthrop
第3回	Jonathan Edwards
第4回	Benjamin Franklin
第5回	Ralph Waldo Emerson
第6回	Nathaniel Hawthorne
第7回	Edgar Allan Poe
第8回	Henry David Thoreau
第9回	Herman Melville
第10回	Walt Whitman

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Literature	
第11回	Emily Dickinson	
第12回	Mark Twain	
第13回	Henry James	
第14回	Kate Chopin	
第15回	Robert Frost	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト: 50%(10点×5回) パフォーマンステスト50%(25点×2回)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	インテンシブ中国語 I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	田 桃雨		
<b>到達目標</b>							
中国語の発音表記を見て、正確な発音ができるようになる。基本的な文法をマスターし、中国語の初歩的な聞く・話す能力を身につける。							
<b>成績評価の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み(30%):積極的に会話などの練習に参加する必要がある。毎回の授業は2点とする。</li> <li>・課題の提出(30%):単語テスト、例文作成。毎回の課題は2点とする。</li> <li>・期末試験(40%)</li> </ul>							
<b>テキスト</b>							
姜麗萍 (2015)『スタンダードコース中国語 -中国語の世界標準テキスト-1(HSK1級対応)』							
<b>その他</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・復習は十分にやってくること。予習復習時間として毎週授業時間と同等の時間が必要となる。</li> <li>・グループワークやロールプレイなどのクラス活動に積極的に参加すること。また、教室内外で積極的に話しかける姿勢で臨んで欲しい。</li> <li>・語学は積み重ねが重要なので、正当な理由がない遅刻と欠席をしないこと。</li> </ul>							
<b>講義内容</b>							
聞く・話す能力の基礎を養う。日常生活の中の最も基本的な事柄から中国語を練習する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
テキスト、辞書							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	インテンシブ中国語 I
<p>対面講義、テキストに沿って、進める。            授業する前に、新しい単語、テキストの内容を予習する必要がある。            授業後、単語を覚えるなどしっかり復習することが大事。            1回の授業につき、予習2時間、復習2時間を要する。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション 第1課 你好 こんにちは。
第2回	第2課 谢谢你 ありがとうございます。
第3回	第3課 你叫什么名字 あなたの名前はなんですか。
第4回	第4課 她是我的汉语老师 彼女は私の中国語の先生です。
第5回	第5課 她女儿今年二十岁 彼女の娘は今年二十歳です。
第6回	第6課 我会说汉语 中国語が話せます。
第7回	第7課 今天几号 今日は何日ですか。
第8回	第8課 我想喝茶 お茶を飲みたいです。
第9回	第9課 你儿子在哪儿工作 あなたの息子はどこで働いていますか。
第10回	第10課 我能坐这儿吗 ここに座ってもいいですか。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	インテンシブ中国語 I	
第11回	第11課 現在几点 今は何時ですか。	
第12回	第12課 明天天气怎么样 今日の天気はどうですか。	
第13回	第13課 他在学做中国菜呢 彼は中華料理を学んでいます。	
第14回	第14課 她买了不少衣服 彼女は服をたくさん買いました。	
第15回	第15課 我是坐飞机来的 飛行機で来ました。	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	40	・期末試験
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	・授業への取り組み(30%):積極的に会話などの練習に参加する必要がある。毎回の授業は2点とする。 ・課題の提出(30%):単語テスト、例文作成。毎回の授業は2点とする。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	インテンシブ中国語Ⅱ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	田 桃雨		
<b>到達目標</b>							
準中級レベルの文法の完全なマスターを目指す。中国語の準中級レベルの聞く・話す能力を身につける。							
<b>成績評価の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み(30%):積極的に会話などの練習に参加する必要がある。毎回の授業は2点とする。</li> <li>・課題の提出(30%):単語テスト、例文作成。毎回の授業は2点とする。</li> <li>・期末試験(40%)</li> </ul>							
<b>テキスト</b>							
姜麗萍 (2015)『スタンダードコース中国語 -中国語の世界標準テキスト-2(HSK2級対応)』							
<b>その他</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・復習は充分にやってくること。</li> <li>・グループワークやロールプレイなどのクラス活動に積極的に参加すること。また、教室内外で積極的に話しかける姿勢で臨んで欲しい。</li> <li>・語学は積み重ねが重要なので、正当な理由がない遅刻と欠席をしないこと。</li> </ul>							
<b>講義内容</b>							
聞く・話す能力の基礎を養う。日常生活の中の最も基本的な事柄から中国語を練習する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
辞書、テキスト							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	インテンシブ中国語Ⅱ
<p>対面講義、テキストに沿って、進める。            授業する前に、新しい単語、テキストの内容を予習する必要がある。            授業後、単語を覚えるなどしっかり復習することが大事。            1回の授業につき、予習2時間、復習2時間を要する。</p>	
授業計画	
第1回	第1課 九月去北京最好 9月に北京へ旅行するのが一番良いです
第2回	第2課 我每天6点起床 私は毎日6時に起きます
第3回	第3課 左边那个红色的是我的 左のあの赤いのが私のです
第4回	第4課 这个工作是他帮我介绍的 この仕事は彼が私に紹介してくれたのです
第5回	第5課 就买这件吧 これを買きましょう
第6回	第6課 你怎么不吃了 あなたはどうしてももう食べないのですか
第7回	第7課 你家离公司远吗 あなたの家は会社から遠いのですか
第8回	第8課 让我想想再告诉你 少し考えさせてください。それからお伝えします
第9回	第9課 题目太多, 我没做完 問題が多すぎて、私はやり終えていません
第10回	第10課 别找了, 手机在桌子上呢 もう探さないで。携帯電話は机の上にあります

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	インテンシブ中国語Ⅱ	
第11回	第11課 他比我大三岁 彼は私より3つ年上です	
第12回	第12課 你穿得太少了 あなたはとても薄着です	
第13回	第13課 门开着呢 ドアは開いています	
第14回	第14課 你看过那个电影吗 あなたはあの映画を観たことがありますか	
第15回	第15課 新年就要到了 もうすぐ新年です	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	40	・期末試験
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	・授業への取り組み(30%):積極的に会話などの練習に参加する必要がある。毎回の授業は2点とする。 ・課題の提出(30%):単語テスト、例文作成。毎回の授業は2点とする。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	コミュニケーション論						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	樋口 葵		
<b>到達目標</b>							
<p>コミュニケーションの基礎を学び、自らのコミュニケーション能力を理論に照らし合わせて客観的に判断できる。          コミュニケーション能力を高め、学び考えたことを的確に表現できる。          具体的な対人関係場面でどのような態度・対応が望ましいかを考え、実践できる。          他者の意見を理解し、柔軟に異なる意見を認めることができる。          インタビューや対話を通じて情報を収集・整理できる。          客観性・論理性を備えた文章で情報発信ができる。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>リアクションペーパーを含めた小レポート(50%:10回×5点)、レポート(50%)          全15回中11回以上の出席かつ、100点中60点以上で単位を取得できる。</p>							
<b>テキスト</b>							
特になし							
<b>その他</b>							
<p>学生からの質問受付方法としては、a_higuchi@hokuyo.ac.jpまたはTeamsのチャットで受け付ける。          授業の進み具合、受講生の人数によって、授業計画の内容は変更する場合もある。</p>							
<b>講義内容</b>							
<p>人間関係や活動の範囲を広げるために重要な役割が果たすのがコミュニケーション能力である。          本授業では、対人・集団・社会におけるコミュニケーションの理論と実践を学ぶ。コミュニケーションの基礎から、メディアを通じた情報伝達、現代社会におけるコミュニケーションの課題までを扱う。また、担当教員の記者経験を踏まえ、取材・インタビュー・記事作成といった実践的な活動を通して、他者と関わりながら情報を正確かつ効果的に伝える力も養う。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	コミュニケーション論
<p>本授業は一方的な指導スタイルだけではなく、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング(学生が能動的に参加する授業展開)も適宜、取り入れ実施していく。 1回の授業あたり予習・復習を合わせて4時間程度、実施する必要がある。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション(自己紹介、アイスブレイク、グループトーク)
第2回	コミュニケーションとは
第3回	自己と他者の理解
第4回	対人コミュニケーションの理論
第5回	傾聴と共感の技法
第6回	集団コミュニケーションと役割
第7回	メディアとコミュニケーション(SNS・マスメディア)
第8回	メディアリテラシー
第9回	インタビューの基礎(質問設計)
第10回	インタビュー実践(ペアワーク)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	コミュニケーション論	
第11回	記事作成の基礎	
第12回	記事作成演習(発表・講評)	
第13回	アサーティブコミュニケーション	
第14回	現代社会におけるコミュニケーションの課題	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	リアクションペーパーを含めた小レポート(50%:10回×5点)、レポート(50%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		ビジネス日本語 I					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	中田 和則		
<b>到達目標</b>							
<p>上級(C2)レベルの日本語文法や表現を使ってビジネス関係の日本語コミュニケーションができる。  日本の職場で働く上で必要なマナーや習慣を理解する。  日本でのビジネス現場で、実際に活用できる基本的なコミュニケーション能力、ルール・マナーを身に着ける。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>定期試験は実施しない。授業への参加度(50%:50点×発言等の積極的な参画率)、各授業での質疑応答やロールプレイ、自己PRやビジネスピックに関するプレゼン発表(50%)合計100点で成績評価する。欠席5回以上は単位を認めない。</p>							
<b>テキスト</b>							
<p>主テキスト: 岩澤みどり・海老原恭子2021年「改訂新版 日本企業への就職 ビジネスマナーと基本のことば」アスク出版  参考文献: 武田聡子・長崎清美2023年「改訂版 留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール」日本能率協会マネジメントセンター、新聞各紙</p>							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
<p>テキスト等を活用し、日本のビジネスマナーについて説明し、理解してもらい練習する。都度、日本語の新聞記事からビジネスに関する話題を採り上げる。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
<p>日本語の新聞各紙(全国紙・地方紙・経済専門紙等)を読む習慣をつけ、ビジネスに関する最新の情報の収集を図っておくこと。</p>							
<b>取得可能な資格</b>							
<p>ビジネス日本語検定。</p>							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	ビジネス日本語 I
一方的な講義にならないように、毎回、発言を求める。授業の後半では、学生自身による自己PRやビジネス・トピック等のプレゼンを実施する。毎回4時間の予復習が必要。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション 日本のビジネスマナーについて
	担当教員 中田 和則
第2回	社会人としての基本(1) 身だしなみ、あいさつ、言葉使い
	担当教員 中田 和則
第3回	社会人としての基本(2) 社内のルール
	担当教員 中田 和則
第4回	日本の職場での電話マナー(1) 電話のかけ方、伝言の依頼、電話の受け方、伝言を受ける
	担当教員 中田 和則
第5回	日本の職場での電話マナー(2) 様々な電話への対応、携帯電話のマナー
	担当教員 中田 和則
第6回	日本の職場での来客時のマナー 来客への応対、会議室・応接室への案内、訪問客を待たせたら、お茶を出す
	担当教員 中田 和則
第7回	日本で他社訪問時のマナー アポイントを取る、会社を訪問する、名刺交換、打ち合わせ
	担当教員 中田 和則
第8回	ビジネスの基本 指示を受ける、ビジネスの基本“ほう・れん・そう”、会議、おわびとお礼
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	ビジネス日本語 I	
第9回	ビジネスのルール 時間厳守、就業時間、テレワーク、情報管理、ハラスメント	
	担当教員	中田 和則
第10回	社内のマナー コミュニケーション、葬儀・贈答・飲食のマナー	
	担当教員	中田 和則
第11回	社外のマナー 職場での内と外、移動の席次、営業活動	
	担当教員	中田 和則
第12回	ビジネスのスキル 敬語の使い方、話し言葉と書き言葉、ビジネス文書の形式	
	担当教員	中田 和則
第13回	学生自身による自己PRやビジネス・トピック等のプレゼン	
	担当教員	中田 和則
第14回	学生自身による自己PRやビジネス・トピック等のプレゼン	
	担当教員	中田 和則
第15回	総まとめ	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	出席、授業への参加度(50%:50点×発言等の積極的参画率) 質疑応答やロールプレイ、自己PRやビジネストピックのプレゼン発表(50%)合計100点で評価する。 欠席5回以上は単位を認めない。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	ビジネス日本語 I	
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	中国語コミュニケーション I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C325・C326	担当教員	田 桃雨		
<b>到達目標</b>							
自分のことについて説明できる。 基本的なトピックについて中国語で会話することができる。							
<b>成績評価の方法</b>							
出席・授業への参加度(30%)、授業内の課題(30%)、期末テスト(40%)などにより総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
『中国語会話301』上(2015、語文研究社)							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
日常のいろいろな場面で使われる表現について学ぶ。運用能力を磨き、中国人と簡単な会話ができるようになることを目指す。積極的にコミュニケーションを取る機会を提供する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
テキスト							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	中国語コミュニケーション I
<p>スライドやプリントを利用し表現練習などを行い、話す練習をする。必要に応じて、ペアを組んでの対話練習や教師と1対1の対話練習など使い分けながら、相互的で、実践的なコミュニケーションを可能な限り行う。予習、復習時間を2時間ずつとする。</p>	
授業計画	
第1回	ガイダンス 挨拶
第2回	初めて会う
第3回	尋ねる I
第4回	尋ねる II
第5回	尋ねる III
第6回	必要 I
第7回	必要 II
第8回	必要 III
第9回	必要 IV
第10回	約束 I

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	中国語コミュニケーション I	
第11回	約束 II	
第12回	迎える I	
第13回	迎える II	
第14回	招待する	
第15回	授業のまとめ	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	40	期末試験 10分ぐらいの口頭試問
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	出席、授業への参加度(30%)、 授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):課題、小テストなどをちゃんとできているかによって評価する。 (毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		基礎ゼミナール I (田)					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	福本 達也、田 桃雨、黄 美花		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを正確に読解し、事実、例示、主張などテキストの論理構造を論じたり説明することができる。</li> <li>・テキスト内容を自分の言葉で要約できるようになる。</li> <li>・テキストに対して自分の意見を論理的に述べるようになる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度 (30%) 前半の授業で毎回行うテキストの内容についての要約文作成と後半の授業で毎回行う要約文および意見文 作成(30%) 期末課題として提出する報告型レポート (40%)							
<b>テキスト</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主テキスト:授業中に提示・指示をする。</li> <li>・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる！レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版</li> </ul>							
<b>その他</b>							
クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある							
<b>講義内容</b>							
まず、テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、要約文を作成する。次に、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養うために意見文を作成する。さらに、レポート作成の演習を通して、報告型レポートを作成する能力を培う。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナール I (田)
<p>前半の授業では、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、要約文を作成する。後半の授業では、テキストを読んで要約文作成と、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文を作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、報告型レポート作成の演習を行う。毎回課外学習(予・復習)として文章精読をさせる。課外学習時間(予・復習)は毎週4時間程度必要。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、要約文作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、要約文作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、要約文作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、要約文作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、要約文作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、要約文作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、要約文作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、要約文作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナール I (田)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない。 テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%):授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):要約文、意見文の作成などの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	報告型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		基礎ゼミナール I (黄)					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C319	担当教員	福本 達也、田 桃雨、黄 美花		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを正確に読解し、事実、例示、主張などテキストの論理構造を論じたり説明することができる。</li> <li>・テキスト内容を自分の言葉で要約できるようになる。</li> <li>・テキストに対して自分の意見を論理的に述べるようになる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度 (30%) 前半の授業で毎回行うテキストの内容についての要約文作成と後半の授業で毎回行う要約文および意見文 作成(30%) 期末課題として提出する報告型レポート (40%)							
<b>テキスト</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主テキスト:授業中に提示・指示をする。</li> <li>・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる！レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版</li> </ul>							
<b>その他</b>							
クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある							
<b>講義内容</b>							
まず、テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、要約文を作成する。次に、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養うために意見文を作成する。さらに、レポート作成の演習を通して、報告型レポートを作成する能力を培う。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナール I (黄)
<p>前半の授業では、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、要約文を作成する。後半の授業では、テキストを読んで要約文作成と、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文を作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、報告型レポート作成の演習を行う。毎回課外学習(予・復習)として文章精読をさせる。課外学習時間(予・復習)は毎週4時間程度必要。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、要約文作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、要約文作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、要約文作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、要約文作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、要約文作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、要約文作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、要約文作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、要約文作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナール I (黄)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない。 テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%):授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):要約文、意見文の作成などの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	報告型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		基礎ゼミナール I (福本)					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	福本 達也、田 桃雨、黄 美花		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを正確に読解し、事実、例示、主張などテキストの論理構造を論じたり説明することができる。</li> <li>・テキスト内容を自分の言葉で要約できるようになる。</li> <li>・テキストに対して自分の意見を論理的に述べるようになる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度 (30%) 前半の授業で毎回行うテキストの内容についての要約文作成と後半の授業で毎回行う要約文および意見文 作成(30%) 期末課題として提出する報告型レポート (40%)							
<b>テキスト</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主テキスト:授業中に提示・指示をする。</li> <li>・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる！レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版</li> </ul>							
<b>その他</b>							
クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある							
<b>講義内容</b>							
まず、テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、要約文を作成する。次に、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養うために意見文を作成する。さらに、レポート作成の演習を通して、報告型レポートを作成する能力を培う。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナール I (福本)
<p>前半の授業では、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、要約文を作成する。後半の授業では、テキストを読んで要約文作成と、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文を作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、報告型レポート作成の演習を行う。毎回課外学習(予・復習)として文章精読をさせる。課外学習時間(予・復習)は毎週4時間程度必要。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、要約文作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、要約文作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、要約文作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、要約文作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、要約文作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、要約文作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、要約文作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、要約文作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナール I (福本)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない。 テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%):授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):要約文、意見文の作成などの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	報告型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅢ(加藤)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	加藤 剛寿		
<b>到達目標</b>							
<p>1) 上記の副題に記載のキーワードのうち1つに関連する内容が説明できる。  2) 上記1)で取り上げた内容に関する研究仮説(問い)の方向性を説明できる。  3) 上記2)で挙げた研究仮説(問い)を明らかにするために必要な調査方法を説明できる。  4) クラスメンバーが上記1～3)の内容を発表会で発表する際、主体的に的確で深く掘り下げた質問ができる。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>後述の成績評価の方法の表に沿って評価する。全15回中11回以上の出席かつ、100点中60点以上で単位を取得できる。各課題は各授業を受講していないと取り組めない内容になっている点、留意すること。</p>							
<b>テキスト</b>							
特になし。							
<b>その他</b>							
<p>1) 授業に関する重大な内容をTeamsでお知らせする場合がある。少なくとも、毎日、1日1回は必ず、Teamsでお知らせがないか、入念に確認すること。Teamsのお知らせを閲覧できていなかったことにより不利益が生じた際、対応できない場合がある。予め了承すること。  2) 第1回(初回)授業のオリエンテーションで受講に関する大事な話をするので、必ず受講すること。万一、やむを得ない事情により、第1回(初回)授業を受講されなかった方は、必ず、履修登録前に加藤とアポイントをとり個別オリエンテーションを受けること。いずれのオリエンテーションの説明も一切受けず、履修登録は決してないこと。オリエンテーションの内容を知らず履修されミスマッチが</p>							
<b>講義内容</b>							
<p>現在、全世界共通とまではいかないが、変化が激しく先行きが見えにくい状況、いわゆるVUCAと言われる時代、健康寿命延伸のニーズが益々高まる時代、一人ひとりが誇りをもち、互いを尊重し合い、すべての人がその人の能力を最大限に発揮できる社会を目指している時代とある程度捉えることができると思われる。  こういった時代背景の中、本授業の担当者である私はこれまでの人生において、健康、生活習慣病(糖尿病など)、食生活、行動変容、腸内細菌叢、看護、ダイバーシティ・インクルージョン(心理的安全性など)に関する研究、仕事に取り組んできた。  本授業では、まず上述の関連キーワードについて受講生それぞれが調べたことを発表し合い、教員からのフィードバックを受け概</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
<p>1) 日本語能力試験N2以上の資格(保健医療分野の専門的な内容が含まれるため)  2) 健康、生活習慣病(糖尿病など)、食生活、行動変容、腸内細菌叢、看護、ダイバーシティ・インクルージョン(心理的安全性など)の中から、興味関心あるものを選択し、文献を読んでおくこと。  3) 15回の授業、全て大事な内容であり、1回も休むことのないよう、受講登録以前から体調管理を十分整えて臨むこと。</p>							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅢ(加藤)
1) 授業は教員からの一方的な指導(レクチャー)スタイルだけではなく、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング(学生が能動的に参加する授業展開)も適宜、取り入れ実施していく。 2) 1回の授業あたり予習・復習を合わせて4時間程度実施すること。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	自身が調べたことをパワーポイントを用いたプレゼン発表(口頭):健康、生活習慣病(糖尿病など) /フィードバック
第3回	自身が調べたことをパワーポイントを用いたプレゼン発表(口頭):食生活、行動変容 /フィードバック
第4回	自身が調べたことをパワーポイントを用いたプレゼン発表(口頭):腸内細菌叢、看護 /フィードバック
第5回	自身が調べたことをパワーポイントを用いたプレゼン発表(口頭):ダイバーシティ・インクルージョン(心理的安全性など) /フィードバック
第6回	自身の興味・関心のある分野について調べる①
第7回	自身の興味・関心のある分野について調べる②
第8回	自身の興味・関心のある分野について調べる③
第9回	取り上げた内容に関する研究仮説(問い)の方向性を考える①
第10回	取り上げた内容に関する研究仮説(問い)の方向性を考える②

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(加藤)	
第11回	自身の立てた研究仮説と類似した論文を調べる①	
第12回	自身の立てた研究仮説と類似した論文を調べる②	
第13回	発表会の準備(発表原稿、スライドの準備など)	
第14回	発表会 ①	
第15回	発表会 ②	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	発表会(100点)【発表時:プレゼンテーションの内容(60点)、質問に対する回答内容(20点)、聴講時:主体的な発言回数・質問の内容(20点)】
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅢ(末富)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	末富 弘		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食業の起業のために必要なノウハウを習得し、実践することができる。</li> <li>・最終的にはテキストに沿ってビジネスプランを作成する。</li> <li>・起業に関してゼミのメンバーと討議することができる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合計100点で、60点以上に単位を付与する。</li> <li>・ゼミの各回の理解度・学習態度:最高50点</li> <li>・ビジネスプランの完成度:最高50点</li> <li>・5回以上の欠席は単位を認めない。</li> </ul>							
<b>テキスト</b>							
<p>日本政策金融公庫発行の以下の「創業の手引」を使用する。  <a href="https://www.jfc.go.jp/n/finance/sougyou/pdf/sougyou_tebiki_book_202406.pdf">https://www.jfc.go.jp/n/finance/sougyou/pdf/sougyou_tebiki_book_202406.pdf</a></p>							
<b>その他</b>							
<p>実務家教員による科目  1977～1998 北海道拓殖銀行  (1986～1988 北海道出向)  1998～2011 北洋銀行  (2000～2007 北海道TLO出向)  2020～ 苫小牧信用金庫非常勤アドバイザー</p>							
<b>講義内容</b>							
<p>日本、とりわけ北海道では、経営者の高齢化や後継者難が顕著である。これらの要因を含め、企業の廃業数が開業数を上回り、企業数が減少していることが経済活性化の推進を妨げている。本講義においては、若手人材が起業に関心を持ち、具体的な方法を習得することにより、起業の促進につなげ、新たな事業の創出や地域経済活性化を目指すものである。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
<p>起業に関する関心を高めるために、日本政策金融公庫の以下の「全国創業事例集」に目を通しておくこと。  <a href="https://www.jfc.go.jp/n/finance/sougyou/case/">https://www.jfc.go.jp/n/finance/sougyou/case/</a></p>							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅢ(末富)
日本政策金融公庫の「創業の手引」を最初から読み込んで理解しながら作成し、最終的にはビジネスプランを完成する。1回のゼミに当たっては、それぞれ各2時間の予習(記載項目の理解)・復習(ビジネスプランの追記・修正)が必要である。個別指導を行うが、外部有識者による専門的な指導も交える場合もある。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	創業のためのチェックポイントを学修する。
第3回	創業に必要な事業計画書について、必要性和概要を習得する。
第4回	ビジネスプランの策定ステップについて学修する。 ビジネスプラン:「ビジネスプラン」とは、簡単に言うと事業を実現させるために作る計画のことです。会社が事業によって顧客に提供する技術・商品・サービス、そういったものからの収益の獲得方法、資金の調達や運用モデルなどを記載します。創業前に作成することもあれば、創業後に新たな事業を始める際に作成することもあります。
第5回	事業化するアイデアの整理を行う。
第6回	ビジネスモデルについて、確認を行い修正する。(1) ビジネスモデル:ビジネスモデルとは、企業や組織が収益を上げるための仕組みや構造を指します。これは、どのような製品やサービスを提供し、どのような手段で収益を得るかというビジネスの戦略を示すものです。
第7回	ビジネスモデルについて、確認を行い修正する。(2)
第8回	外部専門家によるアドバイスを受け、ビジネスモデルを修正する。
第9回	資金計画について学修し、ビジネスプランの策定につなげる。
第10回	収支計画・返済計画について学修し、ビジネスプランの策定につなげる。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(末富)	
第11回	売上予測について学修し、ビジネスプランの策定につなげる。	
第12回	創業の基礎知識(1) 事業形態、許認可、届け出等について学修し、ビジネスプランの策定につなげる。	
第13回	創業の基礎知識(2) 事業承継等について学修し、ビジネスプランの策定につなげる。	
第14回	作成したビジネスプランに対する外部有識者のアドバイスを受け、修正する(1)	
第15回	作成したビジネスプランに対する外部有識者のアドバイスを受け、修正する(2)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	ビジネスプラン策定に至るまでの学修を評価する。(50%) また、出来上がったビジネスプランについて評価する(50%) 合計100店で、60点以上に単位認定する。 5回以上の欠席は認めない。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅢ(福本)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C322	担当教員	福本 達也		
<b>到達目標</b>							
日本とアジアの他の国(特に中韓など)のそれぞれの社会や経済、文化などについて論じたり説明することができる。 日本とアジアの他の国(特に中韓など)の社会や経済、文化などを比較し、違いについて論じたり説明することができる。 国際社会の中でのお互いの関係について論じたり説明することができる。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への参加度(30%)、授業内の課題(30%)、期末レポート(40%)などにより総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
視覚資料、プリントを提供する。 参考資料: 一条真也監修、造事務所編著(2013)『徹底比較! 日中韓しきたりとマナー』祥伝社 吉野薫著(2021)『これだけは知っておきたい「経済」の基本と常識改訂新版』フォレスト出版							
<b>その他</b>							
授業計画は学生の理解・習得の程度によって変更することがある。 自主的で積極的な態度で授業に臨むことを期待する。							
<b>講義内容</b>							
日本や他のアジアの国(特に中韓など)の習慣や文化、マナー、経済などについて項目ごとに比較しながら説明し、それぞれの国のことを理解し、お互いのことを比較・議論していく。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
日本の文化や中韓などの外国の文化に興味・関心を持つことが望ましい。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅢ(福本)
<p>毎回、各項目について講義・説明した後、その内容について質疑応答と議論をする。復習として課題作成をする。復習時間は毎週4時間程度必要。 最後にテーマを決めて期末レポートを作成する。</p>	
授業計画	
第1回	全体ガイダンス、オリエンテーション
第2回	ゼミクラスでのガイダンス、授業について 文化比較の重要性について
第3回	異文化理解のメリット・デメリット、多文化共生、グローバル化のメリット・デメリットなどについて
第4回	日中韓などのライフスタイル比較(1)衣服文化
第5回	日中韓などのライフスタイル比較(2)料理、食べ物文化
第6回	日中韓などのライフスタイル比較(3)食事、飲酒、喫茶文化
第7回	日中韓などのライフスタイル比較(4)居住、家屋文化
第8回	日中韓などのライフスタイル比較(5)交通、通信、運輸、娯楽文化
第9回	日中韓などのライフスタイル比較(6)人間関係、人付き合い文化
第10回	日中韓などの年中行事、人生行事比較(1)人生通過儀礼、祝い事文化

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(福本)	
第11回	日中韓などの年中行事、人生行事比較(2)婚礼文化	
第12回	日中韓などの年中行事、人生行事比較(3)葬祭文化	
第13回	日中韓などの年中行事、人生行事比較(4)暦、季節行事(上半期行事)	
第14回	日中韓などの年中行事、人生行事比較(5)暦、季節行事(下半期行事)、時刻制度、陰陽五行説	
第15回	日中韓などの教育、教育制度の比較	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない。授業への参加度(30%):授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):要求した課題を指示通りに確実に作成しているか、できているかによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	期末レポート提出。40点満点。授業などで学んだ内容からいくつか選んでその内容について深く調査し分析してレポートを作成しているかどうかで評価する。レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅢ(田)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C319	担当教員	田 桃雨		
<b>到達目標</b>							
<p>翻訳の基礎理論(直訳・意識、機能主義、異文化対応など)を理解する。            実践的な翻訳スキル(原文分析、情報調査、訳文推敲)を身につける。            翻訳者としての倫理観(正確さ、責任、守秘義務)を養う。            映画、ドラマ、バラエティー番組などの日中翻訳が出来る。            字幕の作成が出来る。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>授業内の参加度、出席、態度:40%            期末課題の提出:60%</p>							
<b>テキスト</b>							
資料を配布する							
<b>その他</b>							
講義内容と方法は受講者人数と言語レベルによって、変更する場合がある。							
<b>講義内容</b>							
翻訳の基本理論とスキル、字幕の作成方法を学んでいく上で、日本で流行りの映画、ドラマ、バラエティー番組の文字起こしと中国語翻訳を行う。字幕を作成していく。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
<p>中国語話者:日本語N2レベル以上相当の能力            日本語話者:HSK4級のレベル以上相当の能力</p>							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅢ(田)
講義＋演習を中心に進める。講義で理論とポイントの解説をする。個人/グループ翻訳演習を行い、協力し合って、バラエティー番組などの翻訳をして、字幕を作成して、課題を提出する。単語の勉強、フィードバックのため、週に予習時間2時間、復習時間2時間を必要とする。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション 翻訳とは
第2回	翻訳の基本理論
第3回	翻訳の基本理論
第4回	翻訳のスキル
第5回	翻訳のスキル
第6回	翻訳のスキル
第7回	日中翻訳実践
第8回	日中翻訳実践
第9回	番組の文字起こしと翻訳
第10回	番組の文字起こしと翻訳

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(田)	
第11回	番組の文字起こしと翻訳	
第12回	番組の文字起こしと翻訳	
第13回	字幕作成	
第14回	字幕作成	
第15回	発表、課題提出	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	60	期末課題の提出
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	40	授業内の参加度、出席、態度:40%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅢ(中田)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C325・C326	担当教員	中田 和則		
<b>到達目標</b>							
財務諸表の仕組みの理解、日商簿記検定(3級・2級)やビジネス検定(3級)の合格レベルを到達目標とする。							
<b>成績評価の方法</b>							
ゼミへの積極的な参画状況(50%)ゼミの問題演習を随時採点(50%)合計100点。5回以上の欠席は単位を認めない。							
<b>テキスト</b>							
テキストと問題集は、講義の中で随時、指示する。							
<b>その他</b>							
会計の仕組みや、簿記の計算を中心に本気で取り組んでもらう。							
<b>講義内容</b>							
社会人として道を切り開いていくための、絶対的な切り札で強力な武器となる簿記の基本知識を、社会的に広く評価されている日商検定試験の問題演習を行うことで身に付ける。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
可能な範囲で、簿記・会計の基本的な知識を身に着けた、職業人として自分自身の将来像をイメージしておくこと。							
<b>取得可能な資格</b>							
日商簿記3級、日商簿記2級、ビジネス検定3級等							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅢ(中田)
仕訳取引、精算表、決算処理、の基本的な問題演習を中心に行うことで、財務諸表の根本的な仕組みを理解をする。復習に毎回4時間程度が必要になる。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
	担当教員 中田 和則
第2回	財務諸表について
	担当教員 中田 和則
第3回	仕訳取引について
	担当教員 中田 和則
第4回	仕訳取引について
	担当教員 中田 和則
第5回	仕訳取引について
	担当教員 中田 和則
第6回	総勘定元帳について
	担当教員 中田 和則
第7回	決算処理について
	担当教員 中田 和則
第8回	決算処理について
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(中田)	
第9回	精算表	
	担当教員	中田 和則
第10回	精算表	
	担当教員	中田 和則
第11回	工業簿記	
	担当教員	中田 和則
第12回	工業簿記	
	担当教員	中田 和則
第13回	原価計算について	
	担当教員	中田 和則
第14回	問題演習	
	担当教員	中田 和則
第15回	問題演習	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	ゼミへの積極的な参画状況(50%)ゼミの問題演習を随時採点(50%)合計100点。5回以上の欠席は単位を認めない。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(中田)	
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅢ(西川)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	西川 祥一		
<b>到達目標</b>							
<p>地元の苫小牧市を活性化するために、コミュニティFMの番組を制作し、情報発信するプロジェクトゼミです。</p> <p>1)自分たちでラジオ番組を企画、制作できる  2)地域の特性を理解し、地域の問題を把握し、解決策を提案できる。  3)コミュニティラジオというメディアの役割を説明できる</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
ゼミの積極的参加(30%)、ゼミ中のプレゼン力や企画力(20%)FM番組の完成度(25%)、プロジェクトについてのレポート(25%)で評価し、60点以上に単位を付与する。							
<b>テキスト</b>							
必要に応じて、資料を用意します。							
<b>その他</b>							
実務家教員による科目 1982～2022年 朝日新聞社勤務。東京・大阪で社会部員、東京本社校閲センター長、北海道報道センター長を務める							
<b>講義内容</b>							
このゼミは、専門書のレジメを書き発表したり、それぞれのテーマで議論したりという従来型のゼミではありません。テーマを調査し、立案し、実行するプロジェクト型の演習です。大きなテーマは、苫小牧市の活性化です。地元を元気にしようとしている人たちや本学の先生の思いなどを紹介しながら、実行していく実践型のゼミです。2026年度のテーマは、「苫小牧のウリは何か」です。本学の教員をゲストに、各専門分野の研究をつづじて見えている「苫小牧の今」を、SNSやコミュニティFMの番組作成などを通じて発信していきます。 (履修の注意) 企業、商店、NPOなどとの交流や社会体験に、意欲的な学生の受講を期待しています。教室で街の活性化を目指し							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅢ(西川)
このゼミは、他の授業や部活、アルバイトなどとのスケジュール調整が必要です。しかし、このプロジェクトを優先するような強制はしません。社会人に求められるセルフマネジメントを学ぶ機会でもあります。自ら立案したプロジェクトを進行させ、一定の実績を出すのが目的です。地域の抱える課題、ラジオに登場するゲストについても調査、ラジオ番組の収録、編集などの作業(予習、復習)に4時間はかかります。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	まちおこしを行う人たちの、活動内容や目標を聞き、ゼミの活動を決める①
第3回	まちおこしを行う人たちの、活動内容や目標を聞き、ゼミの活動を決める②
第4回	FM番組制作
第5回	FM番組制作
第6回	まちおこしを行う人たちの、活動内容や目標を聞き、ゼミの活動を決める③
第7回	まちおこしを行う人たちの、活動内容や目標を聞き、ゼミの活動を決める④
第8回	街の課題と取り組むプロジェクトの設定①
第9回	FM番組の制作
第10回	FM番組の制作

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(西川)	
第11回	フィールドワーク	
第12回	フィールドワーク	
第13回	FM番組の制作	
第14回	プロジェクトの実施計画の発表	
第15回	総まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	ゼミの積極的参加(30%)、ゼミ中のプレゼン力や企画力(20%) FM番組の完成度(25%)、プロジェクトについてのレポート(25%)で評価する。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅢ(星野)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C323	担当教員	星野 芳輝		
<b>到達目標</b>							
卒業論文執筆に必要なテーマ研究遂行のための知識と技能を習得する。							
<b>成績評価の方法</b>							
積極的参加 45% (3%×15回) 発表などの課題準備及び成果物 40% (10%×4回) 期末研究進捗報告 15%							
<b>テキスト</b>							
適宜指示							
<b>その他</b>							
講義内容は、受講生と相談の上決定する							
<b>講義内容</b>							
本講義においては、主に担当講師の専門である、「観光」または「ポップカルチャー」を中心に研究を行う。必要に応じてフィールドワークなども行うこともあるが、基本的には資料の精読や研究における基本的な能力の育成を目的とする。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
なし。							
<b>取得可能な資格</b>							
なし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅢ(星野)
議論や発表を中心に、受講生による主体的な取り組みによって構成する。 予習、復習の実施。(週4時間程度)	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	ゼミ活動(相談により決定する)
第3回	ゼミ活動(相談により決定する)
第4回	ゼミ活動(相談により決定する)
第5回	ゼミ活動(相談により決定する)
第6回	ゼミ活動(相談により決定する)
第7回	ゼミ活動(相談により決定する)
第8回	ゼミ活動(相談により決定する)
第9回	ゼミ活動(相談により決定する)
第10回	ゼミ活動(相談により決定する)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(星野)	
第11回	ゼミ活動(相談により決定する)	
第12回	ゼミ活動(相談により決定する)	
第13回	ゼミ活動(相談により決定する)	
第14回	ゼミ活動(相談により決定する)	
第15回	ゼミ活動(相談により決定する)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	積極的参加 45% (3%×15回) 発表などの課題準備及び成果物 40% (10%×4回) 期末研究進捗報告 15%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅢ(杉山)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C321	担当教員	杉山 維彦		
<b>到達目標</b>							
<p>観光に関連する産業について調査し、探求していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に密着する産業の調査</li> <li>・交通機関の活用</li> <li>・地元産業の観光に接続した開発</li> </ul> <p>以上について、フィールドワークをグループで行い、ディスカッション、プレゼンテーションを行い、地域に還元できるようまとめ上げる。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への参加度(40%)、授業内でのディスカッション、プレゼンテーション(40%・各20%)、レポート(20%)							
<b>テキスト</b>							
必要に応じ資料を配布する。							
<b>その他</b>							
<p>グループワークや個人でのプレゼンテーションを行ってもらう。</p> <p>配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意!</p> <p>授業内で小テストを行うことがあるので、欠席した場合はその点数が無くなる。</p> <p>また、期末試験に代わるレポートは授業中にテーマを発表する。</p> <p>よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、なるべく欠席をしない様に。</p>							
<b>講義内容</b>							
特に観光関連産業全般について、グループで調査し、その結果を討論の上まとめ上げるプロジェクト型のゼミとなります。授業時間以外にも、参与観察(定点観測)や聞き取り調査(インタビュー調査)のためフィールドへ出ることが多い実践型である。学生それぞれの興味分野を深く探求していく。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
その都度指示をします。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅢ(杉山)
教室でのディスカッション、プレゼンテーションに先駆け、フィールドへ出かける。 そのため、プライベートに影響する可能性があるがセルフマネジメントとしての能力が必要な場合もある。 授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。 事前学習:フィールドワークの行先などについて詳細に調べる。(各2時間) 事後学習:終了したフィールドワークを自分なりにまとめ次週提出する。(各2時間)	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス(観光・観光産業とは何か)
第2回	各自の興味分野から調査目標の選定
第3回	消費社会と観光・観光と非日常消費、観光と自己承認
第4回	村おこし・まちおこし・地域おこしと観光の関連性
第5回	フィールドについて事前調査のプレゼンテーション
第6回	ディズニーランド化する観光地(アラン・ブライマンの「ディズニー化論」を検討し、各自の調査とリンク付けする)
第7回	社会のディズニーランド化について考える(ディズニーランドのキャストとゲストやホスピタリティを考える)
第8回	フィールドワーク(白老牛肉まつり)
第9回	フィールドワーク(苫小牧の交通事情)
第10回	フィールドワーク(新千歳空港)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(杉山)	
第11回	フィールドワークの調査内容のまとめ	
第12回	フィールドワークについてプレゼンテーション	
第13回	エスニシティ(新大久保、鶴橋を考え地域とリンクさせ考察する)	
第14回	ポスト・ツーリズムとメディア論(メディア化する観光地と観光地住民、観光産業従業員、観光者の参与(動員)について考える)	
第15回	エピソード & まとめ(観光はどこに向かっているのか。地域(地元)の観光関連産業に対してどう向き合うか)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加度(40%)、授業内でのディスカッション、プレゼンテーション(40%・各20%)、レポート(20%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅢ(種石)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	種石 悠		
<b>到達目標</b>							
<p>歴史学・人類学・考古学、およびこれらの関連分野について、自分自身で研究テーマを設定し、その調査・研究方法を理解し、実施できるようにする。</p> <p>卒業研究に向けて、その対象分野の文献を読み込んで研究史を把握するとともに、解明されていない課題を明らかにする。明らかになった課題について、どのような分析法が有効か探り、分析を行う。</p> <p>分析結果から得られた新たな知見について解釈し、的確に口頭また文章で表現できるようにする。また、他の発表者と議論ができるようにする。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>各講義内の課題(3点×15回、45%)</p> <p>期末レポート(55点、55%)</p>							
<b>テキスト</b>							
<p>種石 悠 2023年『オホーツク文化の考古学：辺境から眺める古代日本』銀河書籍</p> <p>※ 購入希望者のみ、購入のこと。</p>							
<b>その他</b>							
特になし							
<b>講義内容</b>							
<p>歴史学・人類学・考古学、およびこれらの関連分野で卒業研究を行なおうとする学生が、調査・研究の方法を理解できるよう、担当教員の研究業績に沿いながら解説する。</p> <p>特に、学生が取り組もうとする研究分野について、その研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法を明確にできるように解説する。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅢ(種石)
<p>担当教員の著作をテキストに、歴史学・人類学・考古学研究法の実際を学ぶ。学生が取り組もうとする研究分野について、問題のテーマを各自で設定し、その研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法について発表し、議論する。研究史の理解は特に入念に行なう。</p> <p>毎回テキストの内容を1章ずつ解説してゆくので、講義の前に2時間をかけてわからない語句等を予習し、講義は関連文献などを用いて2時間をかけて復習を行なう。</p>	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第3回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第4回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第5回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第6回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第7回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第8回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第9回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。
第10回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(種石)	
第11回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。	
第12回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。	
第13回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。	
第14回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。	
第15回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	各講義内の課題 3点×15
その他	55	期末レポート 55点

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅢ(山中)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	山中 慎		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決を論じることができる</li> <li>・社会にどう貢献するかを述べるることができる</li> <li>・自分のキャリアについて具体的に活動することができる</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
評価方法: 講義内課題 評価割合: 講義内課題レポート(100%)・講義内での提出物にて評価する							
<b>テキスト</b>							
プリント・対象になる本は貸し出します							
<b>その他</b>							
学生の要望に合わせた講義内容に変更することも可能 可能な領域(スポーツ・経済・店舗経営・日本史)							
<b>講義内容</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ指導者、又は店舗経営学の本を読んで考察する</li> <li>・就職活動の準備</li> </ul>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅢ(山中)
アクティブラーニング (問答法・ディスカッション・グループワーク) ・予習(2時間):講義で取り上げる内容などにより、講義のおおまかな流れをつかんでおくこと。次回対象となる項目については各講義の終了時に説明する。 ・復習(2時間):講義で取り上げた重要なポイントを中心に、見直し、論点を整理すること。	
授業計画	
第1回	ガイダンス 準備学習:シラバスを読んで受講上の注意点について事前に調べておく(特に自己分析)
第2回	テーマ:問題解決力・経験を探る 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第3回	テーマ:進路先情報収集 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第4回	テーマ:就職先情報まとめ 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第5回	テーマ:スポーツコーチング理論、又は店舗経営学①指導者の研究、又は経営者の研究 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第6回	テーマ:スポーツコーチング理論、又は店舗経営学②指導者の研究、又は経営者の研究 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第7回	テーマ:スポーツコーチング理論、又は店舗経営学③指導者の研究、又は経営者の研究 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第8回	テーマ:スポーツコーチング理論、又は店舗経営学④指導者の研究、又は経営者の研究まとめ 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第9回	テーマ:自主研究(指定された課題を独自で研究する) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第10回	テーマ:トレーニング理論、又は店舗経営理論① 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(山中)	
第11回	テーマ:トレーニング理論、又は店舗経営理論② 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第12回	テーマ:トレーニング理論、又は店舗経営理論③ 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第13回	テーマ:自主研究(指定された課題を独自で研究する) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第14回	テーマ:研究中間報告 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第15回	テーマ:自主研究(指定された課題を独自で研究する) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	評価方法:講義内課題 評価割合:講義内課題レポート(100%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅢ(高橋)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Communication Strategies(CSs)を使用し、スムーズで自然な英会話ができるようになる。</li> <li>・会話分析をすることにより、コミュニケーション能力と相互作用能力をさらに向上させるためのアプローチを検討し、実践できる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
レポート: 20%, パフォーマンステスト: 80%(20点×4回) 欠席は4回までとする。5回以上欠席した場合は、単位認定不可。 本科目は、15週にわたって実施する課題提出、レポート、実技を含むパフォーマンステスト等の複数の評価要素を総合して評価するため、定期試験、再試験および追試験は実施しない。							
<b>テキスト</b>							
David Kehe, 2012, Discussion Strategies, Second Edition, ProLingua Associates							
<b>その他</b>							
授業計画は、学生の理解度および習熟度の状況に応じて変更する場合がある。							
<b>講義内容</b>							
段階を踏んだ基礎練習、そして豊富なスピーキング練習を通じて、実践的な英会話を学ぶ。またコミュニケーション活動が円滑に行われるために、Conversation Strategies(CSs)を身に付け、より効果的なコミュニケーションの方法を学び実践する。さらに会話分析をすることによりコミュニケーション能力と相互作用能力をさらに向上させるためのアプローチを検討する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
テキストをとパソコンを各自で必ず用意すること。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅢ(高橋)
<p>テキストの各レッスンで英会話の表現を学び、ペアワークを行い練習する。その後文字起こした会話を学生同士が分析する機会を提供する。テキストの予習、復習、会話を深く考察・分析するレポート作成で毎週4時間程度の予習復習が必要。</p>	
授業計画	
第1回	Orientation
第2回	Rejoinders and Follow-up Questions
第3回	Clarification Expressions
第4回	Clarification Questions, I and Comprehension Checks
第5回	Clarification Questions, II
第6回	Answering with Details
第7回	DISCUSSION
第8回	Paragraph Clarifications, I
第9回	Paragraph Clarifications, II
第10回	Answering for More Details

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(高橋)	
第11回	DISCUSSION	
第12回	DISCUSSION	
第13回	Interrupting Someone	
第14回	Words That Describe	
第15回	Telling What You've Heard	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート: 20% パフォーマンステスト: 80%(20点×4回)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅢ(黄)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	黄 美花		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・談話分析の主な理論と用語を理解し、自分の言葉で説明できる。</li> <li>・実際の談話データを収集し、文字起こし、分析を行う初歩的な手法が使える。</li> <li>・日常の言語使用に潜む力関係や社会的背景に気づき、言語を客観的に眺める視点を持つことができる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への参加度30%(2点×15回)、中間課題(データ収集+文字起こし+分析)40%(20点×2回)、最終発表30%(スライド10%+プレゼン20%)により総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定テキストは特になし。</li> <li>・参考文献は、授業中に適宜紹介する。</li> </ul>							
<b>その他</b>							
特になし							
<b>講義内容</b>							
談話研究の基礎理論、データ収集方法、文字化作業、データ分析とその記述法の内容を取り上げる。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
談話研究に関する論文を5篇以上調べ、読んでくること。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅢ(黄)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字起こしトレーニングを早い段階で導入する(スマホ録音、エクセル集計作業等)</li> <li>・グループワークでデータ分析の内容を共有し、議論する方法を進める。</li> <li>・文字化・記号化等の練習に、各自で週4時間程度の作業が必要となる。</li> </ul>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション(*必ずご参加ください) 談話、談話分析とは何か
第2回	談話の構造、談話の機能
第3回	談話とコミュニケーション
第4回	インタビュー談話
第5回	テーマ設定、発表
第6回	データの収集方法
第7回	文字化・記号化①
第8回	文字化・記号化②
第9回	分析法とその記述法①
第10回	分析法とその記述法②

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(黄)	
第11回	ペアワーク データ分析共有	
第12回	グループワーク データ分析共有	
第13回	テーマ発表①	
第14回	テーマ発表②	
第15回	最終発表、フィードバック	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	70	授業への参加度30%(2点×15回)、中間課題(データ収集+文字起こし+分析)40%(20点×2回)
その他	30	最終発表30%(スライド10%+プレゼン20%)

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅢ(奥村)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	奥村 訓代		
<b>到達目標</b>							
引用、参考文献などが適切に利用できる							
<b>成績評価の方法</b>							
45%:PPT発表、あるいはレポートの纏め方を議論する 39%:毎回の復習クイズ(1回3点満点×13回) 16%:授業参加度5%・進捗度5%・貢献度6%							
<b>テキスト</b>							
適時紹介・指定する							
<b>その他</b>							
特になし							
<b>講義内容</b>							
色々な興味ある文章や論文を読みながら、事前と論題への気づきやタイトルを発見する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
作文とレポート、またレポートと論文の違いを調べてくること。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅢ(奥村)
講義と演習を中心に行うが、授業で十分な議論や討議を行うためには各自が自分の主張と意見を調査・整理してくる必要がある ので、基本的に予復習に4・5時間が必要である。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション 自己紹介
第2回	作文「自分とは・・・」 作文を交換しながら意見を述べる
第3回	作文「私の学習方法」30分で作成後、皆で意見交換会
第4回	作文「外国から見る日本、日本から見る外国」30分 その後、意見交換会
第5回	作文「起承転結について」30分 その後、意見交換会
第6回	作文とレポートの書き方の相違点について(1) 禁句と決まった形式
第7回	作文とレポートの相違点 言葉の選び方、断定表現など
第8回	作文とレポートの相違点 引用の必要性 参考文献の書き表し方など
第9回	感想と事実列挙との違い 切り貼り引用の違い 盗用にならないために
第10回	レポートと論文の違い(1)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅢ(奥村)	
第11回	レポートと論文違い(2)	
第12回	レポートと論文の違い(3)	
第13回	入試問題「小論文」を考える(1)	
第14回	入試問題「小論文」を考える(2)	
第15回	作文、レポート、論文の違いをまとめる 期末発表など	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	45	PPT発表、あるいはレポートの纏め方を議論する
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	39	毎回の復習クイズ(1回3点満点×13回)
その他	16	授業参加度5%・進歩度5%・貢献度6%

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究春(田)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室	C322	担当教員	田 桃雨		
<b>到達目標</b>							
本授業の目的は、学生が自ら適切な研究テーマを設定し、問いを立てて論理的に考察する能力を養成することである。先行研究の分析と適切な研究方法の選択を通じて、学術的基礎力を習得させる。さらに、論文の構成や執筆規範に則り、これまでの学修の総括として研究成果をまとめあげ、学士課程における水準に達する論文の完成を目指す。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業参加度 (30点): 各回の積極的な発言・参加態度を(0~1点) x 30回で評価。 授業内課題 (30点): 各回の課題(小レポート等)の達成度を(0~1点) x 30回で評価。 論文 (40点): 知識の統合と独自の考察に基づいて評価。							
<b>テキスト</b>							
特になし							
<b>その他</b>							
授業の内容・計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。							
<b>講義内容</b>							
指導教員との面談を通じて、研究の進捗状況を報告し、必要な文献や研究方法について指導を受けながら論文を執筆する。また、口頭試問に向けた発表の構成や説明方法についても確認を行い、審査に対応できるよう準備を進める。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(田)
<p>学生各自の学位論文作成を全面的に支援をする。授業では、研究テーマの設定、適切な研究方法と資料収集手法の選択、論文構成の策定について指導を行う。毎回、学生が自身の研究進捗を報告し、参加者全体での質疑応答を通じて研究内容を深化させる。また、論理的で規範的な執筆技術の習得を図る。学生は、毎週7時間程度の課外学習(文献講読、資料分析、草案執筆など)を必須とし、授業での指導と課外学習を循環させることで、着実な研究の完成を目指す。</p>	
授業計画	
第1回	<p>ガイダンス 論文の定義と学術的価値。論文と作文、レポート、要約の違い 学術論文に対する正しい認識を構築し、学習目標を明確にする。</p>
第2回	<p>論文の効率的な読み方と分析方法 良質な模範論文を精読する。タイトル、要旨、キーワード、序論、本文、結論、参考文献という論文の構造を分解して学ぶ。その論理的流れと立証方法を分析する。論文構造の直感的な理解を築く。</p>
第3回	<p>研究倫理と学術規範 学問的誠実さの重要性について説明する。剽窃とは何か、文献の正しい引用方法を学ぶ。一般的な学術上の不正行為とその結果を紹介する。執筆の基本線となる厳格な学術道徳観を確立する。</p>
第4回	<p>研究テーマの確定と研究問題の発見 授業学習、社会現象、個人的興味、文献上の空白などから、可能性のある研究テーマを見つける方法。広範な「方向性」を、具体的で実行可能な「研究問題」に焦点を絞る方法を学ぶ。</p>
第5回	<p>文献検索と管理ツール入門 学術データベースを紹介する。キーワードを使った効率的な検索方法を学ぶ。文献管理ツールを導入し、文献の分類と読書ノートの管理方法を学ぶ。学術リソースを入手する基本的スキルを習得し、研究効率を高める。</p>
第6回	<p>文献レビューの書き方 文献レビューの目的は羅列ではなく、評議すること。既存研究を評析してその貢献と不足点を論じる方法を学び、自身の研究の切入点と価値を見出す。</p>
第7回	<p>研究手法の種類と選択(I) 事例研究、インタビュー、観察、テキスト分析など、一般的な質的研究手法を紹介する。その適用場面と長所・短所を解説する。</p>
第8回	<p>研究手法の種類と選択(II) アンケート調査、実験法、計量モデルなど、一般的な量的研究手法を紹介する。その基本論理と設計上の要点を解説する。</p>
第9回	<p>研究計画と研究計画書の設計 研究計画書の核心要素: 研究背景と問題、文献レビュー、研究意義、研究方法、研究計画、期待される成果を解説する。学生自身の論文の「設計図」を構築する指導を行う。</p>
第10回	<p>研究計画書模擬発表と相互評価 学生が自身の研究計画書を発表し、教師と学生が質問とコメントを行う。研究問題の価値、方法の実現可能性、論理の厳密性に焦点を当てる。</p>

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(田)
第11回	論文アウトラインの書き方 研究計画書から詳細なアウトラインへ。章節の設計、論点の配分、論拠の計画方法を解説し、論文の構造が層次的で明確、論理がスムーズであることを確保する。
第12回	データ収集と整理の技術 選択した方法に基づき、データ/資料収集の具体的な流れ、技術、および遭遇する可能性のある落とし穴を解説する。分析の準備のために、データを清洗し整理する方法を学ぶ。
第13回	序論の執筆要点 序論の構造を分解する: 宏観的背景→具体的問題→文献の空白→本研究の目的、方法、意義→論文構造の紹介。読者を引き付け、研究価値を明確に説明できる序論を書く。
第14回	理論的枠組みの構築 自身の分析を支える適切な理論を選択し活用する方法を解説し、研究を無根拠なものにしない。
第15回	本文執筆(I) — 論証の技術 学術論証の基本単位を学ぶ: 論点の提示→論拠(データ、事例、文献)の提供→分析→結論の導出。記述のみで論証がない状態を避ける。
第16回	本文執筆(II) — 段落と接続 接続語や接続文を使用し、段落間、章節間の流れを滑らかにする方法を学ぶ。
第17回	結果/発見の提示 データと核心的な発見を効果的に提示するため、表、図等多種の形式を使用する方法を学ぶ。
第18回	考察の深掘り 「結果」をどう解釈するかを解説する。
第19回	結論と要旨の執筆 結論部分で全文を要約し、貢献を重申し、不足点と将来の方向性を指摘する方法。要旨で極めて簡潔な言語で全文の精華を概括する方法を学ぶ。
第20回	論文執筆における一般的な論理的落とし穴と回避策 循環論法、因果関係の逆転、一般化の誤りなど、一般的な論理エラーを分析し、修正策略を提供する。
第21回	中間チェックと初稿講評 学生が論文初稿(或いは核心章节)を提出し、教師が集中講評を行い、共通及び個別の問題点を指摘する。
第22回	学術的語言表現の規範 学術写作の文体、時制、人称の書き方を学ぶ。口語的、情緒的表現を避ける。正確、明確、簡潔、客観的であることを追求する。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究春(田)	
第23回	論文修正の効果的な進め方 宏観的構造と論理を調整、段落と文を修正、言語と形式をチェック。	
第24回	ピアレビュー(相互評価)と自己修正ワークショップ 学生が論文を交換し、チェックリストに従って相互評価を行う。読者の視点から相手の論文の問題点を発見すると同時に、自身の写作も反省する。	
第25回	参考文献の規範と排版 指定の引用スタイルを深く学ぶ。	
第26回	図、表、付録の形式要求 図表のタイトル、番号、出典標注の規範を解説する。	
第27回	卒業論文答弁の流程と準備 答弁の全過程を詳しく説明する。	
第28回	模擬答弁演習(I) 模擬答弁を行い、完全な流程を体験する。教師と学生が評価員役を務めて質問する。	
第29回	模擬答弁演習(II)と一般的質問への対応策略 第一回演習へのフィードバックに基づき、第二回演習を行う。高頻質問への応答思路と言葉遣いを集中的に解説する。	
第30回	論文形式の最終確認と提出 学校の公式形式要求に照らし合わせて、表紙、宣言、ヘッダー/フッター、行間、フォント、ページ番号等、全ての詳細を逐一チェックする。	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業参加度(30点): 各回の積極的な発言・参加態度を(0~1点)x 30回で評価。 授業内課題(30点): 各回の課題(小レポート等)の達成度を(0~1点)x 30回で評価。
その他	40	論文(40点): 知識の統合と独自の考察に基づいて評価。

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		卒業研究春(杉山)					
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	杉山 維彦		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文作成のために必要な文献や資料を収集できるようになること</li> <li>前半では、仮テーマの設定と研究論文中の「研究動機や研究背景」などを作成できること</li> <li>後半は研究テーマを「観光・環境・ビジネス・観光事業」の4つに合致するものとし、日本における観光ビジネスの現状と課題、観光事業の経営問題等を考察できるようになること</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
レポート&プレゼン: 50% (10点×5回) 卒業論文: 50%							
<b>テキスト</b>							
これならできる!レポート・論文のまとめ方 / 新田誠吾 / 2019年 / すばる舎 / 978-4-7991-0837-6 / 1,650円(税込) ※教員の指示を受けてから購入すること							
<b>その他</b>							
個人でのプレゼンテーションを行ってもらう。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! ゼミメンバーでディスカッションを行うことがあるので、欠席にした場合はその点数が無くなる。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られないため欠席をしない様に。 欠席は厳しくチェックを行い、その時のプレゼンやワークの部分が大きく減点されることを理解した上で、参加すること。 また、期末試験に代わるレポートは卒業研究を意味する。							
<b>講義内容</b>							
本講義では、学生が自ら研究課題を設定し、テーマ選定・研究計画・資料収集・分析方法を学びながら主体的に研究を進める進捗状況の発表や報告会を通じて質疑応答を行い、教員の助言を受けつつ成果を論文として完成させる 教室でのディスカッション、プレゼンテーションに加え、ゼミ生単独での指導もある そのため、プライベートに影響する可能性があるがセルフマネジメントとしての能力が必要となる 授業時間外で、計210時間、週4時間の事前事後学習が必要 事前学習:フィールドワークの行先などについて詳細に調べる。(各2時間)							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(杉山)
<p>学生主体が主体となり、各自が研究課題を設定し、先行研究の調査、研究方法の検討、資料収集を通じて論文執筆を進める授業内での発表や相互のフィードバックを通じて研究を深化させ、課外学習として210時間、毎週約7時間の予習・復習に取り組むことを必要とする</p>	
<b>授業計画</b>	
第1回	プロローグ & ガイダンス
第2回	研究計画書を作成土台を作る
第3回	研究計画書を完成させる
第4回	研究計画発表会(各自プレゼン)
第5回	先行研究の発掘、過去の文献を探す
第6回	参考文献の検索・調査方法を学習し、図書館やインターネットで情報を収集する
第7回	仮説の設定と検証、論文構成と論理展開について、過去の文献例で学習する
第8回	教員とのディスカッションやゼミメンバーの意見より研究対象の大枠を形成する
第9回	収集した参考文献や先行研究などを精読し、その中から関心のある分野を選択し、卒論の方向性を決定する
第10回	研究分野の絞り込みから問題意識を涵養し、章立て(目次)を考える

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(杉山)
第11回	研究分野の絞り込みから問題意識を涵養し、レポート作成を開始する
第12回	本論の見直しを行い、可能な調査・観察・統計であるか再検討する
第13回	今後の研究計画のフローを再確認する
第14回	章立ての見直し(序論の手直し・本論の立て直し)
第15回	進捗状況について簡潔にまとめ、第1回中間報告する(各自プレゼン)
第16回	教員およびゼミメンバーでディスカッションを行い、他者の研究も共有し相互に意見し合う
第17回	引き続き教員およびゼミメンバーでディスカッションを行い、各自今後の研究方針を明確化する
第18回	簡易なレポートを完成し、提出する
第19回	提出されたレポートを共有し、ゼミメンバーでディスカッションをし自分の研究に結び付けてみる
第20回	研究結果を得るうえでの問題点に関して教員と意見交換を行う
第21回	問題点について再検討を行い、必要に応じ調査・観察・統計作りを再度検討する
第22回	参考文献・先行研究について再考し、再度レポートを手直しする

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究春(杉山)	
第23回	第2回中間に向けた発表資料を作成する	
第24回	進捗状況やレポートの完成具合をまとめ、第2回中間報告する(各自プレゼン)	
第25回	卒業論文の土台となるレポートを手直しし、論文の体裁に直す	
第26回	論文に直したレポートを確認し、図表や参考文献の確認を行う	
第27回	教員およびゼミメンバーでディスカッションを行い、他者の研究も共有し相互に確認	
第28回	卒論発表会(各自プレゼン)	
第29回	卒論発表会の反省会	
第30回	エピローグ & まとめ(卒業論文提出)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート&プレゼン: 50% (10点×5回) 卒業論文: 50%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究春(西川)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	西川 祥一		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャーナリズム、メディア論、地域創生などの分野を中心としたテーマで、各自の問題意識に沿って分析、考察ができる。</li> <li>・先行研究を調べ、適切な研究方法を見つけたうえで、研究計画書を書ける。</li> <li>・研究結果をまとめ、論理的な文章で論文を書くことができる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業内での積極的な参加(30%)・報告会での発表(30%)・論文などのまとめ(40%)で評価します。							
<b>テキスト</b>							
佐渡島沙織、吉野亜矢子(2021)『これから研究を書くひとのためのガイドブック(第2版)』ひつじ書房							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
基本的には指導教員と対面で、論文の執筆状況を説明、必要な文献や調査・研究方法のアドバイスを受けながら、執筆を進める。中間報告でのプレゼンの方法も検討する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
なし							
<b>取得可能な資格</b>							
なし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(西川)
<p>基本的には対面で進捗状況を説明し、受講者全員でディカッションを行い、指導教員からアドバイスを受ける。            ただ、卒業研究の指導は、学生が決める研究テーマ、文献研究か実証研究かなどの研究スタイル、学生の進捗状況などによって、担当教員の指導も異なってくる。授業計画は、随時変更されることを了解してほしい。毎週7時間程度は、予習や復習が必要。</p>	
授業計画	
第1回	テーマの設定、今後の進め方について説明
第2回	テーマ設定のための文献調査①
第3回	テーマ設定のための文献調査②
第4回	テーマ設定のための文献調査③
第5回	テーマ設定のための学術書を読む①
第6回	テーマ設定のための学術書を読む②
第7回	テーマ設定のための学術書を読む③
第8回	仮説の設定、基礎的な調査や研究方法の検討
第9回	仮説の設定、基礎的な調査や研究方法の検討
第10回	研究計画書の検討

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(西川)
第11回	研究計画書の検討
第12回	研究計画書の作成
第13回	分析や調査①
第14回	分析や調査②
第15回	分析や調査③
第16回	先行研究の調査
第17回	先行研究の調査
第18回	先行研究の調査
第19回	研究方法の確定
第20回	研究方法の確定
第21回	研究方法の確定
第22回	アウトラインの作成

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究春(西川)	
第23回	アウトラインの作成	
第24回	仮説の見直し	
第25回	仮説の見直し	
第26回	アウトラインと論文修正	
第27回	アウトラインと論文修正	
第28回	最終確認	
第29回	最終確認	
第30回	論文の読みなおし、提出	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での積極的な参加(30%)・報告会での発表(30%)・論文などのまとめ(40%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究春(星野)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室	C319	担当教員	星野 芳輝		
<b>到達目標</b>							
卒業論文の執筆と完成。							
<b>成績評価の方法</b>							
研究進捗の報告 50% 卒業論文 50%							
<b>テキスト</b>							
なし。適宜指示。							
<b>その他</b>							
講義内容は受講生と相談の上決定する。							
<b>講義内容</b>							
卒業論文完成を目指す。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
なし							
<b>取得可能な資格</b>							
なし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(星野)
卒業論文完成に向け、受講生による研究と報告、またディスカッションを中心に行う。 資料作成など、事前準備が必要な課題を課し、その報告を行う。 予習、復習 週7時間程度	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第3回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第4回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第5回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第6回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第7回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第8回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第9回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第10回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(星野)
第11回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第12回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第13回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第14回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第15回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第16回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第17回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第18回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第19回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第20回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第21回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)
第22回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究春(星野)	
第23回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)	
第24回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)	
第25回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)	
第26回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)	
第27回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)	
第28回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)	
第29回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)	
第30回	ゼミ活動(受講生と相談の上決定)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	研究進捗の報告 50% 卒業論文 50%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究春(高橋)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	高橋 あすか		
<b>到達目標</b>							
卒業論文の適切なテーマを設定し、自ら問いを立てて論理的に考察・表現し論じることができる。 先行研究や文献を収集・分析し、適切な研究方法を選択して研究計画を立案できる。 研究成果を自分の言葉でまとめ、論文として章立てや全体構成を整えることができる。							
<b>成績評価の方法</b>							
レポート: 50% (10点×5回) 論文: 50%							
<b>テキスト</b>							
酒井 聡樹 (2017)『これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版』共立出版							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
本講義では、学生が自ら研究課題を設定し、テーマ選定・研究計画・資料収集・分析方法を学びながら主体的に研究を進める。進捗状況の発表や報告会を通じて質疑応答を行い、教員の助言を受けつつ成果を論文としてまとめる。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(高橋)
<p>学生主体が主体となり、各自が研究課題を設定し、先行研究の調査、研究方法の検討、資料収集を通じて論文執筆を進める。授業内での発表や相互のフィードバックを通じて研究を深化させ、課外学習として毎週約7時間の予習・復習に取り組むことが必要。</p>	
授業計画	
第1回	論文を書く上での注意点と書き方
第2回	テーマ設定のための文献調査①
第3回	テーマ設定のための文献調査②
第4回	テーマ設定のための文献調査③
第5回	テーマ設定のための学術書を読む①
第6回	テーマ設定のための学術書を読む②
第7回	テーマ設定のための学術書を読む③
第8回	仮説の設定、基礎的な調査や研究方法の検討①
第9回	仮説の設定、基礎的な調査や研究方法の検討②
第10回	仮説の設定、基礎的な調査や研究方法の検討③

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(高橋)
第11回	研究計画書の検討
第12回	研究計画書の作成
第13回	分析や調査①
第14回	分析や調査②
第15回	分析や調査③
第16回	先行研究の調査①
第17回	先行研究の調査②
第18回	先行研究の調査③
第19回	研究方法の確定①
第20回	研究方法の確定②
第21回	研究方法の確定③
第22回	アウトラインの作成①

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究春(高橋)	
第23回	アウトラインの作成②	
第24回	仮説の見直し①	
第25回	仮説の見直し②	
第26回	論文執筆①	
第27回	論文執筆②	
第28回	論文執筆③	
第29回	論文執筆④	
第30回	論文執筆⑤	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート: 50% (10点×5回) 論文: 50%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究春(山中)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	山中 慎		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>論文を順序だてた(緒言・目的。研究方法・考察)組み立てができる</li> <li>パワーポイントを使った発表ができる</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
評価方法:論文の完成 評価割合:論文の完成(100%)・講義内での提出物にて評価する							
<b>テキスト</b>							
特になし							
<b>その他</b>							
必要なもの パソコン・タブレット等入力可能なもの							
<b>講義内容</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文完成に向けた仮設・検証を繰り返す。</li> </ul>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(山中)
アクティブラーニング (問答法・ディスカッション・実習・グループディスカッション) 1回の授業について ・予習(3.5時間)復習(3.5時間):講義で取り上げる内容などにより、講義のおおまかな流れをつかんでおくこと。 次回対象となる項目については各講義の講義時に説明する。	
授業計画	
第1回	ガイダンス 準備学習:シラバスを読んで受講上の注意点について事前に調べておく
第2回	論文作成(3年時振り返り) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第3回	論文作成(組み立て) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第4回	論文作成(組み立て) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第5回	論文作成(組み立て) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第6回	論文作成(アンケート実施・まとめ) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第7回	論文作成(アンケート実施・まとめ) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第8回	論文作成(アンケート実施・まとめ) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第9回	論文作成(アンケート実施・まとめ) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第10回	論文作成(分析) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(山中)
第11回	論文作成(分析) 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第12回	論文作成(分析) 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第13回	論文作成(分析) 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第14回	論文作成(分析) 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第15回	論文作成(中間発表: パワーポイントによる発表) 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第16回	論文作成(中間発表: パワーポイントによる発表) 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第17回	論文作成(修正期間) 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第18回	論文作成(修正期間) 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第19回	論文作成(修正期間) 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第20回	論文作成(修正期間) 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第21回	論文作成(本発表: パワーポイントによる発表) 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第22回	論文作成(本発表: パワーポイントによる発表) 準備学習: 前回の講義で最後に伝えた内容を予習する

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究春(山中)	
第23回	論文作成(再修正期間) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第24回	論文作成(再修正期間) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第25回	論文作成(再修正期間) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第26回	論文作成(再修正期間) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第27回	論文作成(本発表:パワーポイントによる発表) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第28回	論文作成(本発表:パワーポイントによる発表) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第29回	論文作成(修正期間) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第30回	論文作成(本発表:提出) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	評価方法:論文の完成 評価割合:論文の完成(100%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究春(種石)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	種石 悠		
<b>到達目標</b>							
卒業論文について、研究テーマを決定し、研究方法、論旨の展開の仕方について、本学の求める水準に達することができるようにする。 これまでの学修を総括する内容を、研究に盛り込むことができるようにする。							
<b>成績評価の方法</b>							
各講義内における課題(3点×15回、45%) 卒業論文(55点、55%)							
<b>テキスト</b>							
特になし							
<b>その他</b>							
特になし							
<b>講義内容</b>							
卒業論文の研究テーマについて、問いの立て方、先行研究のまとめ方、調査の仕方、論旨の組み立て方、考察と結論の書き方について指導する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
卒業論文の研究テーマを考えておくこと。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(種石)
<p>初回は卒業論文の研究テーマについて各自発表し、議論しながらテーマを絞り込む。2回目以降は毎回、卒業論文の執筆に向けた課題を出すので、まとめた課題を講義で発表し、整えてゆく。 毎回の講義の前に出した課題について、自分で調べながら4時間をかけて文章にまとめる。講義後は、指導した内容に沿って3時間をかけてまとめた文章を修正する。</p>	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	卒業論文の研究テーマ発表と議論
第3回	卒業論文の問題設定
第4回	卒業論文の問題設定
第5回	関連する先行研究のまとめ
第6回	関連する先行研究のまとめ
第7回	研究史の執筆と発表
第8回	研究史の執筆と発表
第9回	調査・分析の目的について
第10回	調査・分析の目的について

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(種石)
第11回	調査・分析の方法について
第12回	調査・分析の方法について
第13回	データをどのようにして集めるか
第14回	データをどのようにして集めるか
第15回	集めたデータをどのように分析するか
第16回	集めたデータをどのように分析するか
第17回	分析結果をどのようにまとめるか
第18回	分析結果をどのようにまとめるか
第19回	分析結果を解釈・考察する
第20回	分析結果を解釈・考察する
第21回	分析結果の解釈をまとめる
第22回	分析結果の解釈をまとめる

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究春(種石)	
第23回	分析結果の考察	
第24回	分析結果の考察	
第25回	考察結果をまとめる	
第26回	考察結果をまとめる	
第27回	結論をまとめる	
第28回	結論をまとめる	
第29回	論文の体裁を整える	
第30回	論文の体裁を整える	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	各講義内の課題 3点×15回
その他	55	卒業論文 55点

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		卒業研究春(加藤)					
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	加藤 剛寿		
<b>到達目標</b>							
上記の副題のテーマに関する研究において、 1) 先行文献から、背景を記載するとともに、口頭で発表することができる。 2) 背景に沿った、目的、方法を記載するとともに、口頭で発表することができる。 3) 論理性、新規性のある卒業論文を作成するとともに、口頭で発表することができる。 4) 研究の基本的知識・技術・態度を身につけることができる。							
<b>成績評価の方法</b>							
後述の成績評価の方法の表に沿って評価する。全30回中21回以上の出席かつ、100点中60点以上で単位を取得できる。各課題は各授業を受講していないと取り組めない内容になっている点、留意すること。							
<b>テキスト</b>							
特に指定はないが、自身の研究テーマに関連する図書や、研究の一連の流れが記載されている図書等を熟読すること。							
<b>その他</b>							
1) 授業に関する重大な内容をTeamsでお知らせする場合がある。少なくとも、毎日、1日1回は必ず、Teamsでお知らせがないか、入念に確認すること。Teamsのお知らせを閲覧できていなかったことにより不利益が生じた際、対応できない場合がある。予め了承すること。 2) 自身で決定した研究テーマの内容が、これまで、学修したことがない内容である場合、予習・復習時間について、毎週計7時間でも足りない可能性が高い。単位取得、卒業のために、授業時間外での十分な学修が必要である。この点を予め了承の上、受講すること。							
<b>講義内容</b>							
1) 最終的に卒業論文を作成、発表、提出できるよう授業を展開していく。 2) 研究テーマについては、健康、生活習慣病(糖尿病など)、食生活、行動変容、腸内細菌叢、看護、ダイバーシティ・インクルージョン(心理的安全性など)の中から、興味関心あるテーマとする。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
1) 日本語能力試験N2以上の資格(保健医療分野の専門的な内容が含まれるため) 2) 健康、生活習慣病(糖尿病など)、食生活、行動変容、腸内細菌叢、看護、ダイバーシティ・インクルージョン(心理的安全性など)の中から、興味関心あるものを選択し、文献を読んでおくこと。 3) 本科目の受講予定者は、本科目の内容と連動している「専門ゼミナールⅢ(加藤)」、「専門ゼミナールⅣ(加藤)」を受講すること。 4) 30回の授業、全て大事な内容であり、1回も休むことのないよう、受講登録以前から体調管理を十分整えて臨むこと。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(加藤)
1) 毎回、ほとんど全ての授業において、予習してきた内容について、口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションを実施する。 2) 1回の授業あたり予習・復習を合わせて7時間程度実施すること。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	初期段階の研究テーマの発表(パワーポイント使用)、ディスカッション
第3回	【先行研究】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第4回	【先行研究】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー
第5回	【先行研究】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー3ー
第6回	【背景】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第7回	【背景】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー
第8回	【背景】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー3ー
第9回	【目的】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第10回	【目的】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(加藤)
第11回	【目的】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー3ー
第12回	【方法】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第13回	【方法】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー
第14回	【調査】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第15回	【調査】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー
第16回	【調査】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー3ー
第17回	【分析】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第18回	【分析】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー
第19回	【考察】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第20回	【考察】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー
第21回	【結果】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第22回	【結果】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究春(加藤)	
第23回	【結論】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッション	
第24回	論文作成・発表準備ー1ー	
第25回	論文作成・発表準備ー2ー	
第26回	論文作成・発表準備ー3ー	
第27回	発表・ディスカッションー1ー	
第28回	発表・ディスカッションー2ー	
第29回	発表・ディスカッションー3ー	
第30回	最終まとめ・提出	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業論文の内容(60%) 授業中のディスカッション態度(20%) 口頭での発表(質疑応答を含む)(20%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究春(黄)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	黄 美花		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら問題意識を持ち、テーマ設定ができる。</li> <li>・適切な文献を収集し、まとめることができる。</li> <li>・学術的な文章として卒業論文を執筆、完成できる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への参加度15%(0.5点×30回)、中間提出物15%(5点×3回)、授業内での発表20%(5点×4回)、論文の出来具合50%により総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
指定テキストは特になし。 参考文献は、授業中適宜紹介する。							
<b>その他</b>							
特になし							
<b>講義内容</b>							
論文を仕上げていく。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
就職、進学等進路を念頭において、一年間の全体計画を考えてくる。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(黄)
講義と演習 先行文献を読み、データを収集する等作業に毎週7時間程度必要となる。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション(*必ずご参加ください) 卒論とは何か
第2回	テーマの検討、生成AIの問題
第3回	良い問いを立てるための演習 テーマの精緻化
第4回	文献の探し方
第5回	先行研究の書き方
第6回	先行研究のまとめ①
第7回	先行研究のまとめ②
第8回	研究方法論の選択
第9回	データ収集の設計
第10回	データ収集・分析の基礎

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(黄)
第11回	文字化・記号化
第12回	目次案の作成
第13回	序論の書き方(背景、目的、問い)
第14回	序論のまとめ、発表
第15回	序論のフィードバック
第16回	執筆のルールと表現技法 引用、注記、参考文献の形式
第17回	論文の執筆とフィードバック①
第18回	論文の執筆とフィードバック②
第19回	論文の執筆とフィードバック③
第20回	論文の執筆とフィードバック④
第21回	ペアワーク(学生同士でコメント)①
第22回	ペアワーク(学生同士でコメント)②

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究春(黄)	
第23回	教員からのフィードバック①	
第24回	教員からのフィードバック②	
第25回	推敲と校正①(全体)	
第26回	推敲と校正②(日本語表現等)	
第27回	論文完成のための最終調整①	
第28回	論文完成のための最終調整②	
第29回	提出準備(形式、提出方法等の確認)	
第30回	最終確認、提出完了	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業への参加度15%(0.5点×30回)、中間提出物15%(5点×3回)、授業内での発表20%(5点×4回)
その他	50	論文の出来具合

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究春(奥村)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	奥村 訓代		
<b>到達目標</b>							
論文が正しく書けること 就職や進学に役立つこと							
<b>成績評価の方法</b>							
論文の出来具合90%、研究に対する態度10%							
<b>テキスト</b>							
特になし							
<b>その他</b>							
特になし							
<b>講義内容</b>							
論文を書く							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
進学するなら、どの大学のどの研究科、どの先生について何をしたいかを考えてくる。 就職するなら、どの企業のどの分野で、どんな仕事をしたいかを考えてくる。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(奥村)
演習と講義 毎回PPTを準備する 予習・復習に毎週計7時間が必要	
授業計画	
第1回	自分の進路と論文関係を語る(1人5分から10分)
第2回	各自論文の構成を発表する(PPT)
第3回	各自論文の再構築(PPT)
第4回	「はじめに」を書く
第5回	「はじめに」の再考
第6回	先行研究の発表(1)
第7回	先行研究の発表(2)
第8回	先行研究の発表(3)
第9回	先行研究の発表(4)
第10回	先行研究の纏めと発表(PPT)

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(奥村)
第11回	先行研究の纏めと発表(PPT)
第12回	参考文献の発掘と発表(1)
第13回	同上(2)
第14回	同上(3)
第15回	参考文献の確認と内容吟味
第16回	先行研究と参考文献から、自分の論文における考察をする(1)
第17回	同上(2)
第18回	同上(3)
第19回	必要なデータをまとめる(1) アンケートの有無
第20回	同上(2)
第21回	同上(3)
第22回	全体的まとめと結論へ(1)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究春(奥村)	
第23回	同上(2)	
第24回	同上(3)	
第25回	相互発表による指摘会(1)	
第26回	同上(2)	
第27回	同上(3)	
第28回	同上(4)	
第29回	発表1	
第30回	発表2	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	90	論文の出来高
その他	10	研究に対する態度

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		卒業研究春(末富)					
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	末富 弘		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実現可能なビジネスプランを策定する。</li> <li>・各種ビジネスプランコンテストに参加し、評価を受ける。</li> <li>・起業までの課題を認識し、解決に努める。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合計100点で、60点以上の場合に単位を付与するが、ビジネスプランの提出が無い場合は単位を認めない。</li> <li>・ゼミの各回の理解度・学習態度:最高60点(30回×2点～各回の評価)</li> <li>・ビジネスプランの完成度:最高40点(1回×40点～作成したビジネスプランの評価)</li> <li>・5回以上の欠席は単位を付与しない。</li> </ul>							
<b>テキスト</b>							
<p>ドリームゲートの「事業計画書」(パワーポイント)を使用する。          日本政策金融公庫発行の以下の「創業の手引」をサブテキストとする。  <a href="https://www.jfc.go.jp/n/finance/sougyou/pdf/sougyou_tebiki_book_202406.pdf">https://www.jfc.go.jp/n/finance/sougyou/pdf/sougyou_tebiki_book_202406.pdf</a>          また、都度、参考資料等は提供する。</p>							
<b>その他</b>							
<p>実務家教員による科目          1977～1998 北海道拓殖銀行          (1986～1988 北海道出向)          1998～2011 北洋銀行          (2000～2007 北海道TLO出向)          2011～ 苫小牧信用金庫非常勤アドバイザー</p>							
<b>講義内容</b>							
<p>ドリームゲートの「事業計画書」にそって学修して作成していく。          都度、内容について確認し、指導するが、外部専門家の指導がある場合もある。          できあがった事業計画書は、各種ビジネスプランコンテストへの参加が可能なレベルまでブラッシュアップする。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
<p>日本政策金融公庫発行の以下の「創業の手引」を読み込み、創業までのイメージを上げる。  <a href="https://www.jfc.go.jp/n/finance/sougyou/pdf/sougyou_tebiki_book_202406.pdf">https://www.jfc.go.jp/n/finance/sougyou/pdf/sougyou_tebiki_book_202406.pdf</a></p>							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(末富)
<p>ドリームゲートの「事業計画書」を作りこんでいく。            都度教員や外部専門家の指導を入れて、ブラッシュアップする。            毎週予習3時間、復習に4時間を当てる。事前配布された資料で3時間の予習(ゼミ前には、ゼミを効果的に進めるため当日の内容についてあらかじめ理解しておく)を行い、講義終了後に4時間の復習(ゼミ後には学修・作成した部分について見直し、必要であれば修正する)を行って補完する。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	起業の心構えについて学修する。
第3回	起業する業種について決める。
第4回	起業する背景(どうしてこの業種にしたか)と事業の使命・理念・目的を説明する。
第5回	サービスや製品の内容を決める。(1)
第6回	サービスや製品の内容を決める。(2)
第7回	事業の対象となる市場の規模や特徴をまとめ、説明する。
第8回	事業の対象となる市場の規模や特徴をまとめ、説明する。
第9回	事業の優位性(商品サービス、人材、立地、チャネル等)を調査する。
第10回	事業の優位性(商品サービス、人材、立地、チャネル等)をまとめ、説明する。

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(末富)
第11回	外部専門家の指摘を受け、修正する。(1)
第12回	外部専門家の指摘を受け、修正する。(2)
第13回	ビジネスモデルを検証する。(実現可能性、経営プランの内容)
第14回	マーケティング計画を作成する。
第15回	マーケティング計画を検証し、必要があれば修正して説明する。
第16回	短期的・中期的・長期的な事業目標を作成し、説明する。
第17回	事業の収支計画(売上・費用・利益等)を作成する。
第18回	事業の収支計画を確定し、説明する。
第19回	想定されるリスクを検証し、解決策を説明する。
第20回	必要な設備や運転資金を算定し、資金計画を策定する。
第21回	資金計画を確定し、説明する。
第22回	開業までのスケジュールを策定する。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究春(末富)	
第23回	サマリー(概要書)を1ページにまとめて作成する。	
第24回	外国人起業に関して学修する。	
第25回	外国人起業の課題や解消法について説明する。	
第26回	出来上がったビジネスプランについてゼミで発表し、意見を聴いたうえで必要があれば修正する。(1)	
第27回	出来上がったビジネスプランについてゼミで発表し、意見を聴いたうえで必要があれば修正する。(2)	
第28回	出来上がったビジネスプランについて外部専門家に対して発表し、意見を聴いたうえで必要があれば修正する。(1)	
第29回	出来上がったビジネスプランについて外部専門家に対して発表し、意見を聴いたうえで必要があれば修正する。(2)	
第30回	出来上がったビジネスプランについて外部専門家に対して発表し、意見を聴いたうえで必要があれば修正する。(3)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合計100点で、60点以上の場合に単位を付与するが、ビジネスプランの提出が無い場合は単位を認めない。</li> <li>・ゼミの各回の理解度・学習態度:最高60点(30回×2点～各回の評価)</li> <li>・ビジネスプランの完成度:最高40点(1回×40点～作成したビジネスプランの評価)</li> <li>・5回以上の欠席は単位を付与しない。</li> </ul>
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究春(福本)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	福本 達也		
<b>到達目標</b>							
卒業論文の適切なテーマを選び、自らが問いを立て、自らの考えを論理的に論じたり説明することができる。先行研究や文献資料などを収集、分析した結果について説明することができる。適切な研究方法を使用することができる。論文の適切な書き方を実践でき、各章を組み立て、全体の構成を整えた後、完成・提出することができる。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への貢献度(30%:0~2点評価X15回=30点満点)、授業内の課題(30%:0~2点評価X15回=30点満点)、論文(40%)などにより総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
参考テキスト:新田誠吾著(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』株式会社すばる舎 その他の参考文献は授業中に紹介する。							
<b>その他</b>							
授業の内容・計画は学生の理解・習得の程度や論文作成の進捗状況などにより変更することがある。							
<b>講義内容</b>							
学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。 各自の研究計画・論文作成計画を立てさせ、報告書を提出させる。 学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
卒業論文を作成できる知識と能力があることが望ましい。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(福本)
<p>毎回、学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。毎回課外学習(予・復習)として論文準備・作成をさせる。課外学習時間(予・復習)は毎週7時間程度必要。</p>	
<b>授業計画</b>	
第1回	授業のオリエンテーション。今学期の授業の計画や予定についてのガイダンス。
第2回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第3回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第4回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第5回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第6回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第7回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第8回	学生各自の論文の研究背景、研究目的、先行研究、研究方法などについて発表できるよう指導をする。また研究計画書の作成について指導する。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第9回	学生各自の論文の研究背景、研究目的、先行研究、研究方法などについて発表できるよう指導をする。また研究計画書の作成について指導する。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第10回	学生各自の論文の研究背景、研究目的、先行研究、研究方法、研究計画に沿った論文作成について指導する。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(福本)
第11回	学生各自の論文の研究背景、研究目的、先行研究、研究方法、研究計画に沿った論文作成について指導する。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第12回	学生各自の論文の研究背景、研究目的、先行研究、研究方法、研究計画に沿った論文作成について指導する。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第13回	学生各自の論文の研究背景、研究目的、先行研究、研究方法、研究計画に沿った論文作成について指導する。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第14回	学生各自の論文の研究背景、研究目的、先行研究、研究方法、研究計画に沿った論文作成について指導する。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第15回	学生各自の論文の研究背景、研究目的、先行研究、研究方法、研究計画に沿った論文作成について指導する。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第16回	今学期の授業の計画や予定についてのガイダンス。
第17回	学生各自の論文の現在の進捗状況にて発表できるように助言・指導を行う。
第18回	学生各自の論文の現在の進捗状況にて発表できるように助言・指導を行う。
第19回	学生各自の論文の現在の進捗状況にて発表できるように助言・指導を行う。
第20回	学生各自の論文の現在の進捗状況にて発表できるように助言・指導を行う。
第21回	学生各自の論文の現在の進捗状況にて発表できるように助言・指導を行う。
第22回	学生各自の論文の現在の進捗状況にて発表できるように助言・指導を行う。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究春(福本)	
第23回	学生各自の論文の現在の進捗状況にて発表できるように助言・指導を行う。	
第24回	学生各自の論文を完成し提出できるように準備させる。学生各自の現在の進捗状況に応じてそれぞれ助言・指導を行う。	
第25回	学生各自の論文を完成し提出できるように準備させる。学生各自の現在の進捗状況に応じてそれぞれ助言・指導を行う。	
第26回	学生各自の論文を完成し提出できるように準備させる。学生各自の現在の進捗状況に応じてそれぞれ助言・指導を行う。	
第27回	学生各自の論文を完成し提出できるように準備させる。学生各自の現在の進捗状況に応じてそれぞれ助言・指導を行う。	
第28回	学生各自の論文を完成し提出できるように準備させる。学生各自の現在の進捗状況に応じてそれぞれ助言・指導を行う。	
第29回	学生各自の論文を完成し提出できるように準備させる。学生各自の現在の進捗状況に応じてそれぞれ助言・指導を行う。	
第30回	学生各自の論文を完成し提出できるように準備させる。学生各自の現在の進捗状況に応じてそれぞれ助言・指導を行う。	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	各学期5回以上の欠席は単位認定できない。 授業への貢献度(30%): 授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%): 論文の準備・作成を確実にしているか、正確にできているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	論文提出。40点満点。選んだテーマ・内容について深く調査し分析して論文を作成しているかどうかで評価する。論文形式に則って論文を作成しているかどうかで評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究春(中田)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	中田 和則		
<b>到達目標</b>							
卒業論文の適切なテーマを選び、自らが問いを立て、自らの考えを論理的に表現することができる。先行研究や文献資料などを収集、分析する能力を身につけることができる。適切な研究方法を選び使用できる。論文の適切な書き方を理解し、各章を組み立て、 全 体の構成を整えた後、完成・提出することができる。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業への参加度(30%:0~1点評価X30回=30点満点)、授業内の課題(30%:0~1点評価X30回=30点満点)、論文(40%)などにより 総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
参考テキスト:新田誠吾著(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』株式会社すばる舎 その他の参考文献は授業中に紹介する。							
<b>その他</b>							
授業の内容・計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。							
<b>講義内容</b>							
学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。 各自の研究計画・論文作成計画を立てさせ、報告書を提出させる。 学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
卒業論文を作成できる知識と能力があることが望ましい。							
<b>取得可能な資格</b>							
なし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(中田)
<p>毎回、学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。毎回課外学習(予・復習)として論文準備・作成をさせる。課外学習時間(予・復習)は毎週7時間程度必要。</p>	
<b>授業計画</b>	
第1回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第2回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第3回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第4回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第5回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第6回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第7回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第8回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(中田)
第9回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第10回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第11回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第12回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第13回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第14回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第15回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第16回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第17回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究春(中田)
第18回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第19回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第20回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第21回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第22回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第23回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第24回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第25回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第26回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究春(中田)	
第27回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。	
	担当教員	中田 和則
第28回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。	
	担当教員	中田 和則
第29回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。	
	担当教員	中田 和則
第30回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への参加度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0~1点評価)X130=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):論文の準備・作成をちゃんとしているか、できているかによって評価
その他	40	論文提出。40点満点。選んだテーマ・内容について深く調査し分析して論文を作成しているかどうかで評価する。論文形式に則って論文を作成しているかどうかで評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	実習科目 実習科目						
科目名	フィールドスタディ						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択
種類	実習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	末富 弘		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・REASAS等の様々な手法により、地域の現状把握を行うことができる。</li> <li>・地域関係者等との交流により、地域の生活実感を把握する。</li> <li>・上記を踏まえ、地域の活性化策を提案する。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
事前学習30点・訪問時の学習30点・事後学習(提言)40点をもって合計100点で総合的に判断する。 なお、事前学習に30時間、事後学習に30時間を必要とする。							
<b>テキスト</b>							
都度、配布する。							
<b>その他</b>							
集中講義であることと、夏休み(あるいは冬休み)を利用すること、費用が別途必要なことを理解すること。また、引率の関係で人数制限を設けるためオリエンテーション等で確認すること。							
実務家教員による科目 1977～1998 北海道拓殖銀行 (1986～1988 北海道出向)							
<b>講義内容</b>							
事前学習:科学的な分析法による現地の分析 訪問先:自治体・産業界・住民との交流による現地情報の取得 事後学習:提言書作成							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の現状把握のための手法(REASAS等)を学修し、活用できるようにする。</li> <li>・訪問地域の現状について把握しておく。</li> </ul>							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	フィールドスタディ
グループワーキングによる実習	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	事前調査準備 (REASASの学修)①
第3回	事前調査準備 (REASASの学修)②
第4回	事前調査準備 (厚真町の歴史等の学修)
第5回	現地調査 (厚真町職員等との意見交換)
第6回	現地調査 (厚真町産業界関係者等との意見交換)
第7回	現地調査 (厚真町住民等との意見交換)
第8回	厚真町最終提言書とりまとめ①
第9回	厚真町最終提言書とりまとめ②
第10回	事前調査準備 (深川市の歴史等の学修)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目	
科目名	フィールドスタディ	
第11回	現地調査(深川市職員等との意見交換)	
第12回	現地調査(深川市産業界関係者等との意見交換)	
第13回	現地調査(深川市住民等との意見交換)	
第14回	深川市最終提言書とりまとめ①	
第15回	深川市最終提言書とりまとめ②	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	準備30%、学習度30%、完成度+発表40%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		実習科目 実習科目					
科目名		実践型インターンシップ I					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	実習	時間数		単位	2	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	西川 祥一		
<b>到達目標</b>							
1) インターンシップ(就業体験)先を決定し、インターンシップ(就業体験)に参加できる。 2) 企業のインターンシップ(就業体験)へ参加し、その企業の特徴を説明できる。 3) 企業のインターンシップ(就業体験)へ参加し、新たな自分の特性を説明できる。							
<b>成績評価の方法</b>							
授業中の小課題(30%)、インターンシップ報告(40%)、企業からの評価(30%)によって評価します。インターンシップ(就業体験)を途中で無断欠席した場合は、受講停止となり単位認定はされません。							
<b>テキスト</b>							
オリジナル資料を用意します。 <b>【参考図書】</b> 1) キャリアデザイン講座 第3版(大宮登 監修), 日経BP, 2019. 2) 大学生のための実践キャリアデザイン(藤木 清ら編), くろしお出版, 2023.							
<b>その他</b>							
1) 第1回(初回)のオリエンテーション参加必須。 2) 6月末の合同企業説明会へ、受講生全員で参加。一回分の授業の出席とみなす。また、インターンシップ(就業体験)1日分を授業4回分の出席とみなす。 3) 就業体験(インターンシップ)先が決定次第、速やかに企業名と期間を教員に知らせること。 4) インターンシップの企業の数と日数について、1つの企業で5日分も構わないが、できる限り視野を広げたり、比較検討してほしい観点から、複数の企業での体験となるよう、A企業2日分、B企業2日分として最低4日間のインターンシップ(就業体験)が必要。							
<b>講義内容</b>							
自分の将来を考える動機付けとして、企業のリアルな活動現場を見ることが重要です。そのために、実際にインターンシップ(就業体験)に参加するのが、この実習科目の目的です。事前に、「北洋大学の社会人学」を履修していることが望ましい。受講生は、インターンシップの目的や意義を学んだあと、インターンシップに参加する企業を探します。受講生は自分で探し、申し込み、参加することになります。夏休みの帰省中に、実家近くの企業でインターンシップに参加するなど、全国どこの企業のインターンシップにしても構いません。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	実践型インターンシップ I
1) インターンシップ(就業体験)に参加するまえに必要な知識を、座学で学びます。 2) 1回の授業あたり予習・復習を合わせて4時間程度、実施する必要があります。 3) 教員の他、実践的な内容について、外部講師の登壇も予定している。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション(授業計画、インターンシップの選び方)
第2回	学生と社会人の違い
第3回	ビジネスマナー
第4回	うちの会社のインターンシップは①
第5回	企業の探し方、合説活用法
第6回	うちの会社のインターンシップは②
第7回	自己分析
第8回	企業・業界研究①
第9回	企業・業界研究②
第10回	休講(合説参加の振替)

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	実践型インターンシップ I
第11回	参加するインターンシップは、どう決めた？
第12回	インターンシップ(職業体験)1日目①
第13回	インターンシップ(職業体験)1日目②
第14回	インターンシップ(職業体験)1日目③
第15回	インターンシップ(職業体験)1日目④
第16回	インターンシップ(職業体験)2日目①
第17回	インターンシップ(職業体験)2日目②
第18回	インターンシップ(職業体験)2日目③
第19回	インターンシップ(職業体験)2日目④
第20回	インターンシップ(職業体験)3日目①
第21回	インターンシップ(職業体験)3日目②
第22回	インターンシップ(職業体験)3日目③

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目	
科目名	実践型インターンシップ I	
第23回	インターンシップ(職業体験)3日目④	
第24回	インターンシップ(職業体験)4日目①	
第25回	インターンシップ(職業体験)4日目②	
第26回	インターンシップ(職業体験)4日目③	
第27回	インターンシップ(職業体験)4日目④	
第28回	インターンシップ報告会①	
第29回	インターンシップ報告会②	
第30回	総まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の小課題(30%)、インターンシップ報告(40%)、企業からの評価(30%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		実習科目 実習科目					
科目名		実践型インターンシップⅡ					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	実習	時間数		単位	2	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	中田 和則		
<b>到達目標</b>							
<p>① 苫小牧市内への企業への派遣研修・実習による実務経験を通じ、大学で習得した基礎的・専門的知識を深め、あわせて明確な職業意識を持つ。</p> <p>② 社会人として活躍するために現場担当者とのコミュニケーション能力を養い、積極性を身につける。</p> <p>③ 自分自身の職業人生へのステップとして位置付ける。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>① インターンシップ受入先の評価(40%)</p> <p>② 研修日誌の作成・研修レポート(40%)</p> <p>④ 体験報告会での発表(20%)10分程度で発表してもらいます。報告会の日程や発表内容は別途指示します。</p>							
<b>テキスト</b>							
指定しない。別途指示する。							
<b>その他</b>							
<p>〈インターンシップ期間中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ受入先での実習・研修および業務日誌の作製</li> </ul> <p>〈インターンシップ期間終了後〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修レポートの作製</li> <li>・研修体験報告会での発表</li> </ul>							
<b>講義内容</b>							
インターンシップの実践は企業での各企業毎に、個々の学生と面談およびマッチングにより決定する。なお、基本的にインターンシップ期間は、夏と秋冬の年2回の期間で実施する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	実践型インターンシップⅡ
<p>この授業は、北洋大学授業担当者もしくは苫小牧市役所担当者、インターンシップ企業による事前相談および面談と、インターンシップの実践から構成される。事前相談や面接は、必要に応じて回数を決定する。  予習は、必要に応じてインターンシップ先の企業調査を行いこと。復習は研修日誌と研修レポートで行う。  予習復習には毎回4時間程度を必要とする。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
	担当教員 中田 和則
第2回	インターンシップの説明(業務日誌・研修レポート・報告会資料作成)
	担当教員 中田 和則
第3回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第4回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第5回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第6回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第7回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第8回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	実践型インターンシップⅡ
第9回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第10回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第11回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第12回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第13回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第14回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第15回	行動日誌・振り返りシート作成
	担当教員 中田 和則
第16回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第17回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	実践型インターンシップⅡ
第18回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第19回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第20回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第21回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第22回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則
第23回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則
第24回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則
第25回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則
第26回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目	
科目名	実践型インターンシップⅡ	
第27回	インターンシップ実施(後期)	
	担当教員	中田 和則
第28回	行動日誌・振り返りシート作成	
	担当教員	中田 和則
第29回	インターンシップ体験報告会資料作成	
	担当教員	中田 和則
第30回	体験報告会: インターンシップ先について、発表する。内容は、①会社と担当業務②インターンシップ参加の目標と達成度③インターンシップでの気づき④将来の夢、取り組みたい事を、パワーポに纏め10分程度でプレゼンする。	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	①インターンシップ受入先の評価(40%) ②研修日誌の作成・研修レポート(40%) ④体験報告会での発表(20%)10分程度で発表する。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		実習科目 実習科目					
科目名		地域創生A					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	実習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	末富 弘		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・苫小牧地域の現状について理解し、説明できる。</li> <li>・最近の産業の変化や科学技術の進展を理解し、苫小牧市の今後について提言をまとめることができる。</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
授業参加態度30%、コメントペーパー30%、プレゼン内容40%など総合的に評価する。							
<b>テキスト</b>							
都度、配布する。							
<b>その他</b>							
“実務家教員による科目 1977～1998 北海道拓殖銀行 (1986～1988 北海道出向) 1998～2011 北洋銀行 (2000～2007 北海道TLO出向) 2020～ 苫小牧信用金庫”非常勤アドバイザー							
<b>講義内容</b>							
北海道地域活性化の拠点として、苫小牧地域が注目されている。 一方、苫小牧地域にも課題はあり、今後、その課題がより進むことも考えられる。 以上を考慮したうえで、苫小牧地域の活性化について提言をまとめる。 教員による講義のほか、専門家による講義等も行う場合がある。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
苫小牧地域の現状と課題について、苫小牧市のHP等で確認しておく。 <a href="https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/">https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/</a>							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	地域創生A
教員・専門家による座学と、現地訪問を交えた授業である。 事前配布資料で2時間の予習(記載内容の理解)を行い、授業終了後は2時間の復習を行う。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	苫小牧地域の現状について学修する。①
第3回	苫小牧地域の現状について学修する。②
第4回	苫小牧市の二次産業について学修する。
第5回	苫小牧市の二次産業を視察する。(予定)
第6回	苫小牧市の二次産業についてまとめる。
第7回	苫小牧市の一次産業について学修し、まとめる。
第8回	苫小牧市の三次産業について学習する。
第9回	苫小牧市の三次産業を視察する。(予定)
第10回	苫小牧市の三次産業についてまとめる。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目	
科目名	地域創生A	
第11回	苫小牧市の産業全体についてまとめる。①	
第12回	苫小牧市の産業全体についてまとめる。②	
第13回	ラピダスを初めとした半導体関連産業について学習する。	
第14回	提言をまとめる。①	
第15回	提言をまとめる。②	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加態度30%、コメントペーパー30%、プレゼン内容40%など総合的に評価する。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	実習科目 実習科目						
科目名	インターンシップA						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	実習	時間数		単位	2	授業回数	30
カリキュラム	2017	教室	C102	担当教員	西川 祥一		
<b>到達目標</b>							
<p>1) インターンシップ(就業体験)先を決定し、インターンシップ(就業体験)に参加できる。</p> <p>2) 企業のインターンシップ(就業体験)へ参加し、その企業の特徴を説明できる。</p> <p>3) 企業のインターンシップ(就業体験)へ参加し、新たな自分の特性を説明できる。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>授業中の小課題(30%)、インターンシップ報告(40%)、企業からの評価(30%)によって評価します。インターンシップ(就業体験)を途中で無断欠席した場合は、受講停止となり単位認定はされません。</p>							
<b>テキスト</b>							
<p>オリジナル資料を用意します。</p> <p>【参考図書】</p> <p>1) キャリアデザイン講座 第3版(大宮登 監修), 日経BP, 2019.</p> <p>2) 大学生のための実践キャリアデザイン(藤木 清ら編), くろしお出版, 2023.</p>							
<b>その他</b>							
<p>1) 第1回(初回)のオリエンテーション参加必須。</p> <p>2) 6月末の合同企業説明会へ、受講生全員で参加。一回分の授業の出席とみなす。また、インターンシップ(就業体験)1日分を授業4回分の出席とみなす。</p> <p>3) 就業体験(インターンシップ)先が決定次第、速やかに企業名と期間を教員に知らせること。</p> <p>4) インターンシップの企業の数と日数について、1つの企業で5日分も構わないが、できる限り視野を広げたり、比較検討してほしい観点から、複数の企業での体験となるよう、A企業2日分、B企業2日分として最低4日間のインターンシップ(就業体験)が必要。</p>							
<b>講義内容</b>							
<p>自分の将来を考える動機付けとして、企業のリアルな活動現場を見ることが重要です。そのために、実際にインターンシップ(就業体験)に参加するのが、この実習科目の目的です。事前に、「北洋大学の社会人学」を履修していることが望ましい。受講生は、インターンシップの目的や意義を学んだあと、インターンシップに参加する企業を探します。受講生は自分で探し、申し込み、参加することになります。夏休みの帰省中に、実家近くの企業でインターンシップに参加するなど、全国どこの企業のインターンシップにしても構いません。</p>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	インターンシップA
1) インターンシップ(就業体験)に参加するまえに必要な知識を、座学で学びます。 2) 1回の授業あたり予習・復習を合わせて4時間程度、実施する必要があります。 3) 教員の他、実践的な内容について、外部講師の登壇も予定している。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション(授業計画、インターンシップの選び方)
第2回	学生と社会人の違い
第3回	ビジネスマナー
第4回	うちの会社のインターンシップは①
第5回	企業の探し方、合説活用法
第6回	うちの会社のインターンシップは②
第7回	自己分析
第8回	企業・業界研究①
第9回	企業・業界研究②
第10回	休講(合説参加の振替)

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	インターンシップA
第11回	参加するインターンシップは、どう決めた？
第12回	インターンシップ(職業体験)1日目①
第13回	インターンシップ(職業体験)1日目②
第14回	インターンシップ(職業体験)1日目③
第15回	インターンシップ(職業体験)1日目④
第16回	インターンシップ(職業体験)2日目①
第17回	インターンシップ(職業体験)2日目②
第18回	インターンシップ(職業体験)2日目③
第19回	インターンシップ(職業体験)2日目④
第20回	インターンシップ(職業体験)3日目①
第21回	インターンシップ(職業体験)3日目②
第22回	インターンシップ(職業体験)3日目③

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目	
科目名	インターンシップA	
第23回	インターンシップ(職業体験)3日目④	
第24回	インターンシップ(職業体験)4日目①	
第25回	インターンシップ(職業体験)4日目②	
第26回	インターンシップ(職業体験)4日目③	
第27回	インターンシップ(職業体験)4日目④	
第28回	インターンシップ報告会①	
第29回	インターンシップ報告会②	
第30回	総まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の小課題(30%)、インターンシップ報告(40%)、企業からの評価(30%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		実習科目 実習科目					
科目名		インターンシップB					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択必修
種類	実習	時間数		単位	2	授業回数	30
カリキュラム	2017	教室	C102	担当教員	中田 和則		
<b>到達目標</b>							
<p>① 苫小牧市内への企業への派遣研修・実習による実務経験を通じ、大学で習得した基礎的・専門的知識を深め、あわせて明確な職業意識を持つ。</p> <p>② 社会人として活躍するために現場担当者とのコミュニケーション能力を養い、積極性を身につける。</p> <p>③ 自分自身の職業人生へのステップとして位置付ける。</p>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>① インターンシップ受入先の評価(40%)</p> <p>② 研修日誌の作成・研修レポート(40%)</p> <p>④ 体験報告会での発表(20%)10分程度で発表してもらいます。報告会の日程や発表内容は別途指示します。</p>							
<b>テキスト</b>							
指定しない。別途指示する。							
<b>その他</b>							
<p>〈インターンシップ期間中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ受入先での実習・研修および業務日誌の作製</li> </ul> <p>〈インターンシップ期間終了後〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修レポートの作製</li> <li>・研修体験報告会での発表</li> </ul>							
<b>講義内容</b>							
インターンシップの実践は企業での各企業毎に、個々の学生と面談およびマッチングにより決定する。なお、基本的にインターンシップ期間は、夏と秋冬の年2回の期間で実施する。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし。							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	インターンシップB
<p>この授業は、北洋大学授業担当者もしくは苫小牧市役所担当者、インターンシップ企業による事前相談および面談と、インターンシップの実践から構成される。事前相談や面接は、必要に応じて回数を決定する。  予習は、必要に応じてインターンシップ先の企業調査を行いこと。復習は研修日誌と研修レポートで行う。  予習復習には毎回4時間程度を必要とする。</p>	
<b>授業計画</b>	
第1回	オリエンテーション
	担当教員 中田 和則
第2回	インターンシップの説明(業務日誌・研修レポート・報告会資料作成)
	担当教員 中田 和則
第3回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第4回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第5回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第6回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第7回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第8回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	インターンシップB
第9回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第10回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第11回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第12回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第13回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第14回	インターンシップ実施(前期)
	担当教員 中田 和則
第15回	行動日誌・振り返りシート作成
	担当教員 中田 和則
第16回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第17回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	インターンシップB
第18回	学生との個別面談・指導
	担当教員 中田 和則
第19回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第20回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第21回	企業面談
	担当教員 中田 和則
第22回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則
第23回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則
第24回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則
第25回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則
第26回	インターンシップ実施(後期)
	担当教員 中田 和則

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目	
科目名	インターンシップB	
第27回	インターンシップ実施(後期)	
	担当教員	中田 和則
第28回	行動日誌・振り返りシート作成	
	担当教員	中田 和則
第29回	インターンシップ体験報告会資料作成	
	担当教員	中田 和則
第30回	体験報告会: インターンシップ先について、発表する。内容は、①会社と担当業務②インターンシップ参加の目標と達成度③インターンシップでの気づき④将来の夢、取り組みたい事を、パワーポに纏め10分程度でプレゼンする。	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	①インターンシップ受入先の評価(40%) ②研修日誌の作成・研修レポート(40%) ④体験報告会での発表(20%)10分程度で発表する。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	学芸員(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 学芸員						
科目名	博物館学実習						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	実習	時間数		単位	3	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C325・C326	担当教員	種石 悠		
<b>到達目標</b>							
博物館での実習に必要な基礎知識、礼儀、心構えを身に付ける。							
<b>成績評価の方法</b>							
実習先での評価 70点、70% 担当教員に提出する実習報告書(最終レポート) 30点、30%							
<b>テキスト</b>							
特になし							
<b>その他</b>							
特になし							
<b>講義内容</b>							
受講生が実習先の博物館で、実際の業務を体験することになる。 したがって、学内での授業時間は、そのための基礎知識・技術の習得が基本となる。 また、学外の博物館学芸員を訪問して話しを伺ったり、博物館のあり方について、受講生によるディスカッションをおこなう。							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
事前に受け入れ先博物館の調整・決定が必要なので、候補を探しておくこと。							
<b>取得可能な資格</b>							
博物館学芸員							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	学芸員(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 学芸員
科目名	博物館学実習
<p>実際に各自が受け入れ先博物館での実習体験を行なう。学内では、受講者によるディスカッション形式や、教員の引率による博物館訪問など、基本的に演習・実習形式で事前学習をおこなう。 博物館実習の座学時間は、講義の毎に、配布した資料を2時間以上かけて予習し、講義が終わった後は、2時間以上かけて復習をする。博物館実習へ行く前には、実習先の博物館を2回以上訪れ、1日2時間以上をかけて事前の学習をし、博物館見学後は1日2時間以上をかけて、博物館の展示内容や見学によって学んだ事項を復習する。 実習中も、毎日実習内容を含む学びの状況を日誌に書く。実習が終了した後は、実習で学んだことをレポートにまとめる。</p>	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	実習の目的の設定
第3回	博物館訪問(訪問先は相談によって決める)
第4回	ディスカッション
第5回	実習に必要な基本知識(1)
第6回	実習に必要な基本知識(2)
第7回	博物館での実習
第8回	博物館での実習
第9回	博物館での実習
第10回	博物館での実習

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	学芸員(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 学芸員	
科目名	博物館学実習	
第11回	博物館での実習	
第12回	博物館での実習	
第13回	博物館での実習	
第14回	博物館での実習	
第15回	実習報告書の作成	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	30	提出する実習報告書(最終レポート) 30点
その他	70	実習先での評価 70点

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		関連科目 関連科目					
科目名		情報特別演習A					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	選択
種類	実習	時間数		単位	4	授業回数	30
カリキュラム	2017	教室	オンライン	担当教員	安藤 友晴		
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITについての技術的な基礎知識を獲得する</li> <li>・ITが現代社会のなかでどのように活用されているか理解する</li> </ul>							
<b>成績評価の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・60%: 毎回の授業で、その授業の内容の理解度を確認する、あるいは簡単な調査をしてもらうことを目的としたリアクションペーパーの提出を求めます。(2点×30回)</li> <li>・40%: 授業内容について自分で考えた内容をまとめることを目的とした2回の小レポートを課します。(20点×2回)</li> </ul>							
<b>テキスト</b>							
坂下夕里. かんたん合格 ITパスポート教科書&必須問題 令和8年度. インプレス, 2025, p.480.							
<b>その他</b>							
この授業は育英館大学で行っている授業を収録し、オンラインで受講可能にしたものです。授業コンテンツがいつ公開されるかは、受講者に指定したWebサイトの内容をよく確認してください。							
<b>講義内容</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITは現代社会を生きるうえで必須となる知識です。</li> <li>・この授業では、社会的な評価が高い(=就職活動時に高く評価される)「ITパスポート試験」の試験範囲を中心に、ITの基礎知識を一年間で学習します。</li> </ul>							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
特になし							
<b>取得可能な資格</b>							
特になし							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	関連科目 関連科目
科目名	情報特別演習A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインによる講義形式で授業を実施します。</li> <li>・授業前に予習のための資料を提示します。およそ2時間が必要です。</li> <li>・授業後にはリアクションペーパーやレポートの作成を通して授業内容の復習を行います。およそ2時間が必要です。</li> </ul>	
授業計画	
第1回	コンピュータの基本
第2回	記憶装置
第3回	入出力装置
第4回	2進数 (1)
第5回	2進数 (2)
第6回	2進数 (3)
第7回	2進数 (4)
第8回	2進数 (5)
第9回	ソフトウェア
第10回	データベース (1)

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	関連科目 関連科目
科目名	情報特別演習A
第11回	データベース (2)
第12回	データベース (3)
第13回	ネットワーク (1)
第14回	ネットワーク (2)
第15回	中間まとめ
第16回	セキュリティ (1)
第17回	セキュリティ (2)
第18回	セキュリティ (3)
第19回	システムの導入 (1)
第20回	システムの導入 (2) / システム開発 (1)
第21回	システム開発 (2)
第22回	システム開発 (3) / プロジェクトマネジメント (1)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	関連科目 関連科目	
科目名	情報特別演習A	
第23回	プロジェクトマネジメント (2)	
第24回	企業活動 (1)	
第25回	企業活動 (2)	
第26回	企業活動 (3)	
第27回	ITの活用 (1)	
第28回	ITの活用 (2)	
第29回	財務と法律 (1)	
第30回	財務と法律 (2)	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	リアクションペーパー (2点×30回)
その他	40	小レポート (20点×2回)

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師						
科目名	日本語教授法 I						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年春学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C325・C326	担当教員	奥村 訓代		
<b>到達目標</b>							
国家試験2次応用問題に向けて							
<b>成績評価の方法</b>							
講義・実習・レポート・授業への参加度による総合判断							
<b>テキスト</b>							
特に指定のテキストはない。参考資料に関しては、必要に応じて適宜授業で連絡する。							
<b>その他</b>							
<b>講義内容</b>							
日本語教授法に関する基礎から応用まで							
<b>受講登録以前に準備すること</b>							
総合的な言語理解力と興味が要求される。特に第2言語の視点で日本語や日本語教育に関するアプローチが必要。							
<b>取得可能な資格</b>							
できるだけ多くの必要科目を受講しておく方が良い。							
<b>授業の方法</b>							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師
科目名	日本語教授法 I
<p>基本的には1週間前に出される課題に対し、調査・研究してくる反転授業。 そのため、予習と復習には3時間から4時間が必要であると考えてほしい。</p>	
授業計画	
第1回	授業全体に関する(到達度・意義・心構え・国家試験の全体像・・・)などに関するオリエンテーションを行う。
第2回	日本語教授法の歴史(1)1890年以前を中心に
第3回	日本語教授法の歴史(2)1890年以降1940年ころまでを中心に
第4回	日本語教授法の歴史(3)1940年から80年ころを中心に
第5回	日本語教授法の歴史(4)1980年以降を中心に
第6回	直接法と間接法:そのメリット・デメリット、TPOと実践に関して
第7回	帰納法と演繹法:そのメリット・デメリット、TPOと実践に関して
第8回	ティームティーチング:そのメリット・デメリット、TPOと実践に関して
第9回	テストに関して:プレースメントからアチーブメント、ルーブリック評価まで
第10回	教材と評価に関して:CEFR,can-do,ルーブリックまで

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師	
科目名	日本語教授法 I	
第11回	日本語教師への道:公認日本語学校、登録日本語教師、国家資格に関して	
第12回	日本語教師の役割:日本語教育推進法で明示されている内容を中心に	
第13回	日本語教育とAI利用に関して	
第14回	全体的なQ&A	
第15回	復習及び小クイズ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	30	全体的な流れと把握度をチェックする
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	出席はもとより、予習・復習の充実度、授業でも貢献度(参加度)などを総合的に評価する。
その他	20	基本的に変転授業につき予復習に授業の2・3倍の時間を必要とするので、真剣に取り組んでもらいたい。・その辺も総合評価の対象とする。